

学内広報

for communication across the UT



2007年(第57回)学生生活実態調査の結果

2008.12.5

No. 1380

目 次

調査の概要……………2	第2部 学生生活の背景
報告について……………2	1 家庭の状況……………20
第1部 学生生活の評価と将来の選択	2 生活費の状況……………22
1 入学・進学・学業……………5	3 通学・住居……………23
2 就職……………11	4 奨学金……………25
3 不安・悩み……………13	5 アルバイト……………26
4 大学への要望……………15	6 生活時間……………27
5 特殊分析（不安・悩み）……………17	具体的記述……………28
	資料1（第57回（2007年）学生生活実態調査票）…46

調査の概要

1. 調査票の作成

2007年（平成19年）5月から10月にかけて、学生生活委員会学生生活調査室で調査内容の企画立案を行った。

2. 調査の期間

2007年（平成19年）11月下旬～12月下旬。

3. 調査の対象及び抽出率

学部男子・女子学生。学部・科類別無作為抽出法で、在籍者数の1/4を抽出。

4. 調査の方法

郵送調査で行い、対象者自身が記入する（自記式）方法。

5. 調査の内容

I. 基本的事項、II. 入学・進学・学業、III. 就職、IV. 不安・悩み、V. 大学への要望、VI. 家庭の状況、VII. 生活費の状況、VIII. 通学・住居、IX. 奨学金、X. アルバイト、XI. 生活時間、XII. 具体的記述

報告について

1. 今回は、2006年（第56回）と同様に、学部男子・女子学生を対象として学生生活実態調査を行った。集計結果の分析に当たっては、学部学科間・年度間・男女間などの相違に注目し、特異な数値傾向の把握に努めた。
2. 学内広報掲載の報告については、資料2の集計表を省略した。集計表については、ホームページ掲載の報告を参照されたい。
3. 具体的記述については、記入したもののおよそ半数を掲載した。明らかに誤記と思われるものを除き、原文を尊重した。
4. 本文中の「ポイント」は、総数の百分率（パーセント）を表す。

グラフと表について

1. 今回、本文に掲載した経年変化のグラフと表については、1971年調査にまでさかのぼって取り上げた項目がいくつかあり、「表1」に1971年以降の調査の実施状況を表示した。
2. 本文中に掲げたグラフについては、それぞれの年の比較を見やすくするため「無回答」及び「その他の分類」の項目について若干の数値を省略したものがある。そのため、合計が100%に満たないものもある。また、個々の数値を四捨五入しているため、合計が100%に満たないものと100%を超えるものがある。
3. 1984年調査で抜本改正を行なった家計支持者の職業分類については、2002年調査に引き続き三重クロス集計（「職業」×「勤務先の規模」×「雇用形態」）の一元化を作成した。資料2「集計表V-5表」108ページを参照されたい。

表1 学生生活実態調査実施状況一覧表

回数	調査年月	対象学生	抽出率	対象者数	回収率	調査方法
				人	%	
第21回	1971年12月	学 部 男 子	1 / 4 · 1 / 15	797	67.3	郵送自記式
第22回	1972年11月	学部男子・女子	男子 1 / 15 女子 1 / 5	648 107	68.2 78.5	〃
第23回	1973年12月	学部男子・女子	男子 1 / 15 女子 1 / 2	794 340	76.2 75.0	〃
第24回	1974年11月	学 部 男 子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,004	67.8	〃
第25回	1975年11月	学 部 男 子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,041	75.3	〃
第26回	1976年11月	学 部 男 子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,063	75.5	〃
第27回	1977年11月	学 部 女 子	全 数	811	75.8	〃
第28回	1978年12月	大 学 院 学 生	男子 1 / 4 女子 全 数	862 315	66.1 66.3	〃
第29回	1979年11月	学 部 男 子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,069	78.6	〃
第30回	1980年11月	学 部 男 子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,064	73.8	〃
第31回	1981年11月	学 部 男 子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,031	74.2	〃
第32回	1982年11月	学 部 女 子	全 数	910	77.6	〃
第33回	1983年11月	学 部 男 子	1 / 5 ~ 1 / 15	1,008	75.0	〃
第34回	1984年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 10	1,380	76.1	〃
第35回	1985年11月	大 学 院 学 生	男子 1 / 2 ~ 1 / 4 女子 1 / 2 OM・OD 1 / 2	968 165 249	69.8 67.9 51.4	〃
第36回	1986年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 10	1,385	72.6	〃
第37回	1987年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 10	1,432	73.9	〃
第38回	1988年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 10	1,459	70.9	〃
第39回	1989年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 10	1,480	78.5	〃
第40回	1990年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 10	1,504	63.1	〃
第41回	1991年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 10	1,530	62.2	〃
第42回	1992年11月	大 学 院 学 生	男子 1 / 2 ~ 1 / 6 女子 1 / 2	1,496	59.8	〃
第43回	1993年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 10	1,593	64.8	〃
第44回	1994年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 8	2,005	60.6	〃
第45回	1995年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 8	2,011	64.0	〃
第46回	1996年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 8	2,004	60.9	〃
第47回	1997年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 8	1,990	60.2	〃
第48回	1998年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 8	1,964	60.3	〃
第49回	1999年11月	大 学 院 学 生	男・女 1 / 4 OM・OD 1 / 4	2,099	49.5	〃
第50回	2000年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 8	1,917	54.4	〃
第51回	2001年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 8	1,900	49.6	〃
第52回	2002年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 4	3,749	37.2	〃
第53回	2003年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 4	3,700	40.6	〃
第54回	2004年11月	大 学 院 学 生	男・女 1 / 4	2,539	40.6	〃
第55回	2005年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 4	3,534	38.7	〃
第56回	2006年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 4	3,455	32.8	〃
第57回	2007年11月	学部男子・女子	男・女 1 / 4	3,406	43.0	〃

(注1) 「休学者」「外国人留学生」は、対象学生から除かれている。1992年調査は「外国人留学生」を含む。

(注2) 1971年調査で、抽出率に2つの数字が掲げられているのは、前者は医学部であり、後者は医学部を除く他の学部である。また、1974年以降の調査で抽出率に幅がある場合は、学部（大学院）の規模により、その数字の範囲内で抽出率をそれぞれ定めている。

表2 2007年(第57回)学生生活実態調査回収状況一覧

学 部	男		子		女		子		全 体			
	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率
男女別	人	人	人	%	人	人	人	%	人	人	人	%
教養学部(前期)	5,269	1320	598	45.3	1,197	302	175	57.9	6,466	1625	773	47.6
文科小計	1,927	483	216	44.7	713	180	97	53.9	2,640	664	313	47.1
文科一類	668	168	78	46.4	197	50	32	64.0	865	218	110	50.5
文科二類	663	166	62	37.3	105	27	16	59.3	768	193	78	40.4
文科三類	596	150	76	50.7	411	103	49	47.6	1,007	253	125	49.4
理科小計	3,342	837	382	45.6	484	123	78	63.4	3,826	961	460	47.9
理科一類	2,261	566	279	49.3	195	49	30	61.2	2,456	615	309	50.2
理科二類	924	232	87	37.5	265	67	45	67.2	1,189	299	132	44.1
理科三類	157	40	16	40.0	24	7	3	42.9	181	47	19	40.4
法 学 部	877	220	87	39.5	245	62	32	51.6	1,122	282	119	42.2
経 済 学 部	657	165	59	35.8	115	29	14	48.3	772	194	73	37.6
文 学 部	512	129	35	27.1	278	70	36	51.4	790	199	71	35.7
教 育 学 部	133	34	20	58.8	93	24	12	50.0	226	58	32	55.2
理 学 部	538	135	65	48.1	67	17	8	47.1	605	152	73	48.0
工 学 部	1,797	450	152	33.8	155	39	17	43.6	1,952	489	169	34.6
農 学 部	495	124	39	31.5	161	41	17	41.5	656	165	56	33.9
薬 学 部	125	32	15	46.9	55	14	8	57.1	180	46	23	50.0
医 学 部	351	88	34	38.6	91	23	14	60.9	442	111	48	43.2
教養学部(後期)	242	61	21	34.4	107	27	10	37.0	349	88	31	35.2
合 計	10,996	2,757	1,125	40.8	2,564	649	343	52.9	13,560	3,406	1,468	43.0
2006年(第56回)調査	11,190	2,799	865	30.9	2,621	656	262	39.9	13,811	3,455	1,134	32.8

注) 1. 「在籍者数」は2007年(平成19年)8月1日現在の学生数(休学者、留学者、外国人留学生を除く)である。

第1部 学生生活の評価と将来の選択

1-1. 入学・進学・学業

1-1-1. 入学について

入学の希望は「東大にどうしても入りたかった」59.5%
入学の動機は「社会的評価が高いから」54.8%
入学時に進学希望学部を決めていたのは58.9%

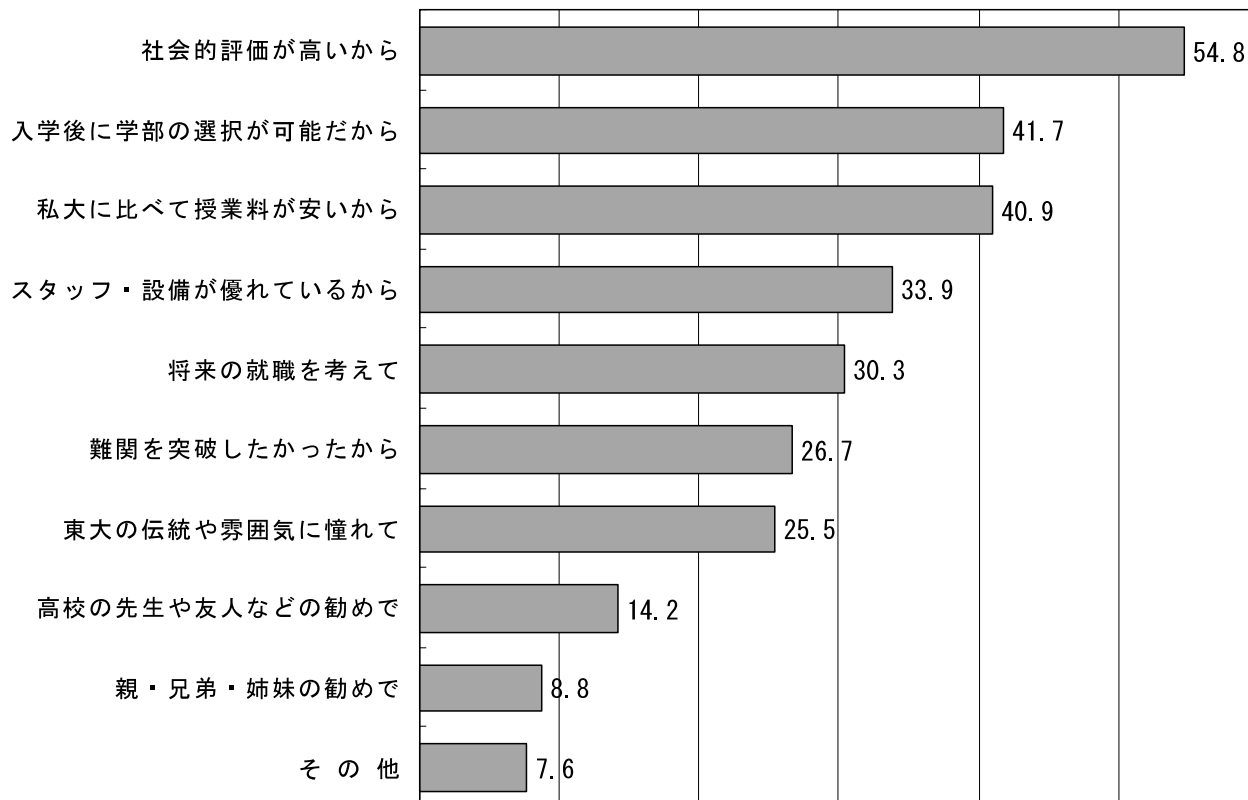
「東大に入学することをどの程度希望していましたか」の間では、「東大にどうしても入りたかった」という回答は、全体で59.5%、男子が62.0%で女子の51.3%を10.7ポイント上回り、「東大がダメなら他大学でもよいと思った」という回答は、女子が45.5%で男子の36.4%を9.1ポイント上回った。また、「どうしても入りたかった」という回答は、前回(2006年)調査と逆転して、男女共に文科系の方が理科系より高い割合となっている(集計表I-1表)。

「東大入学の動機」の間については、10の選択肢の中から3つを選ばせた。「東大の社会的評価が高いから」54.8%、「入学後に学部の選択が可能だから」41.7%、「私大に比べて授業料が安いから」40.9%が上位となっている(図1、集計表I-2表)。

「入学するときに進学する学部あるいは学科等を決めていましたか」の間に対しては、「学科等まで決めていた」24.7%、「学部のみを決めていた」34.2%、「学部学科等は決めていなかった」41.1%となっている。学部あるいは学科等まで「決めていた」学生は、文科系では69.7%で、理科系の50.6%より19.1ポイント多く、前回(2006年)調査より、文科系で0.9ポイント下がり、理科系で0.1ポイント上がっている(集計表I-3表)。

図1 東大入学の動機(3つまで選択)

単位：%



1-1-2. 進学について

「希望通り・ほぼ希望通り」進学決定（内定）したのは93.9%
在籍学部・学科等に「満足・まあ満足」している学生は75.5%
進学振分け制度「現行のままでよい」は39.4%

「学部・学科等の選択に際し、どのような点を重視しましたか」の間に対しては、7つの選択肢の中から2つを選ばせた。「自分が惹きつけられた学問分野であること」という回答が79.7%で、次に続く「就きたい職業に必要な能力を磨けること」29.7%、「社会に役立つ度合いの大きい分野であること」21.5%等の回答を大きく引き離しているのが注目される。

また、「最先端の学問が学べること」という回答は、教養（理系）では66%台、理学部では50%台、薬学部では47%台であるのに対し、教育学部では3%台と極めて低い割合でしかない。

「自分が惹きつけられた学問分野であること」という回答も、文科一・二類・理科三類やその上の法学部・経済学部・医学部では40%台から70%台の割合であるのに対し、文科三類や理科一・二類とその上の専門学部では80%台から100%の高い割合である。

「その学部・学科等の教員に魅力を感じること」という回答は、全体では11.7%の低割合であるが、前期課程では文科三類の21.6%が相対的に高く、他は概ね10%以下の水準である。後期課程でも、文科三類上の文学部が39.4%、教養学部文科系が35.7%と比較的高い水準にある。

「社会に役立つ度合いの大きい分野であること」という回答は、全体では21.5%で、男女間の相違は目立たないが、法学部・経済学部・農学部・薬学部・医学部で30%台から40%台の比較的高い割合であるのに対して教養（理系）で0%、文学部で1.4%と際立って低割合なのが目立つ。

「就きたい職業に必要な能力を磨けること」という回答は、全体では29.7%であるが、文科一類と文科二類で50%以上の高い割合であるのが目立つ（集計表I-4表）。

「進学の決定（内定）について」の間では、「希望通り決定（内定）した」「ほぼ希望通り決定（内定）した」「希望通りでなかった」の3つの選択肢から1つを選ばせたが、「希望通り決定（内定）した」83.3%と「ほぼ希望通り決定（内定）した」10.6%を合わせると、希望通り進学（内定）したと回答した学生が93.9%となり、前々回（2005年）調査の93.7%、前回（2006年）調査の94.8%とほぼ同様の高い値を示している（集計表I-5表）。

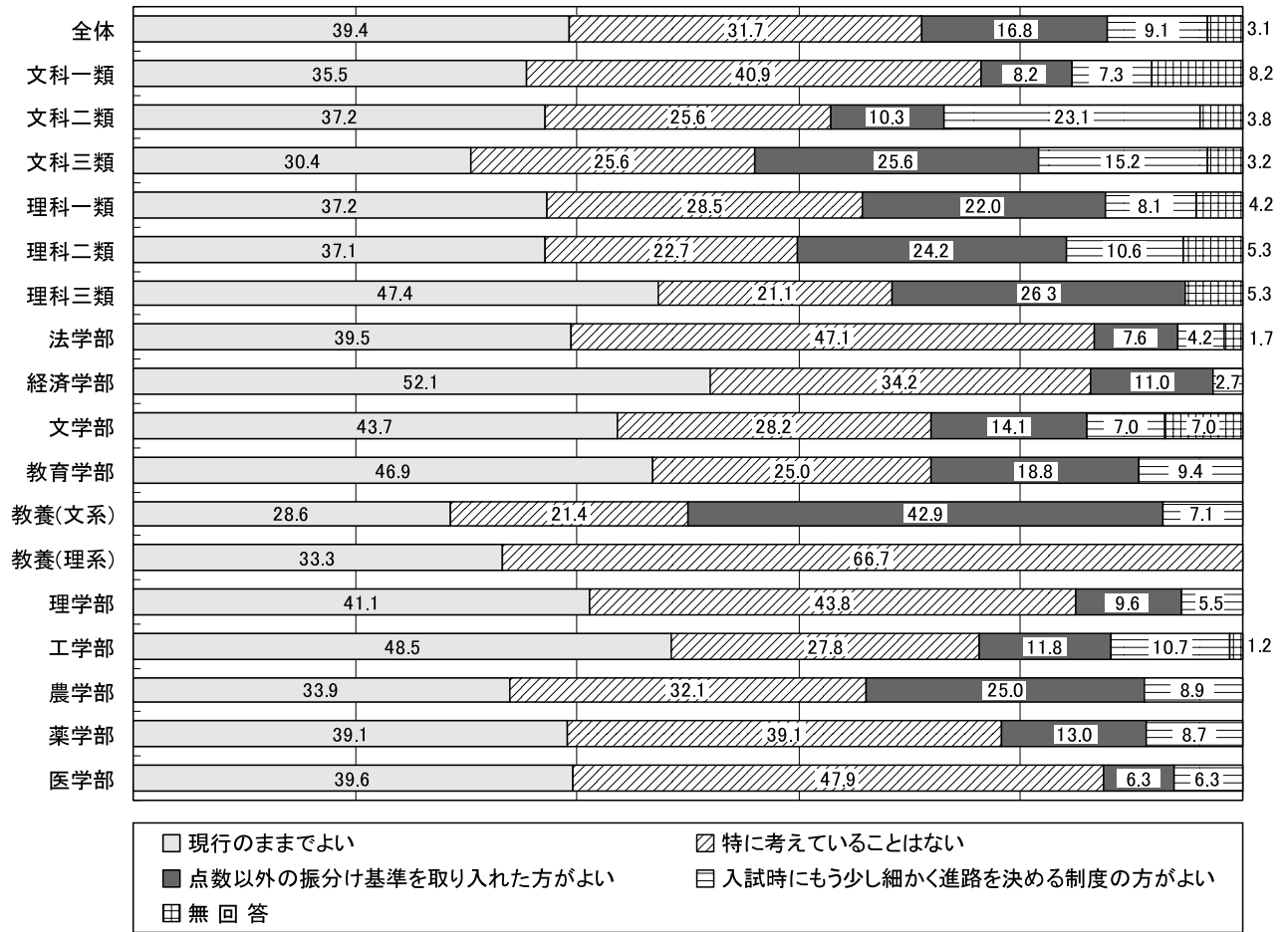
無回答者を除外した場合、希望通り進学したと回答した学生の割合が上述よりも高いことになる。しかしその一方で「希望通りでなかった」と回答した学生が、薬学部で13.0%、農学部12.5%と決して低くないのが目立つ（集計表I-5表）。

「現在在籍している学部・学科等（科類）に満足していますか」の間に対しては、「満足している」が40.8%、「まあ満足している」が34.7%で、これらを合わせると75.5%となり、満足している学生が94年調査以降70%前後の水準を保っている（集計表I-6表）。

「進学振分け制度についてどのように考えていますか」の間に対しては、「現行のままでよい」と「特に考えていることはない」を合わせた割合が1997年（47回）調査から2003年（53回）調査までは42.2%から50.8%であったものが前々回（2005年）調査で68.7%、前回（2006年）調査で68.0%、今回（2007年）調査で「現行のままでよい」39.4%と「特に考えていることはない」31.7%を合わせた割合が71.1%で前々回調査以前よりも20ポイント前後増加している（図2、集計表I-7表）。

図2 進学振分け制度についての要望

単位：%



安田講堂前広場

1-1-3. カリキュラムについて

カリキュラムに「満足・まあ満足している」は56.5%
カリキュラムの消化が「できる・まあできる」は78.9%

「現在のカリキュラムに満足しているか」の間に対しては、「総じて満足」（「満足」と「まあ満足」の計）56.5%が「総じて不満」（「やや不満」と「不満」の計）22.9%を上回っている。90年調査では「総じて不満」が20ポイント程上回ったが、94年調査以降は逆転し、次第に「総じて満足」が多くなった。前回（2006年）調査ではその差が22.5ポイントであったが、今回の調査ではその差は少し広まり33.6ポイントになった。「総じて満足」が文学部で76.1%と高いこと、「総じて不満」が文科二類で42.3%の高い割合であることなどが目立つ（図3-1、集計表I-8表）。

「カリキュラムは消化できるか」の間に対しては、「総じてできる」（「できる」、「まあできる」の計）と回答した学生は78.9%になり、前回調査より1.8ポイント下がっている。他方、カリキュラムの消化に困難を感じる学生は19.1%で、前回調査より1.5ポイント上がっている。「多少困難」という回答が文科二類で29.5%の高い割合なのが目立つ（図3-2、集計表I-9表）。

「カリキュラムの消化が総じて困難な理由」については、前回調査と同様に「講義の内容が高度すぎて理解できない科目がある」55.7%が第1位で、これに「授業への自分の意欲や努力が足りない」40.4%、「授業の予習と復習の時間が十分とれない」38.9%、「教育上の指導助言が十分でない」30.7%が続いているが、3位までは前回調査と同順になっている（集計表I-10表）。

図3-1 現在のカリキュラムに満足していますか

単位：%

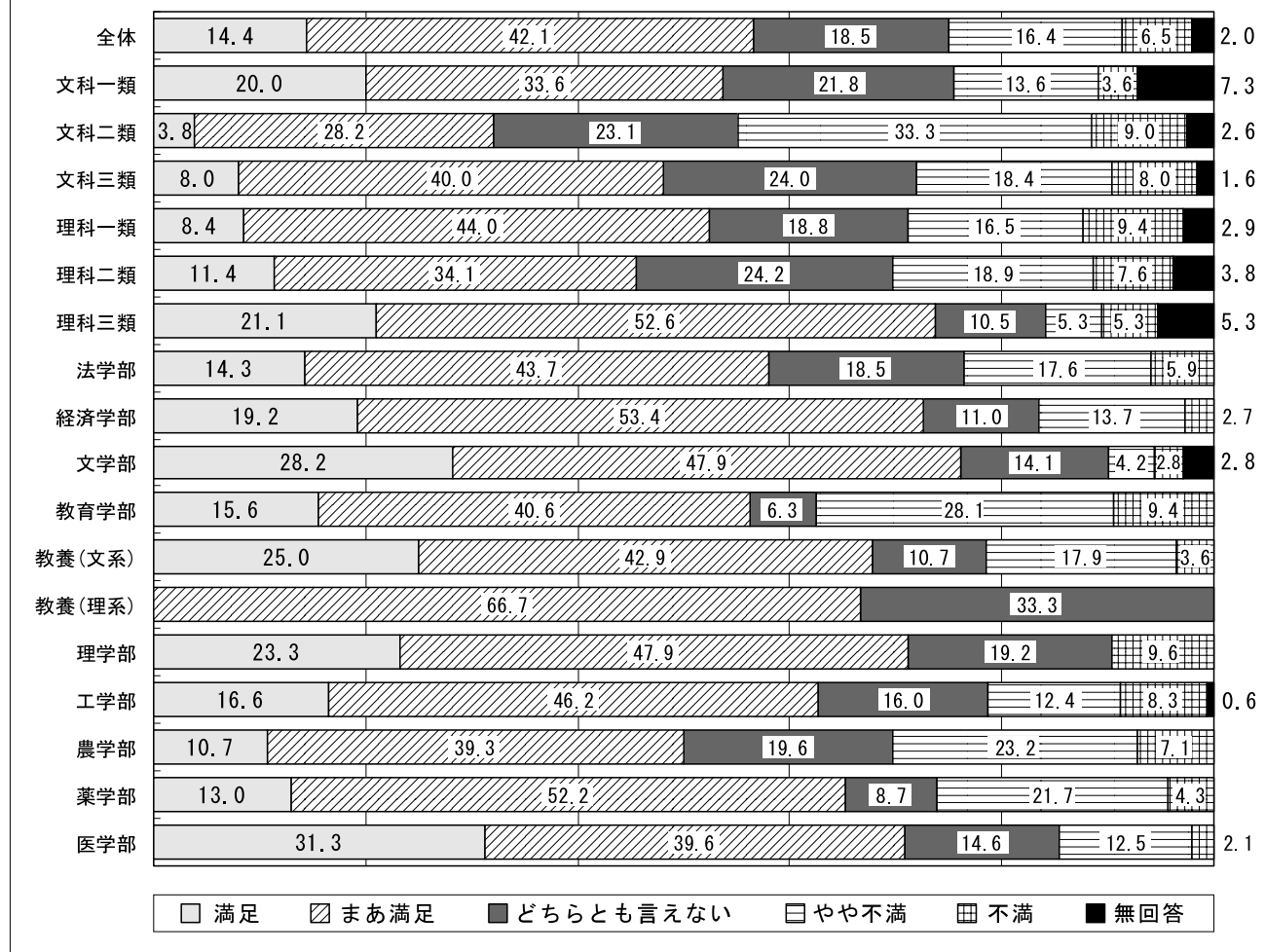
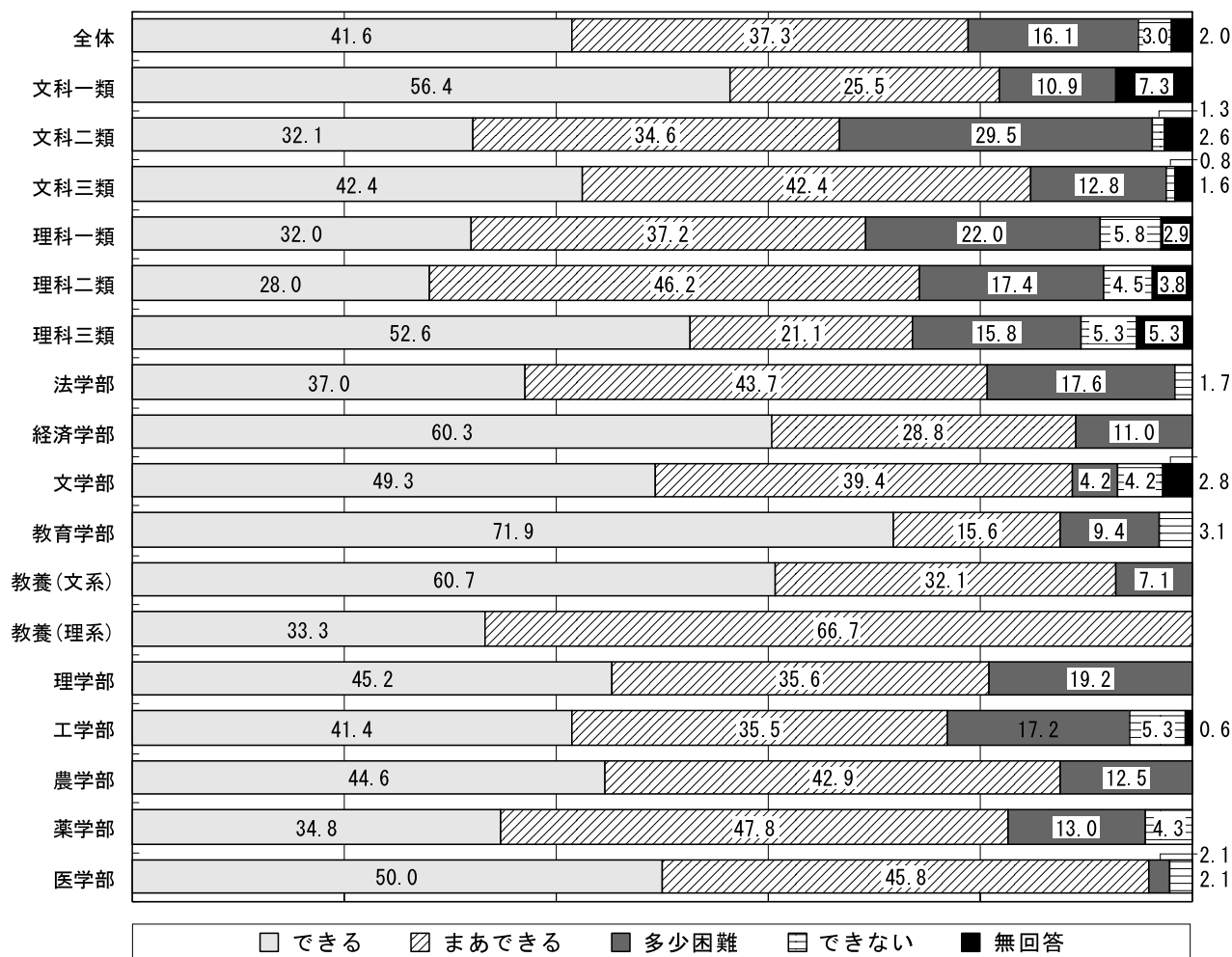


図3-2 現在のカリキュラムは消化できますか

単位：%



1-1-4. 学部卒業後の進路予定について

文科系は就職希望者が49.4%、理科系では大学院進学希望者が約70%を超える
 大学院進学希望者では、文科系の専門職学位課程を希望する者が30%を超える
 主な大学院進学の理由第1位は、「より高度の知識・技術を身に付けるため」で69.5%

「学部卒業後、どのような進路を予定しているか」については「大学院に進学する」52.7%、「就職する」28.7%、「まだ決めていない」14.6%で、前回調査より「学士入学をする」を含めた「進学する」が1.8ポイント増加し、「就職する」が2.3ポイント減少し、「まだ決めていない」が0.8ポイント増加している。文科系と理科系の比較では、「進学する」は理科系70.1%に対し文科系30.0%、「就職する」は文科系49.4%に対し理科系12.9%と、割合が逆転している（図4、集計表I-11表）。

「学部卒業後の進学予定」については、「大学院修士課程」までが64.0%、「大学院博士課程」までが26.4%、「専門職学位課程」までが9.0%となっている。文科系では、専門職学位課程への進学を希望するものが、30.9%に上っている（集計表I-12表）。

「大学院に進学する理由」については、2つまでを選択させたが、「より高度の知識・技術を身に付けるため」が

69.5%で最も多く、「良い就職先を得るため」22.7%、「まだ社会に出たくないから」14.1%、「大学外で研究職に就くため」13.8%と続いている。「必要な資格を得るため」が文科系男女に多く、「まだ社会に出たくないから」が理科系の男子に多いのが目立つ（図5、集計表I-13表）。

図4 学部卒業後の進路

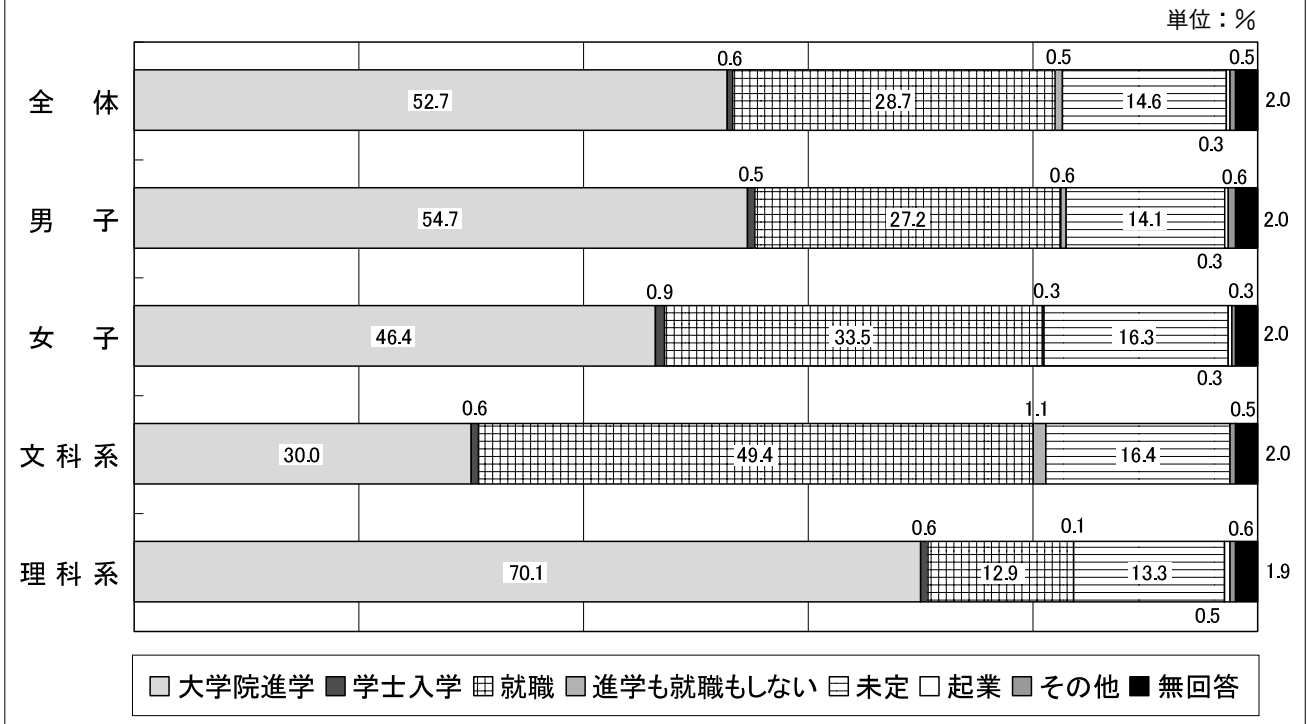
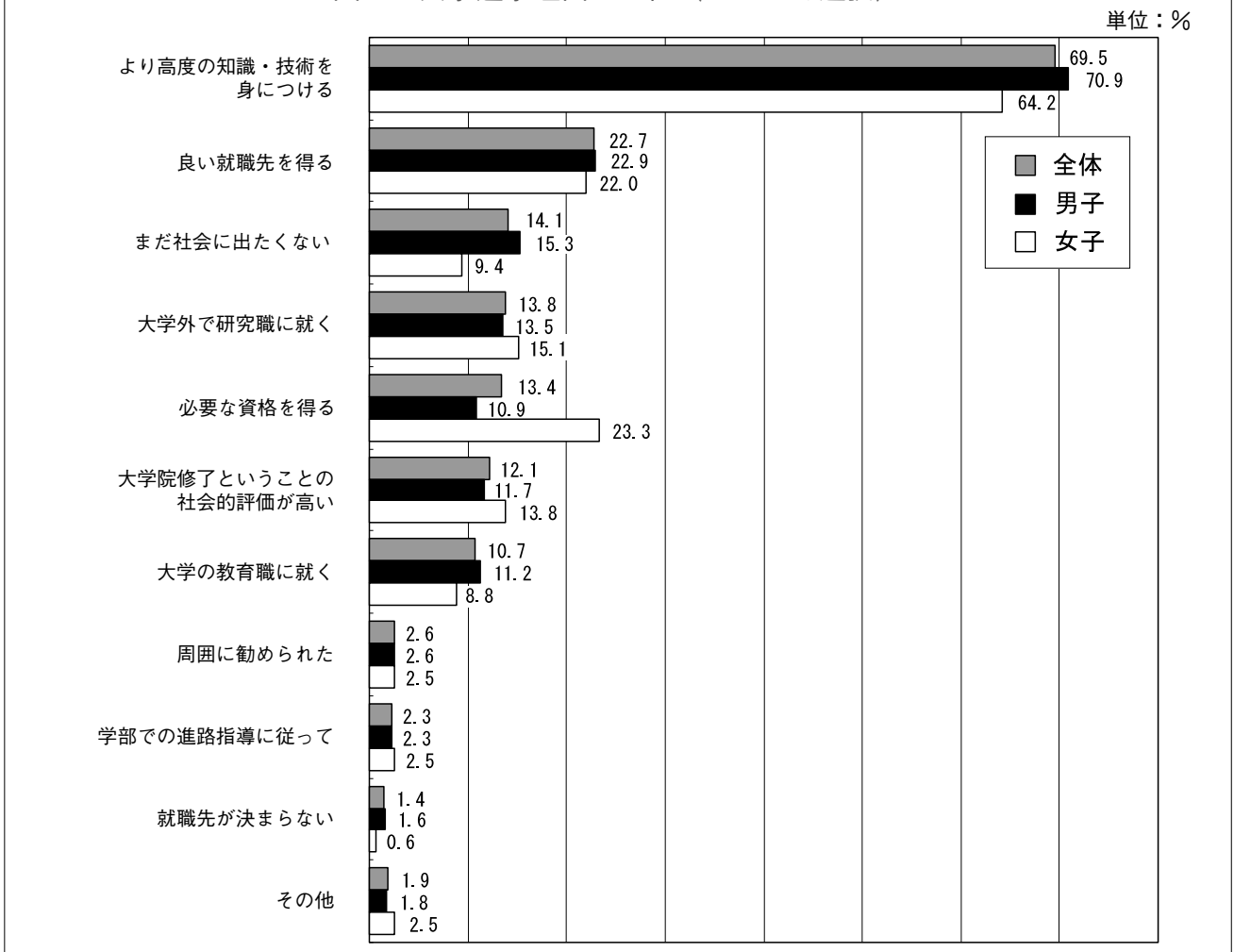


図5 大学進学理由の上位（2つまで選択）



1-2. 就職

希望職種は「大学・公的機関の教育・研究職」40.4%
 希望職種に就きたい理由は「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」61.9%
 仕事や職場を選ぶ際に重視することは「やりがいがある」65.9%

どのような職業に就きたいかの質問に対する回答としては、前回（2006年）調査と同様「大学・公的機関の教育・研究職」が40.4%で最も多く、これに「企業等の研究職」40.3%が続いている。また、「教育・研究職」を除くと、「専門職（医師、法曹、公認会計士等）」が33.0%、「行政職（公務員）」が30.9%が続いている。特に理科系は「企業等の研究職」を望む学生が男子62.5%、女子66.2%、「大学・公的機関の教育・研究職」を望む男子が54.1%、女子44.4%と文科系よりかなり多いが、文科系は男子が「専門職」48.3%、「行政職（公務員）」44.6%を、女子が「専門職」45.3%、「行政職（公務員）」40.8%と理科系よりかなり多い。理科系では第1位、第2位とも「企業等の研究職」、「大学・公的機関の教育・研究職」と研究職志向が高い。文科系では「専門職」「行政職（公務員）」への志向が高くなっている。（図6-1・2、集計表II-1表）。

希望の職業に就きたい理由も前回調査と同順で、「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」が61.9%で最も多く、「人を助けたり社会に奉仕する」42.2%、「安定した生活が保証されている」33.9%がそれに続いている。職種の希望で文科系・理科系の差が大きかったのに比べ、ここでは両者の差が小さいことが特徴である（集計表II-2表）。

仕事や職場を選ぶ際に重視するものも前回調査とほぼ同順で、「やりがいがある」が65.9%、「給料がよい」41.4%、「能力が発揮できる」36.0%、「技術や知識を身につけられる」18.1%と続いている。また、「仕事を行う上で男女の差別がない」を選んだのが、男子の0.6%に対し、女子は20.4%と4位を占め、男女差が際立っている（集計表II-3表）。

就職活動をしたことがありますかの間には、「ある」と回答した学生が全体では18.8%、後期課程でも女子が46.4%、男子が35.9%と、半数にも満たない（集計表II-4表）。

就職活動としては、「インターネット等で、情報を収集する」97.1%、「企業等のセミナーや説明会に参加する」90.9%が他の選択肢を大きく離している（集計表II-5表）。

就職する場所としては、前回調査と同様に「東京圏（東京近郊）を希望する」が54.5%と過半数を超えている。男女別では、男子の51.9%に対して女子が63.0%で6割を超えている。「海外を希望する」学生は低率ながら、前回の5.3%から5.0%に減少している。特に女子の前期課程では6.9%と高いが、後期課程では1.8%と激減している（集計表II-6表）。

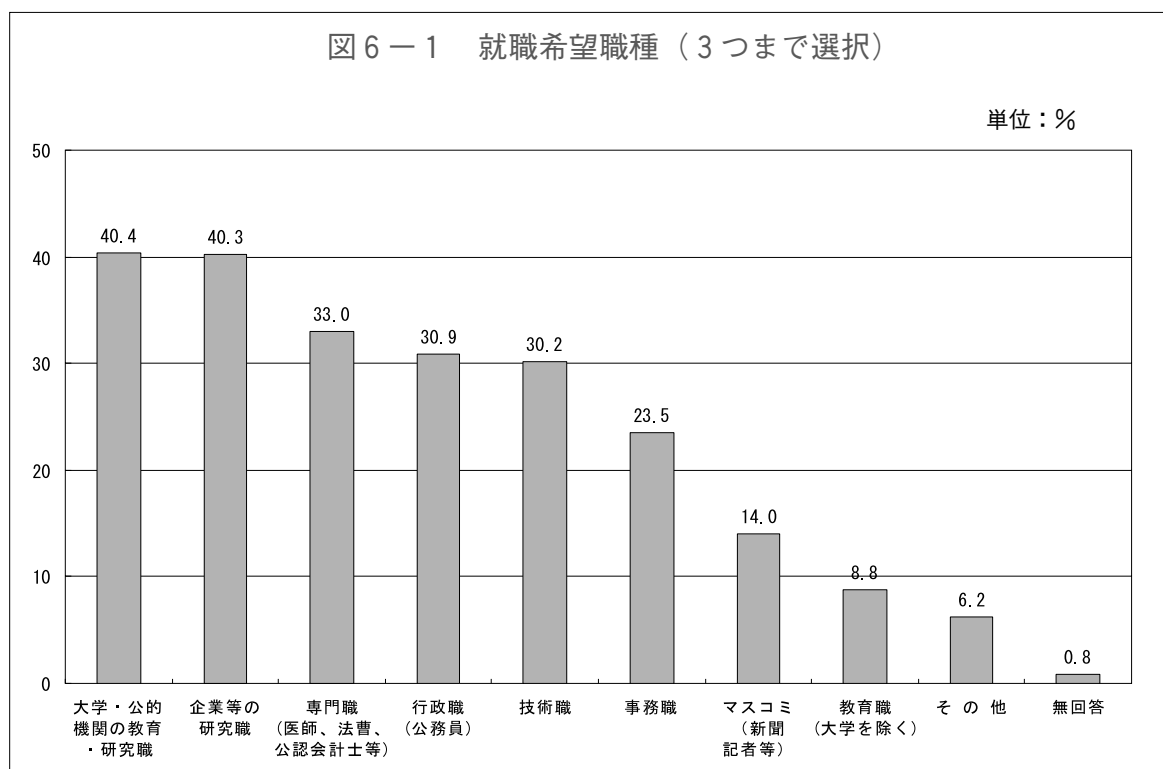
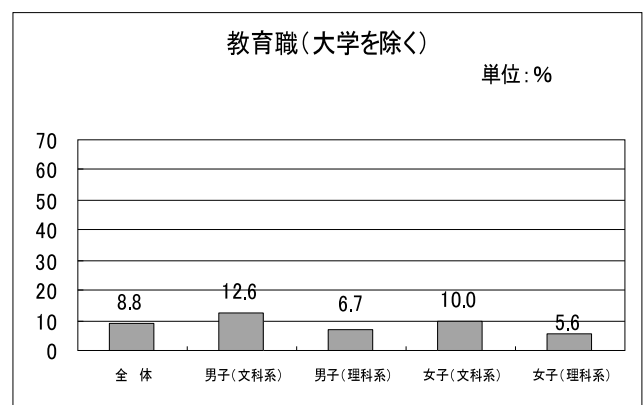
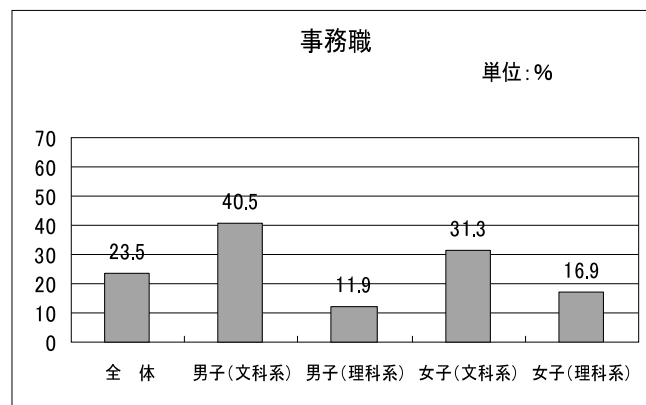
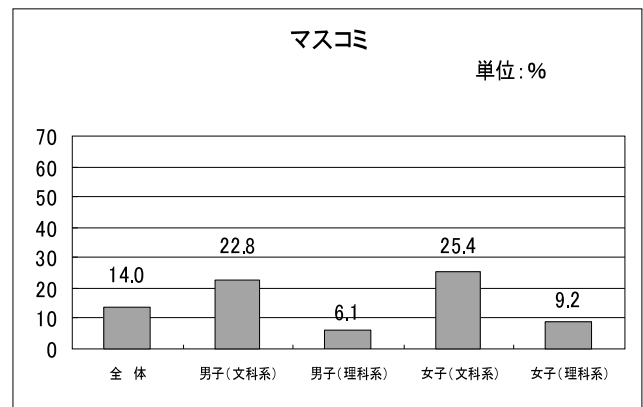
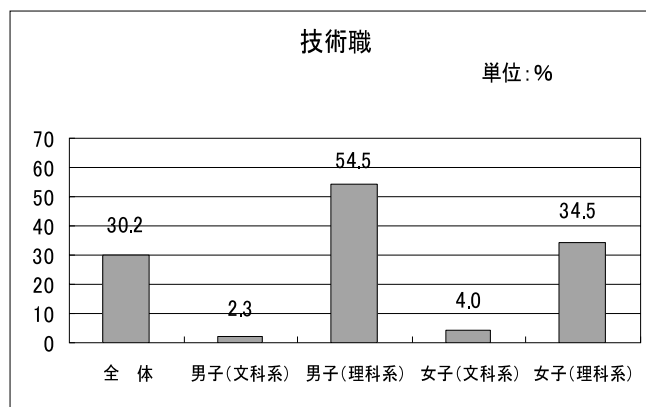
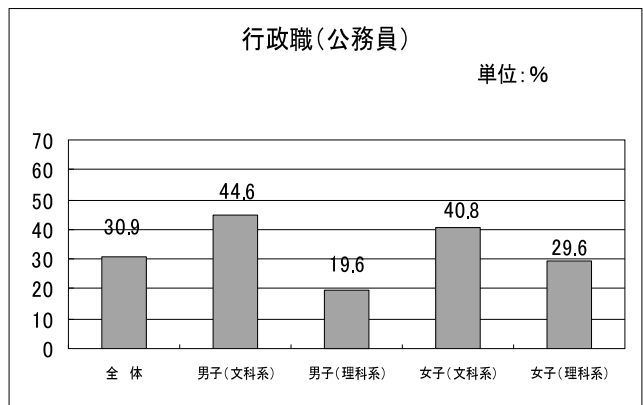
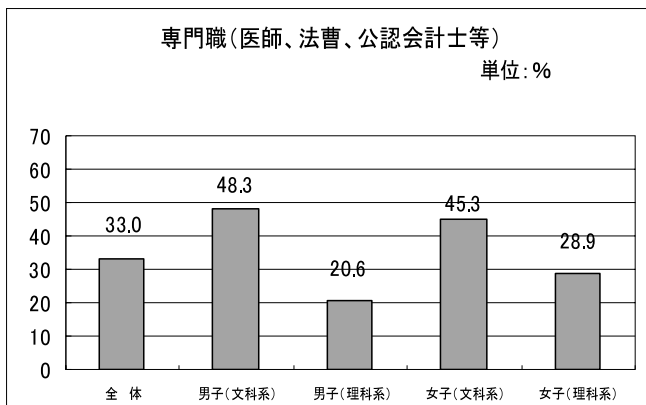
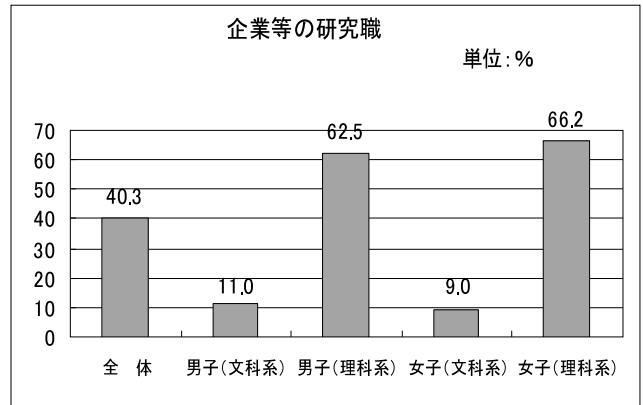
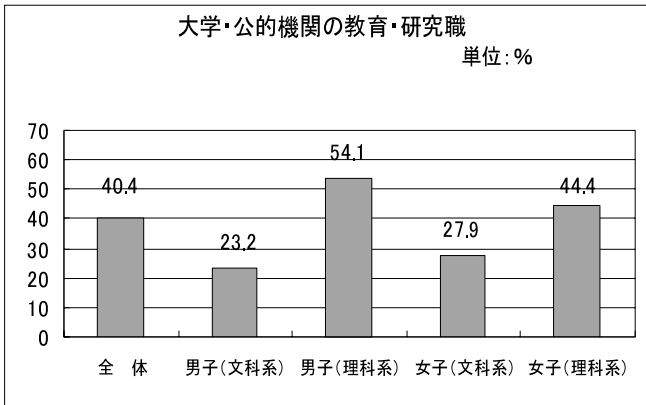


図6-2 就職希望職種（職種別内訳）



1-3. 不安・悩み

「将来の進路や生き方」に80.6%の学生が悩みや不安を感じている
「よく相談する」相談相手は、父母、恋人、大学内のサークルや団体の友人
「就職指導や進路相談の機能を充実させる」を67.7%の学生がそう思っている

学生生活の中で、悩みや不安を感じたりしているものとして、「よく悩む」と答えたものをみると、「将来の進路や生き方」が44.3%で最も多く、「就職」30.3%、「人生の意義・目標」25.1%、「勉強」24.5%と続き、「ときに悩む」を加えると実に80.6%の学生が「将来の進路や生き方」に悩んでいることになっている。また、「よく悩む」「ときに悩む」と答えた学生の男女の比較では、全ての項目で女子が上回っている。特に、「就職」については、6.4ポイント上回っている（図7、集計表Ⅲ-1表）。

不安や悩みの相談相手では、「よく相談する」相手は、「父・母」が14.6%と1位で、「恋人」13.8%、「大学内のサークルや団体の友人」が13.4%、「大学外の友人」が12.4%、と続き、「大学の教職員」は0.5%で最下位となっている。また、「ときどき相談する」「たまに相談する」と答えた学生も合わせると、「父・母」77.6%、「大学外の友人」70.7%、「大学内の同じ学科や研究室の友人」69.5%、「大学内のサークルや団体の友人」67.4%と続く。「恋人」については、恋人がいない学生は答えようがないためか38.7%と順位を下げている（集計表Ⅲ-2表）。

最近6ヶ月の間に、体験したり悩んだりしたこととしては、「よく体験する」「ときに体験する」と答えた学生を合わせると、「強い不安に襲われた」50.3%、「気分が落ち込んだり、何にも興味が持てなくなった」40.2%、「やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった」38.5%が上位となっている（集計表Ⅲ-3表）。

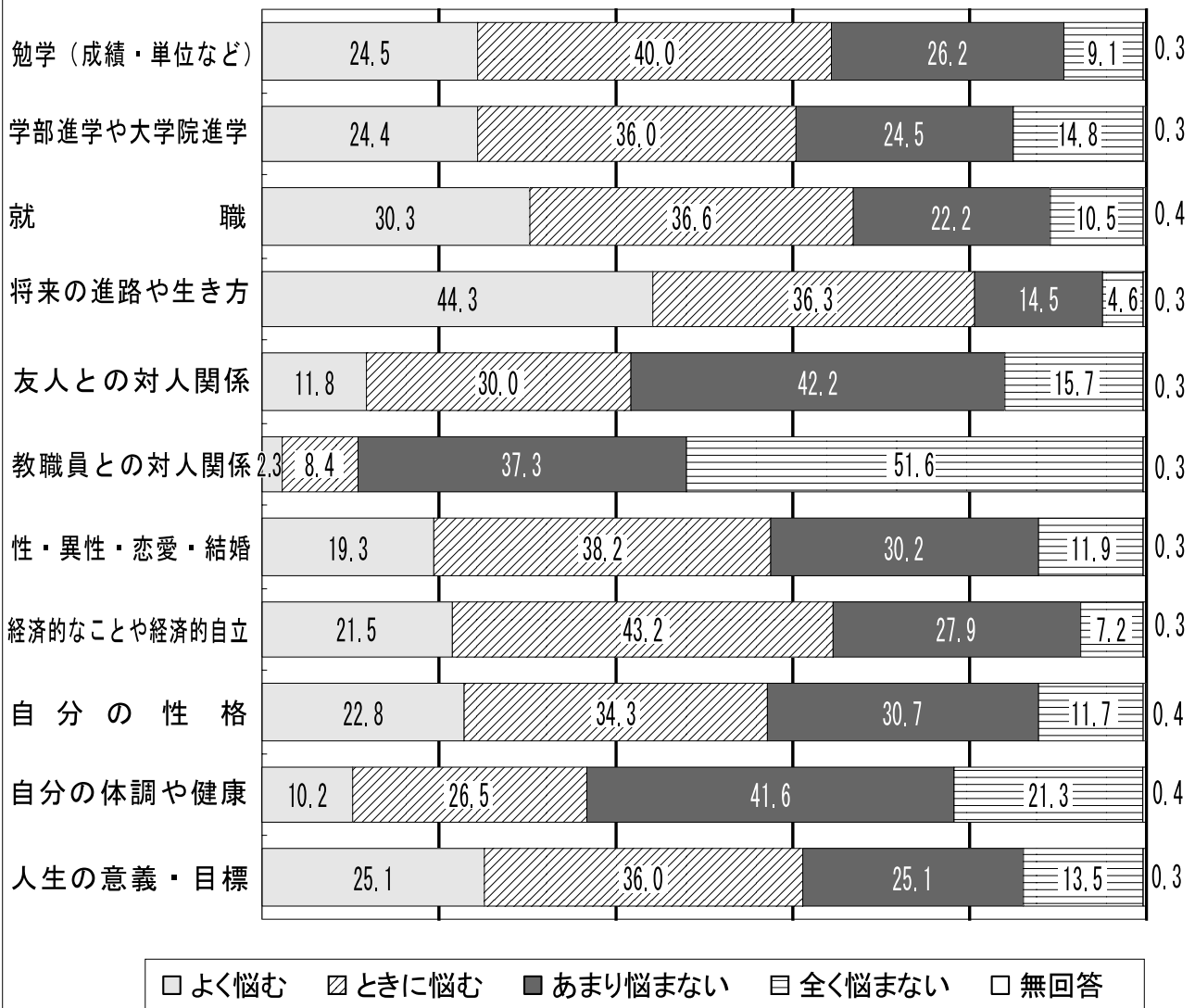
悩みや不安を解消するために大学の対応として望むこととしては「全くそう思う」「まあそう思う」と答えた学生を合わせると、「就職指導や進路相談の機能を充実させる」67.7%、「奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する」65.6%、「学部進学や大学院進学について相談機能を充実させる」63.6%が50%を超えている（集計表Ⅲ-4表）。



御殿下グラウンド

図7 悩み・不安の程度

単位：%



1-4. 大学への要望

「授業の方法の工夫・改善」が第1位、「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」が2位
「カリキュラムの改革」、「図書館の充実」、「就職対策の充実」、「単位認定や学年試験を緩やかに」が続く
大学の社会的貢献では「基礎研究を充実させる」、国際化では「研究者の交流をより積極的に進める」が第1位

大学への要望や期待することは、第1位に限って比較すると、「授業の方法の工夫・改善」が36.4%で前回（2006年）調査同様最も多く、次いで「奨学金・育英貸付金などの拡充や増額」33.9%、「カリキュラムの改革」29.1%、「図書館の充実」22.4%、「就職対策の充実」22.2%が上位で20%以上を示している（図8）。10年前（1996年、1997年）のアンケート調査では、「教室・実験室の充実」が35%以上と最も多かったが、今回の調査では「教室の充実」が20.4%、「実験室や実習室の充実」が10.4%と低下の傾向にあり、この10年間の改善の努力が実をあげたといえよう。

前期課程については、文科一類、理科一類、理科二類で「授業の方法の工夫・改善」が、文科二類、理科三類で「カリキュラムの改革」が、第1位となっている。一方、後期課程では、法学部・経済学部・教養学部（理系）・工学部・医学部・教育学部で「授業の方法の工夫・改善」が第1位とカリキュラムや授業に関する要望が多いのに対し、農学部では「就職対策の充実」、文学部・教養学部（文系）・理学部・薬学部は「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」が第1位となっていて、それぞれの学部によって違いを見せている。また、文学部・教養学部・農学部などの複数の学部で、図書館の充実を求める声が強いは特筆に値する（集計表Ⅳ-1表）。最近、進学振り分け制度の改革を行ったが、この要望は例年と大きな差異は見られなかった（なお、1.5の特殊分析「東大生の不安と悩み」に関連の分析が行われている）。また、これに伴い、多くの学部でカリキュラムの見直しが行なわれたことから、今後カリキュラムや授業に対する要望がどのように変動するか注目される。

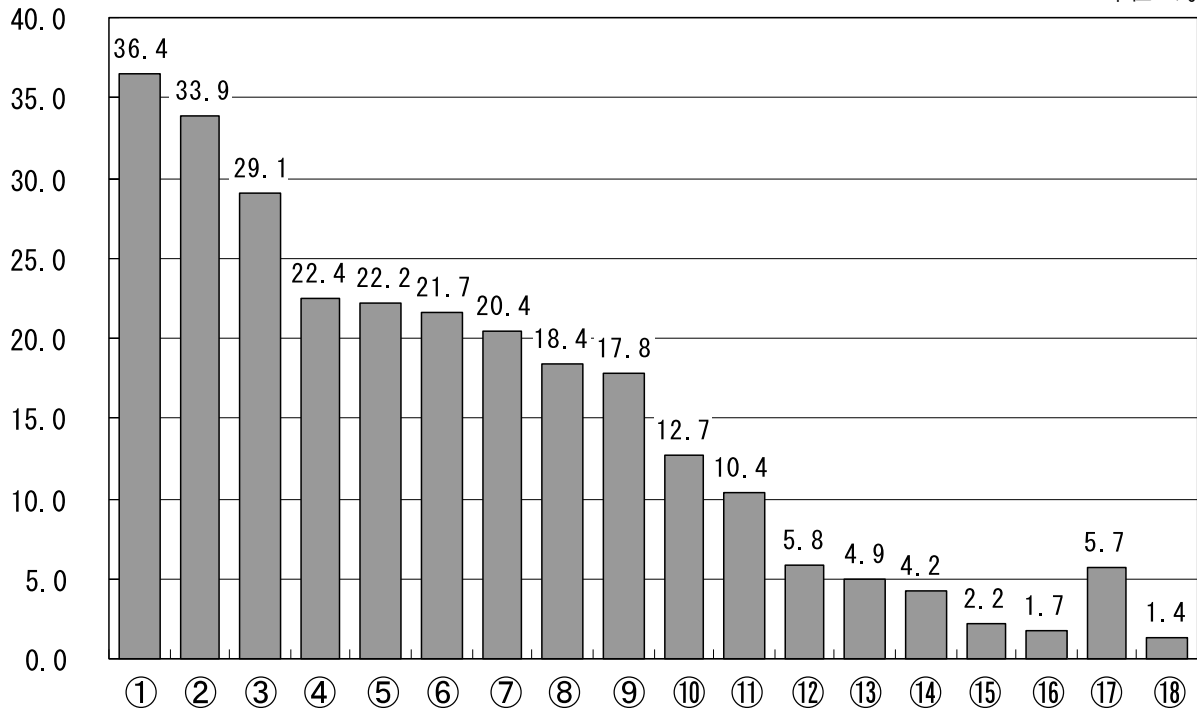
大学の社会的貢献を促進または国際化を推進するための関連する事項としては、「非常に重要」「かなり重要」「重要」を合わせてみると、社会的貢献を促進するための事項は、「基礎研究を充実させる」83.8%、「産学協同をより推進する」78.6%が上位となっており、経済効果をあげるような教育を大学教育の第一の使命と考える経済産業界の風潮とやや異なりを見せている。また、研究の国際化を推進するための事項では、「非常に重要」「かなり重要」「重要」を合わせると、全4項目が8割を超えた。特に、「研究者の交流をより積極的に進める」92.3%、「日本から外国へ留学する機会をもっと拡大する」が90.7%と9割を超える結果となっており、社会のグローバル化を良く反映している（集計表Ⅳ-2表）。



改修を待つ御殿下記念館モール街（左側）※数年後には学生の交流スペースと生まれ変わる。

図8 大学への要望や期待（3つまで選択）

単位：％



- ①授業の方法の工夫・改善 ②奨学金の拡充や増額 ③カリキュラムの改革 ④図書館の充実
- ⑤就職対策の充実 ⑥単位認定や学年試験を緩やかに ⑦教室の充実 ⑧進学振分け制度の改善
- ⑨小人数教育の実施 ⑩教育スタッフの充実 ⑪実験室や実習室の充実 ⑫カウンセリング・相談体制の充実
- ⑬キャンパスの拡大・移転・統合 ⑭単位認定や学年試験を厳しく ⑮学生自治の尊重 ⑯学生自治に対する適切な助成と助言
- ⑰その他 ⑱無回答

1-5. 特殊分析 東大生の不安・悩み

1. はじめに

今回の特殊分析のテーマは、東大生の不安・悩みである。世間一般からは、「東大生の多くは、希望の大学に合格して好きな勉強をしているのだから不安や悩みなどはないであろう」とみられているのかもしれない。しかし、実際には、東大生もさまざまな不安や悩みを抱えている。そこには、普通の青年としての不安や悩みもあるであろう。また、東大生ゆえの不安や悩みもあるであろう。学生実態調査では、これまで「不安・悩みについて」と題した質問項目があり、「不安・悩み」についてはそこで直接尋ねていた。

しかし、学生の不安や悩みは、直接意識できるレベルのものだけでなく、学生生活をする中で日々体験していくレベルのものもある。そこで、本稿では、学生実態調査における他の項目の質問への答えから推測できる生活レベルでの不安や悩みにも含めて幅広く論を進めていくことにする。その際、入学から卒業・就職といった、東大生が経験する時系列をおって生活のトピックを取り上げ、それとの関連で不安や悩みを分析することにする。

2. 不安や悩みの対象

学生生活において、何に悩みや不安を感じるのかという問に対して、「よく悩む」として挙げられたものをみると、最も高いのが「将来の生き方や進路」の44.3%、次が「就職」で30.3%となっている。このことから進路決定が東大生の主要な不安・悩みの要因となっているといえよう。「よく悩む」と「ときに悩む」を加えた割合をみると、やはり「将来の生き方や進路」が最も高く80.6%、次に「就職」が66.9%となっている。そして、「経済的なことや経済的な自立」が64.7%、「勉強」が64.5%と続いている。

なお、勉強については、前期課程と後期課程ではその程度が随分と異なっている。前期課程→後期課程を比較すると、男性が65.9%→57.9%、女性が81.7%→61.9%といずれも減少している。これは、進学振り分けのプレッシャーが強いことを示しているといえよう。

3. 入学に関連して

東大への入学希望の問に対して「東大にどうしても入りたかった」と答えた人は、全体で59.5%（男子62.0%、女性51.3%）となっている。他の大学においては、不本意入学ということで大学に入学すること自体が悩みとなってしまうことがある場合を考えるならば、入学時点での東大生の悩みは比較的少ないといえるであろう。

しかし、まったく問題がないかという問、そうではない。入学時に進学する学部あるいは学科などを決めていたかという問に対して「学部学科等を決めていなかった」は41.1%となっている。これが、この後に問題となる進路決定のテーマと関わっている。多くの青年にとって、自分の人生の方向を決めることになる進路決定こそが悩みや不安の要因になるからである。しかも、東大には、後述する進学振り分け制度が存在する。ここで、再度、進路決定と関連して自らの“成績”が評価されることになる。

4. 入学後の学業との関連で

希望に満ちて大学に入学した学生がまず直面するのは、大学の学業の難しさである。高校生のようにクラス単位で授業時間が決まっているわけではなく、しかも担任が指導してくれるというわけではない。学生は、必修科目等を勘案して自らが選択する授業科目を決めていかなければならない。しかも、授業は、かなり高度である。さらに、進学振り分け制度があり、学業成績によっては、自らの志望する進路に進むことができないことも十分にありえる。このような状況の中で学生の不安や悩みが高まってくることは容易に想像できる。

カリキュラムは消化できるかという問に対して、「できる」と答えた学生は41.6%であり、逆に「カリキュラムの消化が多少困難、あるいはできない」と答えた学生は19.1%である。消化が困難な理由は、「講義の内容が高度すぎて理解できない」という反応が55.7%となっている。約5人に一人の学生が授業の内容についていくのに困難を感じており、これも学生の悩みや不安の種となっていると考えられる。

これと関連して注目されるのが学習時間の推移である。1997年の勉強時間は、一日456.4分であった。ところが、2000年には492.4分、そして2007年544.6分と年々勉強時間が増えている。これは、単純に東大生が勤勉になったとみることもできる。しかし、逆に学業について不安を覚えて勉強時間が増えているとみることもできるかもしれない。

5. 就職との関連で

就職活動は、学生にとっては最も重要な関心事であろう。年々、“就活”と呼ばれる就職活動の開始時期が早くなっている。最近では、大学3年生のはじめ頃から活動が始まっていると聞く。そのような中で東大生の場合、進学振り分けが終わったと思った矢先に、就職活動に取り組みなければならない状況になっており、その点で就職・進学が悩みや不安の種になっている可能性が十分に考えられる。

学部卒業後どのような進路を予定しているかについての問に対しては、「大学院に進学する」が52.7%、「就職する」が28.7%、さらに「決めていない」が14.6%となっている。東大生の特徴として、大学院に進学するのかがどうか、ひとつ大きな判断となる。また、大学院進学については、理系が70.1%、文系が30.0%となっている。したがって、特に文系の学生は、理系の学生に比して就職活動を幅広く考える傾向があり、その点で迷いや悩みが生じる可能性が高いと考えられる。今年度から大学院の経済的支援制度も導入されたということもあり、学生にとっては大学院進学を含めて、就職・進学の判断は難しいものになっていくと予想される。

6. 悩みや不安の現れ方

調査項目の中には「最近6ヶ月の間に、次の項目について、体験したり悩んだりしましたか」というものがあり、そこで取り上げられている内容は以下の状態である。()には、「よく体験する」と「ときに体験する」と答えた者の割合の合計を示し、その割合が高い順に並び替えた。

「強い不安に襲われた」(50.3%：男47.7% 女59.2%)

「気分が落ち込んだり、何も興味がもてなくなった」(40.2%：男37.0% 女50.4%)

「やる気がなくなり、無気力状態(アパシー)になった」(38.5%：男36.8% 女44.0%)

「人と話していてもとても緊張したり、不安を感じた」(36.6%：男35.7% 女39.6%)

「自分でもバカらしいと思う考えが浮かんだり、自分のすることを何度も確かめてみなければならなかった」(35.7%)

「人と一緒にいてもさびしい感じがした」(34.6%)

「つい過食してしまう傾向があった」(27.6%)

「イライラしたり、物を壊したり人を傷つけたりしたい衝動にかられた」(24.0%)

「他の人が自分に敵意をもっている、人から監視されていると感じた」(18.4%)

「体の病気でもないの、息切れ・めまい・動悸などがした」(11.4%)

「食欲がなくなり、食べ物を口にしたくないと思った」(11.2%)

「バス・地下鉄・電車などの乗り物に乗るのが怖かった」(4.3%)

以上の結果から分かるように、不安や抑うつを感じる人が多くなっているといえる。これは、特に東大生に限られたものではなく、一般の学生や青年にみられる傾向である。特徴的なのは、全体として女性のほうが不安や抑うつを感じる割合が高いということである。不安や抑うつを感じる割合の多い上位4項目の男女比を記載したが、いずれも女性の方が高くなっている。不安や抑うつについては、女性のほうが体験しやすいといえよう。

7. 不安や悩みへの対処

相談相手としては、「よく相談する」「ときどき相談する」「たまに相談する」を合計した割では、「父・母」が77.6%でトップ、次に「大学外の友人」が70.7%となっている。ちなみに「大学職員」が13.4%、学生相談所・保健センターが8.1%である。このような点から考えて、東大生は、まず身近で生活を一緒にすることの多い人に相談する傾向が強いといえる。

8. おわりに

以上、実態調査の結果をもとに東大生の不安と悩みの状態を探ってみた。東大生の特徴を明確化するためには、他の大学の学生との比較をする必要があるといえる。そのような比較がなされていない現状で判断するのは難しいが、おそらく東大生の場合、学業や進路に関する不安や悩みが比較的強いのではないと思われる。昔であれば、下宿での生活や生活費をどのように稼ぐのかといったことが、学生の悩みごとの主要な要素になっていたとも推測される。しかし、現在では、そのような要因は、あまり強い比重を占めていない。むしろ、現在の学生にあっては、友人や恋人をどのように作るのかといったテーマは、学生の不安を引き起こすテーマとなっているとも考えられる。ただし、このようなテーマについては、この実態調査では、測定できていない。今後、現代の学生事情に合わせて項目などを変更していく作業も必要となるといえるであろう。



法文2号館付近

第2部 学生生活の背景

2-1. 家庭の状況

家庭の所在地は62.5%が関東
 主たる家計支持者は「父」が90.3%、職業は「管理的職業」が42.6%
 年収額は950万円以上が52.3%

家庭の所在地は、「東京都」30.2%、東京都以外の「関東」が32.3%、合計すると62.5%で、前回（2006年）調査と比較して6.1ポイントの増加となっている。男女別では、「東京都」と「関東」で男子の61.8%に対し、女子は65.0%である（図9-1・2、集計表V-1表）。

主たる家計支持者は「父」が90.3%を占め、「母」は4.8%となっている（集計表V-3表）。

その職業は、「管理的職業」42.6%、「専門的、技術的職業」22.5%、「教育的職業」12.1%と続いており、前回に比べて「管理的職業」が4.9ポイント増えている（集計表V-4・5表）。

家計支持者の年収の分布状況は、「750万円未満」が29.3%、「750万円以上1,050万円未満」が39.9%、「1,050万円以上」が30.7%となっている。前回調査との比較では、「750万円未満」は35.3%から6.0ポイント減少し、「750万円以上1,050万円未満」は36.2%から3.7ポイント、「1,050万円以上」が28.5%から2.2ポイント増加している（図10、集計表V-6表）。

家計支持者の年収額のうち「950万円以上」は、前回調査で47.8%で、今回は52.3%とほぼ50%で推移している。男女別に見ると、男子における「950万円以上」の比率が49.7%であるのに対して、女子における比率は60.7%であり、男女差が顕著である（図11-1・2）。

図9-1 家庭の所在地の推移（男子学生）

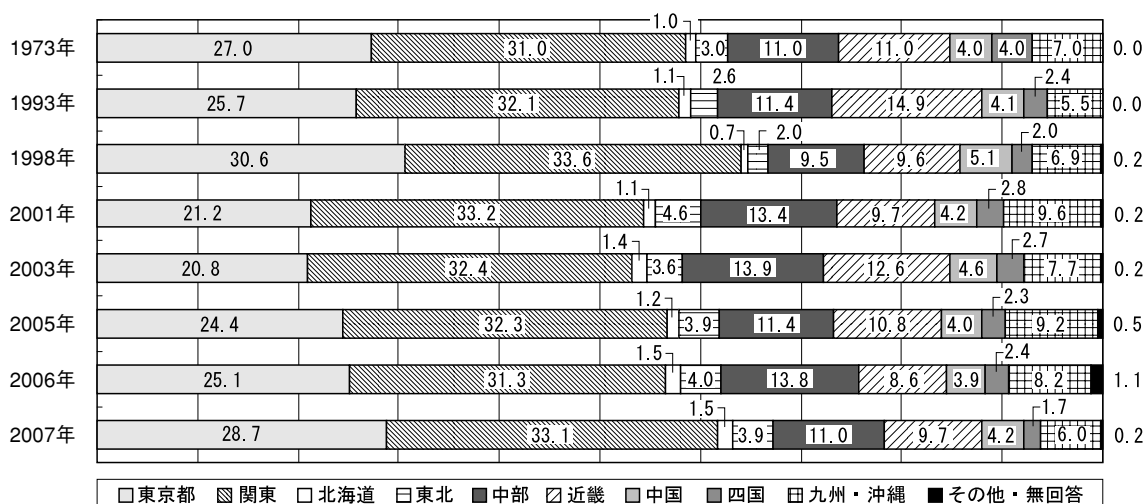


図9-2 家庭の所在地の推移（女子学生）

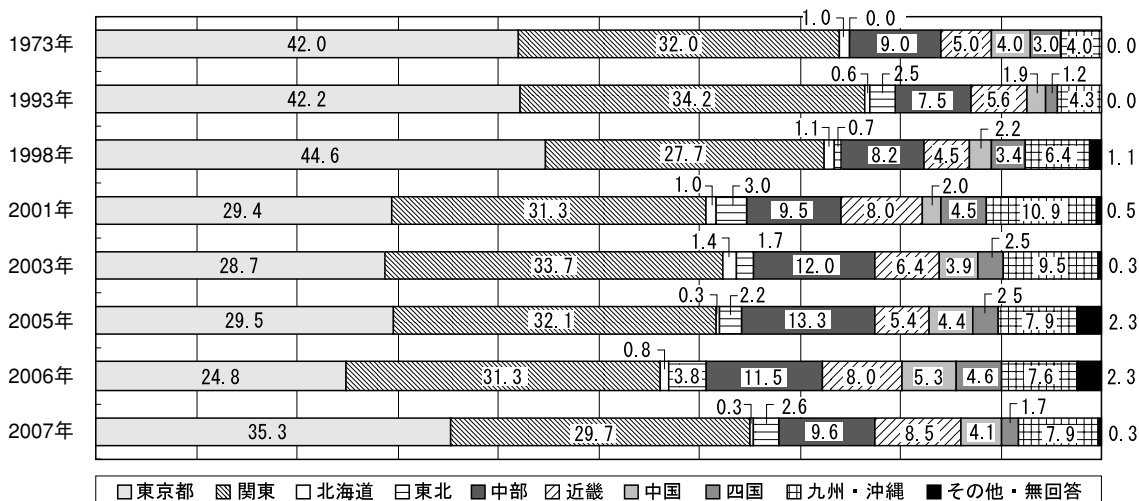


図10 主たる家計支持者の年収額分布

単位：％

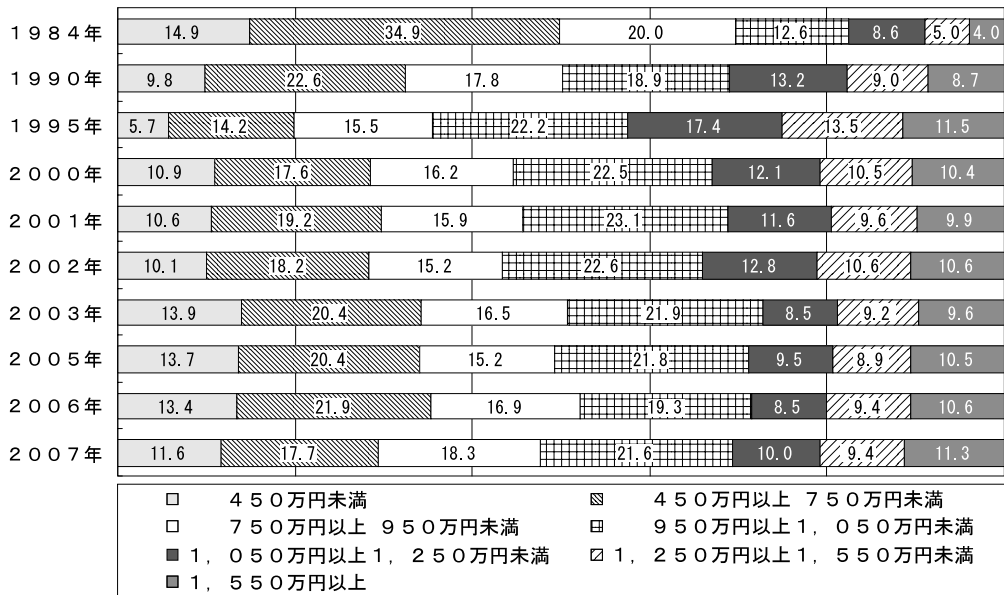


図11-1 主たる家計支持者の年収額分布（男子学生）

単位：％

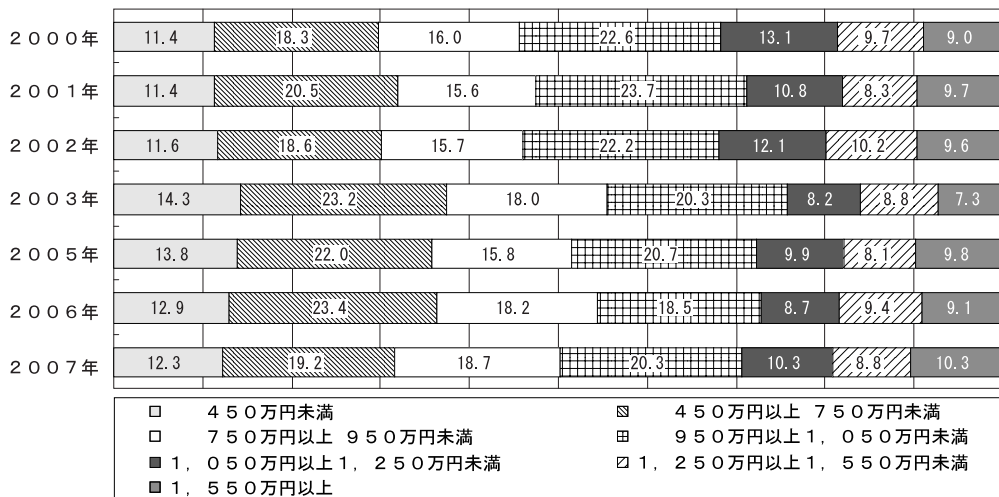
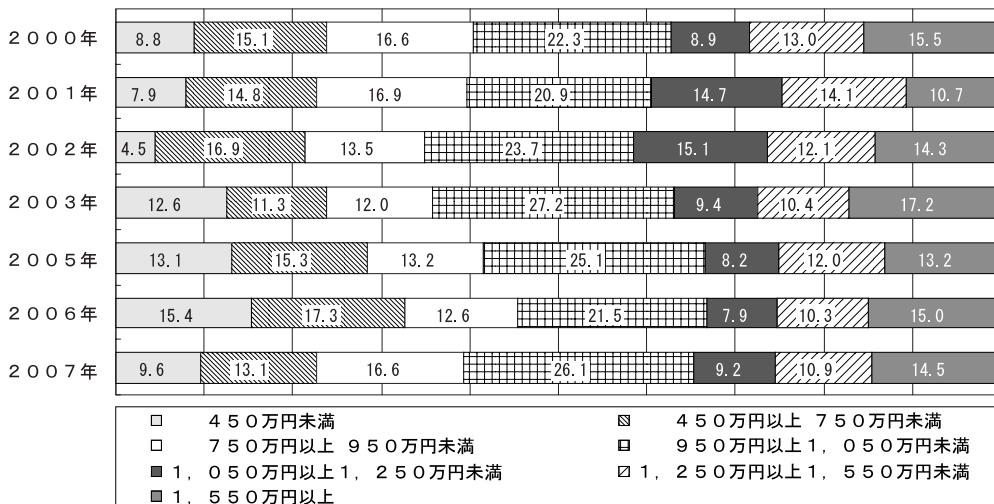


図11-2 主たる家計支持者の年収額分布（女子学生）

単位：％



2-2. 生活費の状況

生活費は自宅生71,500円、自宅外生143,600円

自宅外生の「住居費」は支出総額の46.3%

収入で大きな割合を占めるのは、自宅生が「アルバイト・雑収入」、自宅外生が「家庭からの仕送り・小遣い」

1か月当たりの生活費（100円未満四捨五入）をみると、「支出総額」は、自宅生71,500円、自宅外生143,600円で、前回（2006年）調査と比較すると自宅生が3,200円増え、自宅外生が5,000円減っている。

自宅外生の「住居費」は、66,500円で、前回調査と比べ2,000円減っている。支出総額に占める割合は0.2ポイント増えて46.3%になっている。「通学費」は、自宅生9,700円、自宅外生4,100円で、支出総額に占める割合は自宅生が13.6%、自宅外生は2.8%である（図12、集計表VI-1・2表）。

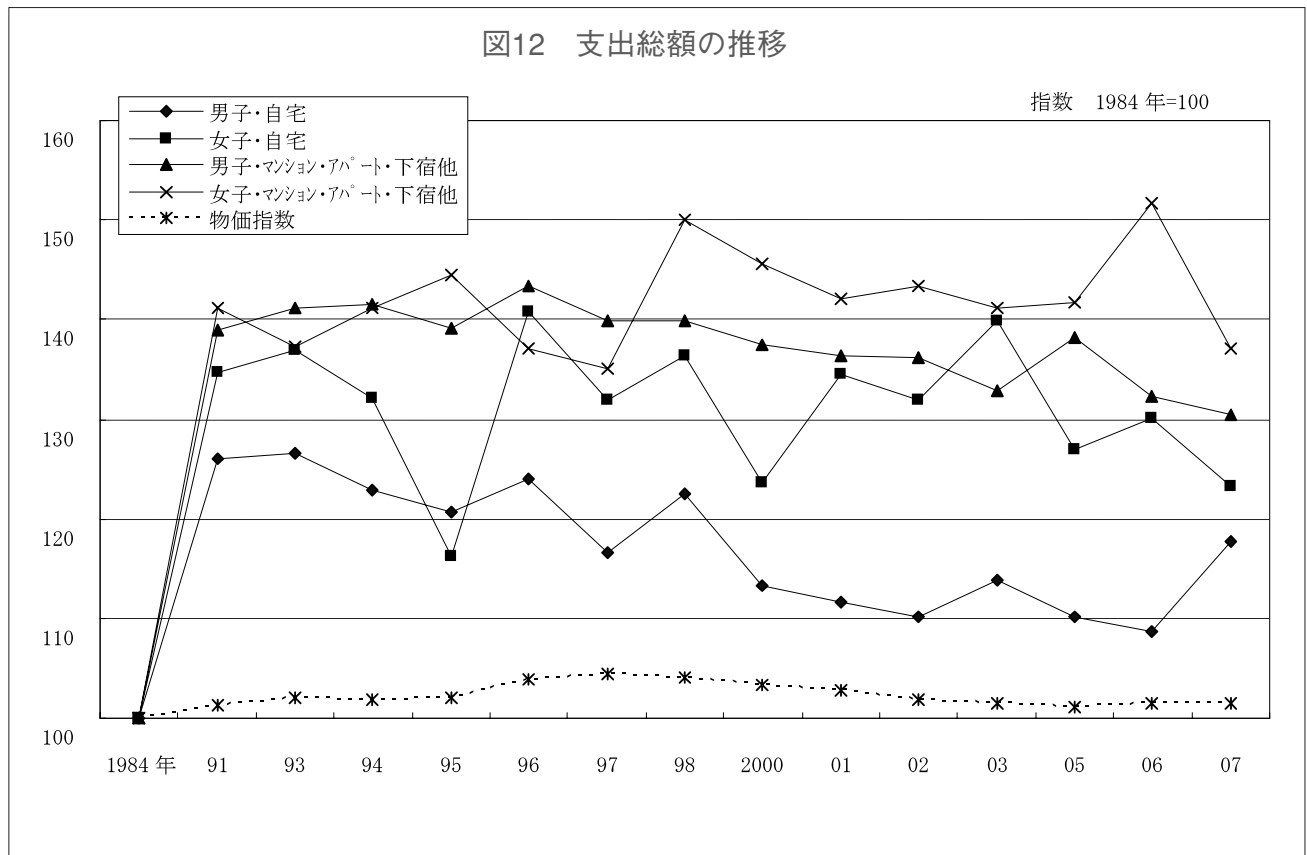
一方、「収入総額」は、自宅生66,200円、自宅外生150,300円で、前回調査と比較すると、自宅生で1,200円増えて、自宅外生で2,300円減っている。自宅外生の生活費は自宅生に比べ、支出総額では前回調査より減って2.0倍、収入総額は前回調査と同じ2.3倍となっている。

収入のうち、「家庭からの仕送り・小遣い」は、自宅生27,200円、自宅外生99,200円で、前回調査と比較すると、自宅生が5,400円、自宅外生が12,800円減っている。「アルバイト・雑収入」についても、自宅生34,600円、自宅外生33,100円で、前回調査と比較すると自宅生が9,300円、自宅外生が11,100円減っている（集計表VI-3表）。

収入形態の推移をみると、「仕送り+アルバイト・雑収入」が最も大きな割合を占めている（集計表VI-4表）。

授業料の捻出は、86.6%が「家庭からの仕送り・小遣い」で占めている。自宅外学生の全体を平均してしてみると「奨学金」が5.7%、「授業料免除」が4.1%であるが、「東大学寮・三鷹国際学生宿舎」の男子は「授業料免除」が35.3%、また、女子は「奨学金」が22.2%と他の自宅外学生よりも高い割合を示している（集計表VI-5表）。

図12 支出総額の推移



2-3. 通学・住居

学寮・学生宿舎などの建設を促進すべきだとの意見は、自宅外生46.1%、自宅生でも33.4%と多い
 自転車通学は本郷の理系学生に多い
 自宅外生は自宅生より良く寝る

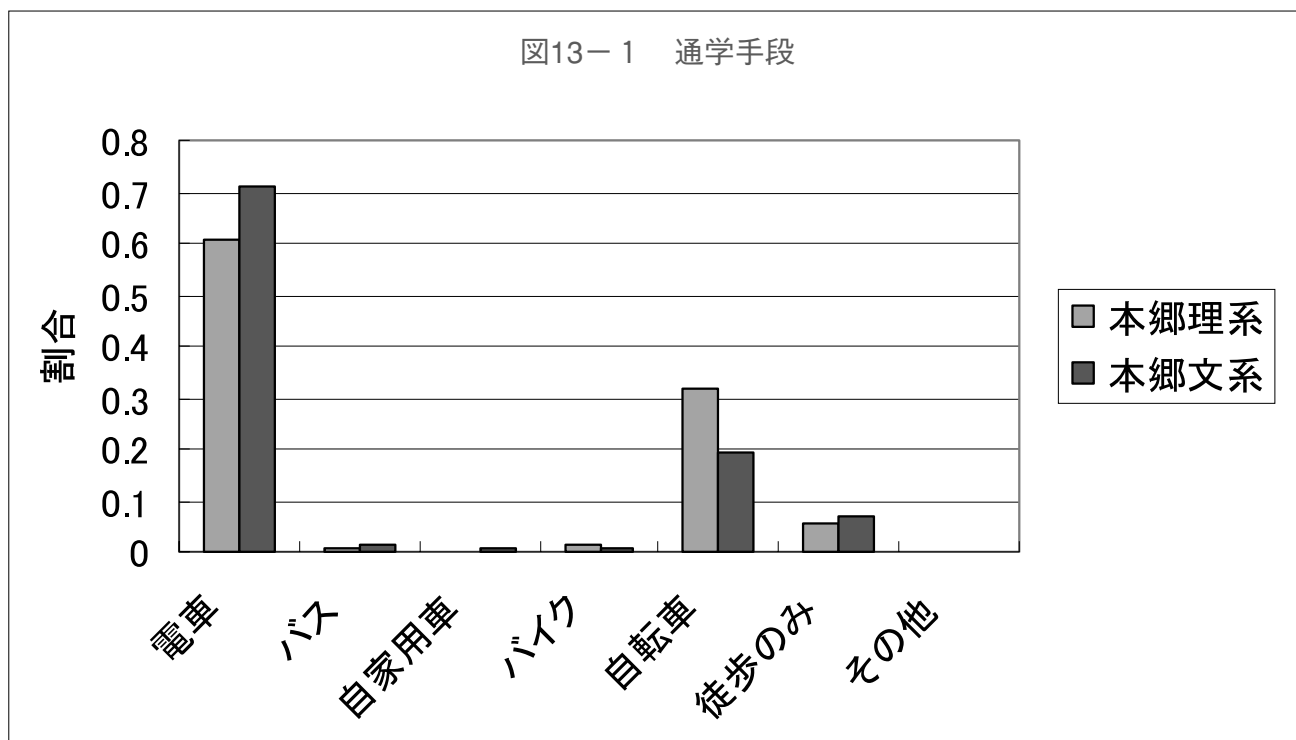
調査回答者のうち、自宅生の現住所分布は、東京都52.3%（23区内37.9%、23区外14.4%）、神奈川県25.2%、埼玉県11.6%、千葉県9.2%の順で、前回（2006年）調査との比較では、23区内で2.3%増加に対し千葉県で2.2%減少している（集計表VII-1表）。

自宅外生の住居区分は、例年同様「賃貸マンション・アパート（バスつき）」が67.5%と最も多いが、昨年より4.9%減っている。2番目に多いのが「その他の寮」13.0%であるが、こちらは昨年より3.7%増となっている（集計表VII-2表）。自宅外生の住まいがマンション・アパートから寮へわずかにシフトしているように見える。

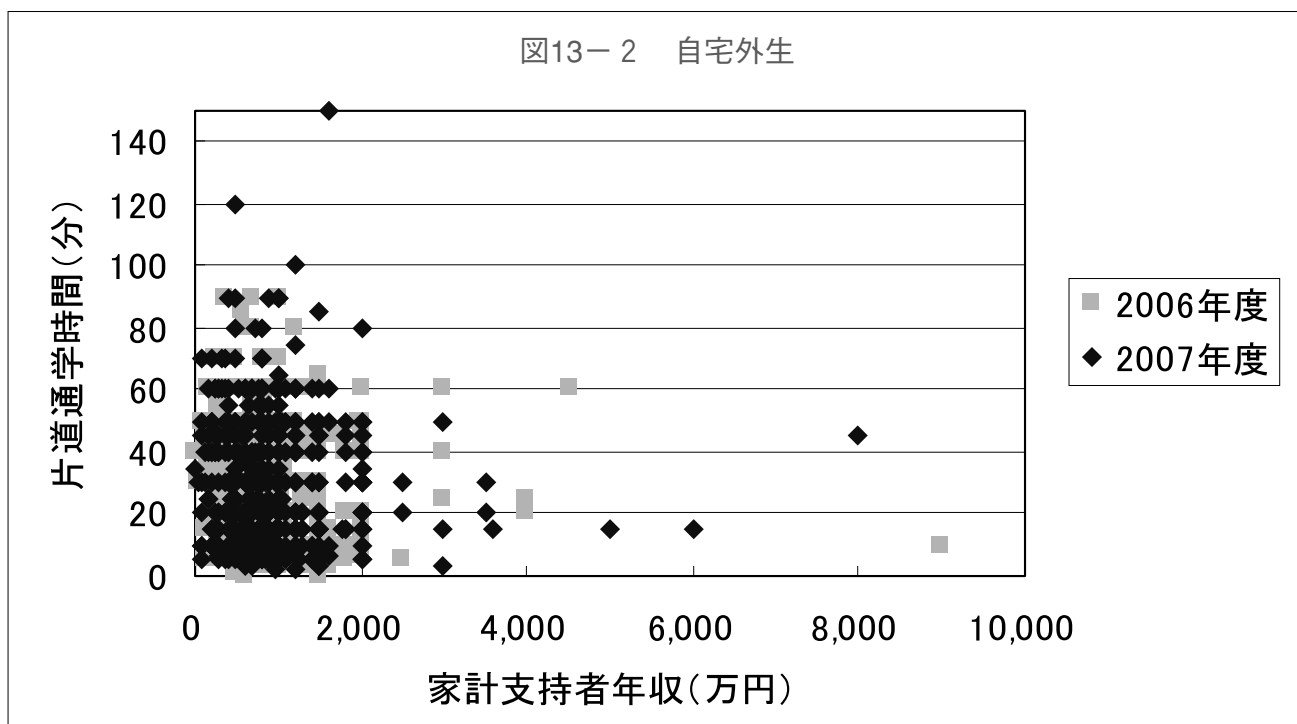
前回から新たな設問として設けた「多少入居者の負担が増えても学寮・学生宿舎などの建設を促進すべきだと思いますか。」に対し、自宅外の学生では「そう思う」が46.1%と多いことは当然としても、自宅生でも「そう思う」が33.4%の高率を占めている。また、「そう思う」自宅外学生は、昨年と同様に前期課程より後期課程になると増えている（集計表VII-3表）。

通学に利用する交通手段では、「自転車」の利用が前期課程8.2%から後期課程26.5%と大幅に増える。その原因は、前期に比べ後期になるとキャンパスが最寄駅から遠くなるためであろうが、図13-1に示すように、「自転車」利用は本郷の理系の学生で特に多いことから推測すると、理系学生と文系学生では大学に滞在する時間（帯）に違いがあるせいかもしれない。（大学での学習時間は、本郷文系2時間49分に対し本郷理系6時間12分であるが、時間帯についてのデータはない。）

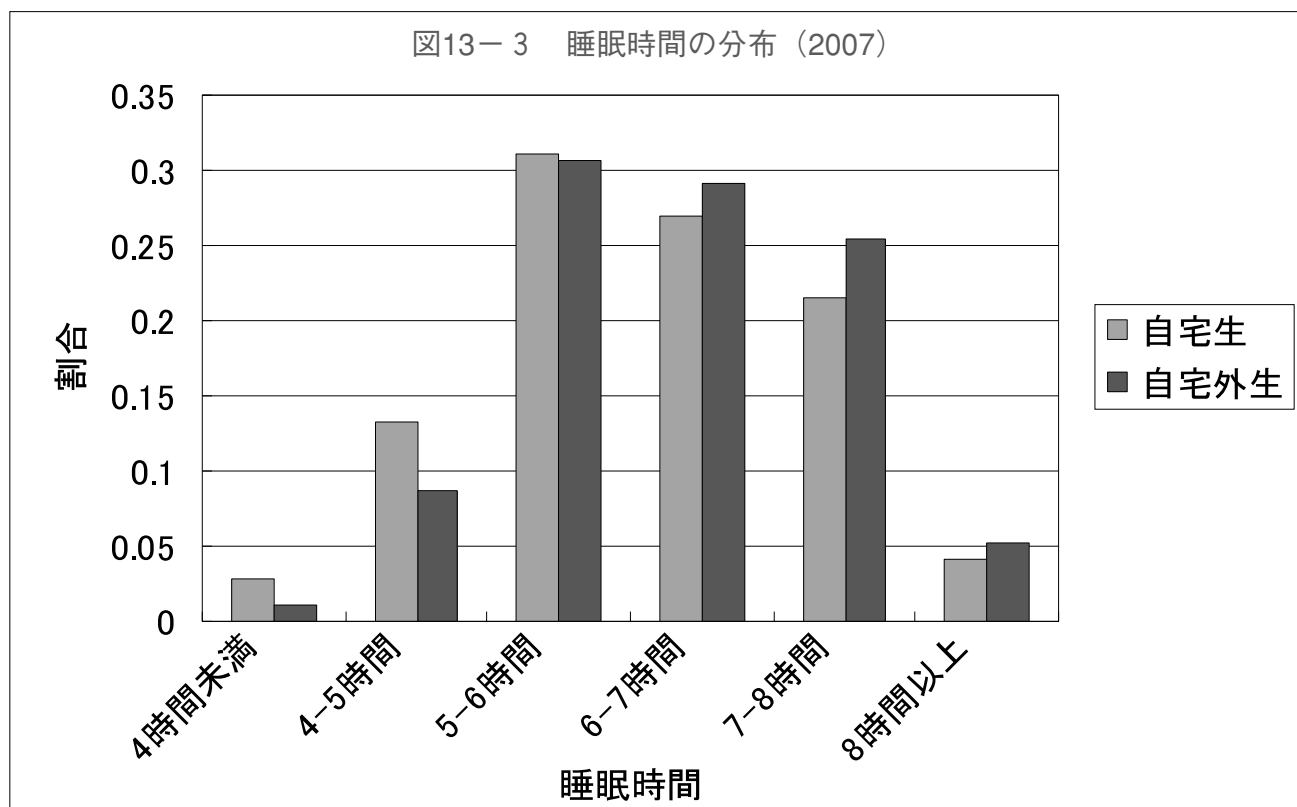
図13-1 通学手段



通学所要時間は、片道平均49.9分で、自宅生は自宅外生32.1分の倍以上の65.9分を要しているなど、例年通りである(集計表VII-5表)。自宅外生の通学時間は、平均としては自宅生よりも当然短いものの分布は広い。家計支持者の年収との関係(図13-2)を見ると、通学時間が特に長いものと年収の特に多いものとの間に、昨年と同様な弱い逆相関が見られる。



そのほか、睡眠時間を自宅外生と自宅生で比較する(図13-3)と、平均して前者が6時間47分、後者が6時間32分と、15分程度自宅外生のほうが長い。この傾向は今年の調査でも同様である。



2-4. 奨学金

奨学金を希望している学生が36.4%
 利用学生のうち84.0%が日本学生支援機構から貸与を受けている
 用途は「生活費」、「勉学費」、「授業料」が中心

奨学金を希望している学生は、「受けている」21.1%「受けたいが受けられなかった」15.3%合わせて36.4%となり、前回（2006年）調査との比較では2.0ポイントの減少がみられる（図14、集計表Ⅷ-1表）。

「受けたいが受けられなかった」または「受けたくない」と回答した理由としては、「資格がない」24.0%が最も多く、次いで「貸与なので申請しなかった」22.6%、「出願はしたが採用されなかった」17.0%、「掲示等に気が付かなかった」12.5%「事務手続きが煩雑だから」10.4%の順となっている（集計表Ⅷ-2表）。

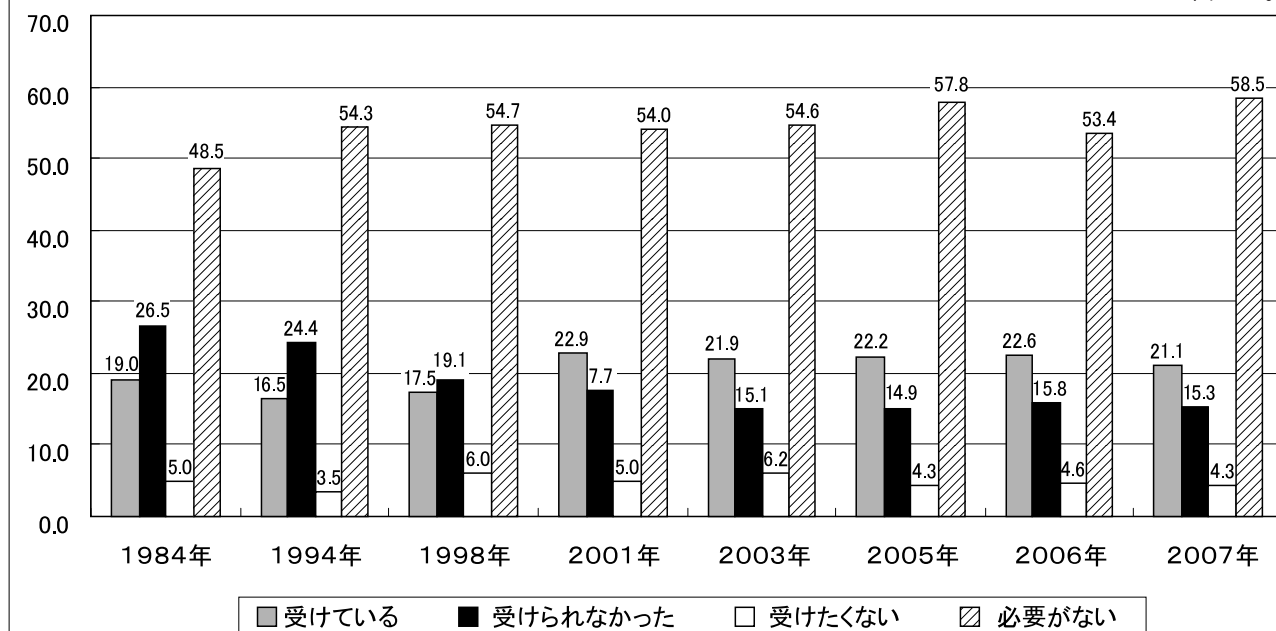
また、「受けたいが受けられなかった」または「受けたくない」と回答した学生の65.6%がこれから受けたいと答えている（集計表Ⅷ-3表）。

利用している奨学金の内訳は、「日本学生支援機構のみ」が73.0%で、これに「他の奨学金との併用」11.0%を含めると日本学生支援機構から貸与を受けている奨学生は84.0%を占め、前回調査と比べると3.1ポイント減少している（集計表Ⅷ-4表）。

奨学金の主たる支出目的（用途）（3つまで選択可）は、「生活費（衣・食・住居費）」73.5%、「勉学費」48.1%、「授業料」37.1%、「教養・娯楽費」33.5%、「貯金」14.5%の順となっている。また、前回調査との比較では、「生活費（衣・食・住居費）」が1.9ポイント、「教養・娯楽費」が5.2ポイント減少し、「授業料」が1.2ポイント、「勉学費」が0.1ポイント、「貯金」が2.0ポイント増加している（集計表Ⅷ-6表）。

図14 奨学金利用状況の推移

単位：%



2-5. アルバイト

アルバイトをしている学生が81.6%
 アルバイト収入の使途としては、「教養・娯楽費」が68.8%、「生活費」が52.3%
 紹介先はインターネットが定着 週に10.9時間、月額で47,400円

アルバイトをしていると回答した学生は、全体の81.6%（「継続的」56.5%、「臨時」10.8%、「継続的+臨時」14.3%）で、前回（2006年）調査との比較では全体で2.8ポイントの増加となっている。また、男子学生の80.0%に対し、女子学生は86.3%で、前回調査と同様女子が男子を上回っている（集計Ⅸ-1表）。

アルバイトの種類は（2つまで選択可）「塾講師」37.1%、「家庭教師」36.8%、「販売・セールス・サービス業」26.1%が上位で、男子の場合は「塾講師」38.4%、「家庭教師」35.3%、「販売・セールス・サービス業」23.0%、「試験監督・採点」15.2%と続き、女子では「家庭教師」41.6%、「販売・セールス・サービス業」35.8%、「塾講師」33.1%、「試験監督・採点」18.2%と続いている（集計表Ⅸ-2表）。

アルバイトの従事時間数は1週間当たり10.9時間、1か月当たりの収入額47,400円で、前回調査と比べると、時間では週当たり0.5時間、収入では月額1,400円の減少となっている（集計表Ⅸ-3表）。

アルバイトの紹介者（2つまで選択可）は「友人・知人等」42.4%、「インターネット」37.5%、「アルバイト先と直接」23.1%、「新聞広告・アルバイト広告誌」12.9%、「大学の担当事務」9.5%と続いている。インターネットによる紹介が引き続き増加し、広告が減少した（集計表Ⅸ-4表）。

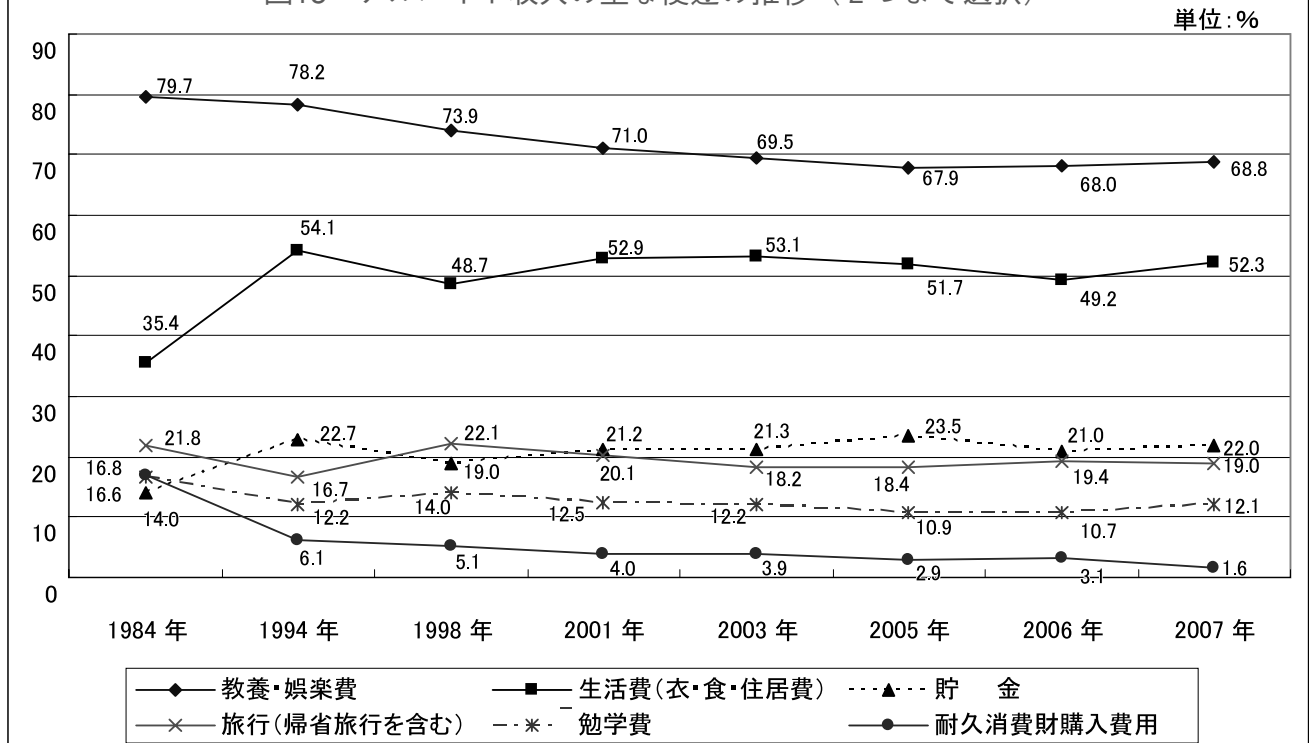
アルバイトをした理由では、「生活費を稼ぐため」を挙げている学生が33.1%で最も多く、「学生生活を楽しむため」29.8%「社会経験のため」29.2%となっている（集計表Ⅸ-5表）。

アルバイト収入の使途は、「生活費（衣・食・住居費）」が52.3%で、1984年の35.4%から1994年の54.1%に増えて以来50%前後に定着している。それと対照的に「教養・娯楽費」は1984年の79.7%から今回調査の68.8%へと着実に減少している。アルバイトをめぐる学生生活状況は明らかに厳しいものに変化している。（図15、集計表Ⅸ-6表）。

「継続的アルバイトが勉学の妨げになりませんか」という問いに、「かなり妨げになる（なった）」と回答した学生と「多少妨げになる（なった）」と回答した学生を合わせると53.8%になるが、前回調査より2.6ポイント増加している（集計表Ⅸ-7表）。

現在の暮らし向きについては、80.8%の学生が普通以上であると答えている（「かなり楽な方」27.3%、「やや楽な方」19.8%、「普通」33.7%）。反面、14.5%の学生が苦しいと答えており（「やや苦しい方」11.6%、「大変苦しい方」2.9%）、前回調査より1.2ポイント減少している（集計表Ⅸ-8表）。

図15 アルバイト収入の主な使途の推移（2つまで選択）



2-6. 生活時間

生活必需行動（睡眠、食事、身の回りの用事等）が約9.5時間
 勉学時間は約9.1時間

図16に、各生活行動内容に該当する平均的な生活時間が示されている。ただし、それらは各生活行動について回答した学生の平均時間であり、本学学生全体の平均的な生活行動像を示しているというわけではない。

「睡眠」約6.7時間をはじめ、「食事・団らん」「身の回りの用事」等といった生活必需行動が約9.5時間、「大学での学習」「自宅・図書館等での学習」及び「大学以外の教育機関での学習」を合わせた勉学時間はおよそ9.1時間となっている。

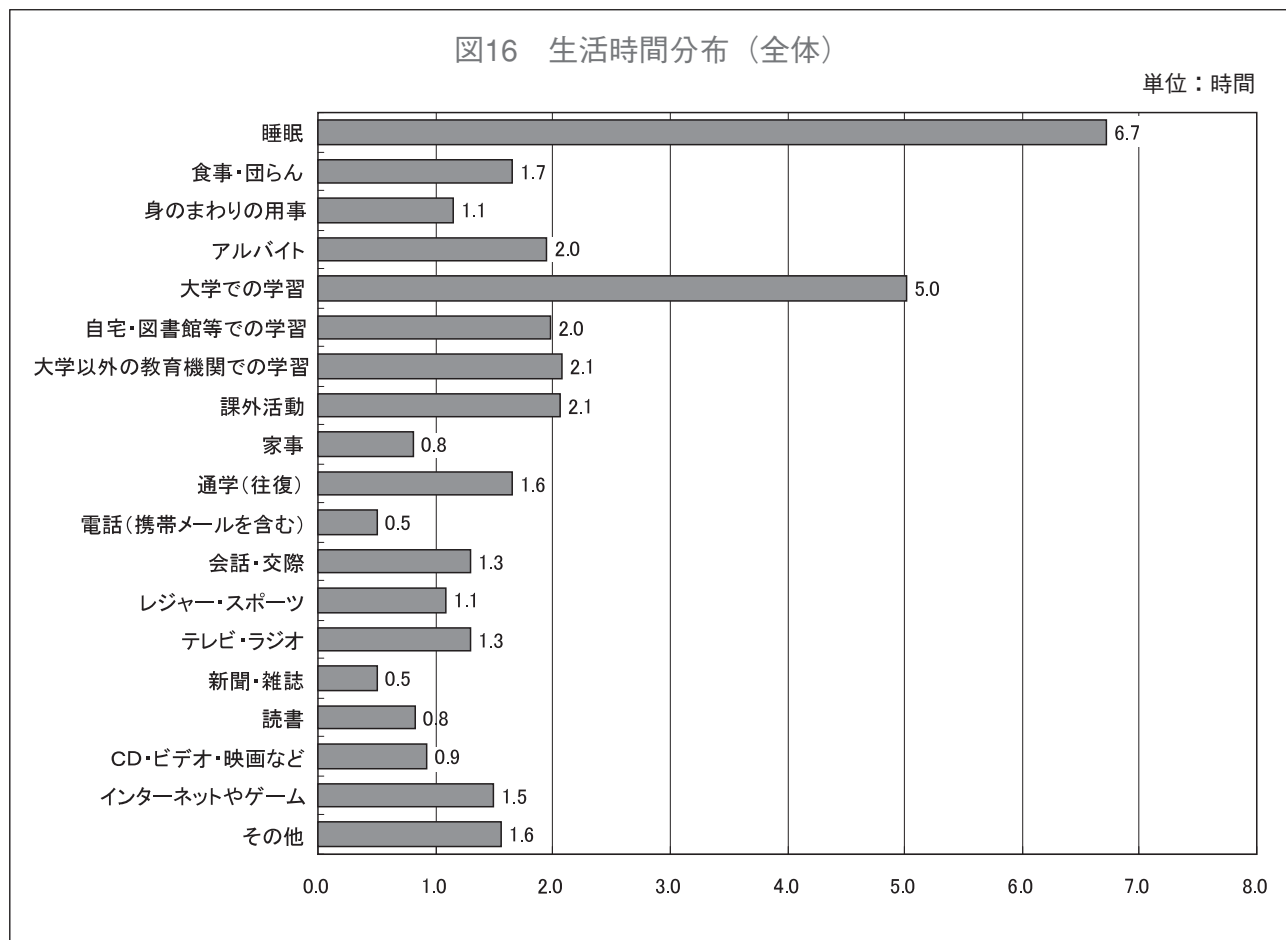
前回（2005年）調査の男女別の比較では、「課外活動」「インターネットやゲーム」の2項目で男子が女子より、「食事・団らん」「身のまわりの用事」の2項目で女子が男子より、それぞれ10分以上長かったが、今回調査では、「睡眠」「大学での学習」「インターネットやゲーム」の3項目で男子が女子より、「食事・団らん」「身のまわりの用事」「家事」「会話・交際」「テレビ・ラジオ」の5項目で女子が男子より、それぞれ10分以上長くなっている。

自宅と自宅外との比較では、自宅生の方が往復の「通学」でおおむね1時間、「食事・団らん」「大学以外の教育機関での学習」で比較的多くの時間を費やしている。他方、自宅外生では「睡眠」「アルバイト」、「大学での学習」、及び「家事」等が多くなっている。

前期・後期課程別の勉学時間をみると、後期課程学生の方が前期課程学生より「大学での学習」、「自宅・図書館等での学習」及び「大学以外の教育機関での学習」の3項目の学習総時間が1時間10分程多くなっている。また、同様に文科系・理科系別の勉学時間をみると、「大学での学習」では理科系学生の方が文科系学生より2時間程多くなっているのに対して、「自宅・図書館等・大学以外の教育機関での学習」では文科系学生の方が理科系学生より1時間30分程多くなっている（集計表X-1表）。

どのくらい外食をしているかの間では、13.2%の学生が「平日で一日2回以上」とると答えている。また、自宅生と自宅外生の比較では自宅生の7.7%に対し、自宅外生は約2.5倍の19.6%となっている（集計表X-2表）。

平均的な下校時間は17時55分で、男子と女子、自宅と自宅外、文科系と理科系では殆ど差が見られないが、前期課程が後期課程より45分強下校時間が遅くなっている（集計表X-3表）。



大学生活で困っていることや心配していることがありましたら、具体的に記入してください。

〔文一男子〕

- カンニングの横行をなんとかしてほしい。教員によっては語学の小テストでカンニングをしている者を見つけても口頭で注意するのみで何の改善にもならない。期末の必修科目の試験ですぐ横の者が何かプリントを見ながら解答していたのに気付いた際は東大に失望した。おかげで冬学期は全くやる気が起きなかった。生徒側から「あの人がカンニングをしている」と試験官には言いづらい。因縁をつけられそうだからだ。摘発強化・厳罰化を切にお願いしたい。
- 家族や地元の友人、知人からほとんど切り離されているため、大学内で人間関係に失敗すると、孤立しかねない。人間関係、その付き合いが表面的に感じられる。
- 司法試験等の資格試験の対応をどのようにしたらよいかわからない。大学側でも一定のフォローがほしい。
- 学食の価格が割高であり、毎日利用するのは厳しい。アドミニストレーション棟は6時まで開けていただけると楽。自宅生だが通学時間の長さには大変苦労している、かと言って一人暮らしをする金銭的余裕もない。キャンパス付近にもっと学生が多く入れる寮を建てて欲しいと願う。
- 自業自得なのですが、降年して奨学金が停止となり、学問に専念するために夜勤のアルバイトも辞めました。現在の収入が完全に両親の仕送りに依存しており、両親に対して申し訳ないという気持ちが常にある。そして、専門科目の授業が本格的に始まり、テキスト等の費用が格段に上昇する中仕送りのみでは収支はマイナスが続き、自分の貯金を切り崩している現在。既に貯金も底を尽き、そもそも奨学金月10万円必要だった家庭経済において両親にこれ以上負担を強いるのも我慢ならない。そうした両親に対する申し訳なさが常につきまとう中、現実には直面している金銭的問題。これに尽きます。勉強は正直楽しく、学生生活は右の問題以外は充実していると感じていますが、一方で辞めて早く仕事に就こうかとも考えています。
- 在学中または卒業後の留学を考えていますが、積極的なサポート体制が少ないように思います。もっと大々的に留学希望者に対する説明会・相談会を開いてもいいのではないのでしょうか？また、海外への院進学を考えた場合、学部3年段階からある程度の準備（TOEFL、GMAT等）が必要になりますが、それらに関してのアドバイスなどを大学サイドから受けにくく、先輩・知人・インターネット等に頼らざるをえないということも感じています。
- ・面白い、価値のある授業が大抵5限に集中しており、

選択できないことが多い←特にゼミ系

・図書館（駒場）の貧弱→書籍代がかさむ

・カリキュラムの自由度が低い→もっと自由に自由体学できるようにしてほしい

- 教養学部（前期課程）の必要単位を取得したか否かがU-TASKに記載されるようにしてほしい。履修の手引きと成績表を照らし合わせて、第3学期終了時まで取得したと確認はしたものの、進学振分けの内定のみが大学側からの確たる認証であって、不安感を伴うものである。文系なら70単位、理系なら76単位、所定の単位を取得したならば、何らかの処置をしてほしいと切に願う。
- 学部の授業。僕は法学部なのですが、一部の授業は思想体系が古すぎると思います。また、文一の生徒を全員、900番教室で受けさせるのはどうかと思います。後ろの方に座ると教官の声はほとんど聞きとれませんが、法学部の授業は板書がないため、教官の声がきこえないと致命的なことになります。
- 周期的にうつのような状態に陥ってしまい、何をするのもおっくうで一日中家でごろごろしていることがある。
- 専門科目の授業が始まったが、理解が全く追いつかず困っている。専門科目は教養科目より単位取得が難しいと聞いており、ちゃんと4年間で卒業できるか非常に不安である。

〔文一女子〕

- 大学内で宗教に勧誘されてしばらく通っていましたが、勧誘の仕方に問題がある団体で、恐くなってやめました。今も東大には信者や教職者の方が出入りしていると思うので怖いです。
- 今年の春から法学部の専門授業が始まったが、予想以上に負担が大きく、ついて行けるか不安。あとは、来年の春から本郷に行ったら1人になってしまうこと。サークルを引退してしまうので。

〔文二男子〕

- 特にないが、保健センターへ保健手帳を取りにいかなければならないなど、U-TASKに重要事項がのっていないことがタマにあるのが気がかりです。
- 必修授業を増やしてほしいわけではないですが、少人数授業を充実させて欲しいです。マスプロだとあまり身に付いた気がしません。英語力をつけたいと思うのですが週2コマではとてもつきません。国コミを取ったところで限界があります。サークルや部活がもっと活動しやすいようにしてほしいです。
- 周囲のやる気のない雰囲気にならされてしまいそうで困っている。またクラスやサークル以外の場で友達を得る機会が少ないことも悩みの一つである。
- ・授業中に寝る。内職する。携帯電話を操作するのは

まだいいが、私語・笑い声で周囲に迷惑をかける人が大教室の授業で多い。

・大学（特に東大）は実社会と乖離している面がある気がします。大学の雰囲気を帯びたまま社会に出たときが少し心配です。

・視力のあまりよくない人にとって、教授の書く汚い図・字は大教室では特に困る。

- 食堂が混みすぎていて、席がないことが多い。
- 転科のシステムがあるのかもしれないがよく分からない。進振り後、学科を決定したものの、半年のうちに興味ある分野を見つけ、深く学習したいと感じた。（教務課などの窓口で相談するつもりではある）希望のゼミに入れるか心配である。
- カリキュラムが非効率的です。勉強しようにも時間的制約が強すぎて難しいです。経済学部の進振りや授業を見直すべきです。
- 進振りのため高得点が必要だが、成績が可だった授業を履習できない。同じ理由で、興味があっても得意分野以外の授業を聴講しても履修しようと思わない。実際、履習登録せずに聴講している授業が1日あたり1つ以上ある。
- やりたいことがない。

〔文二女子〕

- 経済学部の（駒場の）専門科目をもとのように戻してほしいです。4学期に1科目2コマ連続で週16コマ入ると時間の融通がきかなくなるし、3学期のヒマな時間ももったいない。ずっと同じ教室というのも気が滅入ります。お昼休み食堂こみすぎです。2、3限とも入ってる人とか困ると思います。せめて学生とか教員とか以外の人（近所の人とか）はお昼休みをさけて食堂利用してもらおうようにしてもらえとうれしいです。

〔文三男子〕

- 学費をもっと安くしてほしいです。
- もう少し、先生方と話す機会が欲しい。
- 東京大学は、卒業すれば収入の高い人がたくさんいるから、在学時に私達にお金を貸して、非常に安い利息で返金させるような東大独自の奨学制度を作ればよいと思う。単純に経済面が心配。
- 単位が取れるか心配です。大学に入って、熱心に勉強する気力が出ません。人との交流が少ない気がして、そんな自分に少し嫌気がさしています。
- 自分の歩むべき道が分かりません。というか、そんなものないとか分かっているからこそ悩んでいるんですね。人生って何でしょうか。最近高校の頃はよかったなあと思います。よくも悪くも閉鎖的な空間の中で目先のことだけを追っていたあの頃が。急に世界が広がったら行く先もなくなって…。まさにモラトリアムですね。でもモラトリアムって言葉は大好きです。

〔文三女子〕

- サークルが忙しすぎて、勉強時間や、将来への投資にまわせるお金もすいとられてしまう現状がある。サークルそのものにシステムの欠陥があるのだと思う。サークルと勉強を両立できないのは、おかしい。また、せっかく東大に入ったのに、そこで得られた教養をきちんと自分のもののできている感じがしない。教授らと交流したい。また、自分の興味を持つ分野について、誰に教えてもらえばいいのかわからない。
- 進学振分け制度がなければ全く勉強しなくなる学生がいるかもしれませんが、まだ数字でしか評価されないのかと思うと（まあ社会に出ても変わらないのかもしれませんが…）妙な気分です。だったら始めから進振りの心配のない文I IIに入れと言われるかもしれませんがね。優三割規定をなくしてほしいです。
- 非定型鬱やパニック障害のため、休学せざるをえないかもしれないと危惧しております。
- 授業の合間の休み時間が短い（10分）ので移動などが大変であること。また、具体的に将来が定まっていないので、進振りなどに向けて何点くらい必要かわからず、やみくもに勉強するしかないこと。あと、若干語学の授業で厳しいものがあったり（例：英語二列PWの課題が多い、ドイツ語の予習が大変）、クラスによって担当教官が異なり、テストや評価が違うので、進振りの時に若干不公平が出るかと思う。

〔文三男子〕

- 語学の授業を充実させてくれないので困ってます。もっと意義のある授業をしてもらわないと困る。
- 父親の退職が分かっているにもかかわらず前年度の収入で審査されるため授業料免除等がうけられない。

〔文三女子〕

- 周りが勉強やその他活動に頑張っている中、自分はこれでよいのかと思う。進路についても確信が持てず、それについての勉強もはじめていない。また、友達が少なく、サークルは男の子ばかりで仲はいいがもう少しクラスに友達を作っておけばよかったと思う。授業に余り出ていなかったためなのだが…。
- 文科三類から法学部に内定しましたが、夏学期に語学と法学部の必修が同じ時間になってしまい、法学部の授業に半年出ることができませんでした。傍系進学のために、サークルにも入らず勉強とダブルスクールに明け暮れていて、文一に知り合いも少ないので、半年分の授業のフォローが出来ず、不安に思っています。
- 生協で売られているお弁当やおむすび、少し高くなって構わないのでおいしくしてほしいです。菓子パンの他に食べるものがなくて困っています。

〔理一男子〕

- お昼の学食がこみすぎていて弁当屋ですませて栄養がかたよってしまう。どうやってもあさ9時前に起き

れない。人付き合い。

- 呼吸器に問題があるので、タバコを吸う人がいると危険が生じるのだが、喫煙所外で吸う人が多く存在するので困っている。禁煙とは名ばかりだと思う。
- 将来必要でなく興味が持てない上に授業自体が非常につまらない科目の勉強や点数を取らなければいけないというプレッシャーに大学の生活が台無しにされていると思う。ほとんどの友人がクラス内の試験対策委員に任せて授業に出ず試験直前に勉強し始めるという現実を見ても、また多くの授業が学問の上の面をなぞっただけのような授業で全く勉強した感や身についた感が得られないという点からも、東大の前期課程の存在意義に大きな疑問を感じる。結局器用に点数を稼げる人間だけしか大学生活を充分に楽しめていないという感じがする。
- 語学の時間に毎回小テストをしているのですが、(丸つけが、近くの人と交換して黒板に書かれた答えを基に丸つけをし合うという形式をとっていて、その間あまり講師の先生が学生の方を見ていないので)交換せず、その答えを書き写す、というカンニングがされていて、クラス内でやっている人が多いのと、それを隠そうとするクラスの雰囲気があり、僕を含め、何人か交換したくても、周りに交換してくれる人がいないために自分で答え合わせせざるをえなくなってしまい、毎回後ろめたい気持ちで授業を受けることになってしまい、困っています。また、カンニングのために、講師の先生が小テストが簡単すぎると勘違いして、どんどん問題が難しくなっていってしまい、前日はほとんど徹夜になってしまうので、それについても、今後(残りわずかな授業ですが)やりきれなくなってしまうのではないかと心配です。
- 非効率で学生を退屈させる授業が多く、自分のやりたい勉強ができる時間が減るのが悔しい。5号館前に喫煙所があり、あの辺一帯は常に臭く5号館では、窓を開けても悪い空気が入るだけであり換気が適切に行われておらず、教室の空気が悪く(換気できない、したくても悪い空気が入るだけ)勉強できる環境ではない、構内全面禁煙すべきだと思う。
- やっぱ何とんでも進学・進級できるかどうかが一番の悩みです。真面目に聞いているのにまったく理解できない授業があることは学生にとっては恐怖です。「優3割規定」を作っているとはいっても先生によって評価にかなり厳しさの差があるということも、少し理不尽な気がします。
- あまり裕福な家庭ではないので、親の負担を少しでも軽くするためにアルバイトをしているが、そちらに時間をとられすぎて大学の勉強に十分な時間が当てられなくなっている。学生がアルバイトをしなくても安心して学問に打ち込めるように授業料を下げる、奨学金制度を充実させるなどの対策をしてほしい。
- お金がなくて困っています。奨学金を受けられる条件を緩和してほしいです。勉強で困っています。大学

の勉強が難しすぎて前途が不安です。

- 将来のビジョンがなかなか見えてこず、漠然とした不安を感じる。サークルに入っていないので、クラス以外の友達ができず不安。人脈の幅が狭いことで、有益な情報をみすみす逃しているのではという思いにとられる。女子が少なすぎるので彼女ができない。
 - 生活費を奨学金と不定期な親類等からの援助(小遣い)でまかなっているため、資金面で不安がある。授業に追いつくのが大変なので、アルバイトはしていないが、来年度も奨学金が見込めるか不明瞭なので、学業よりアルバイトを優先すべきか、悩んでいる。また、慣れない一人暮らしのため、お金の使い方が不得手で、つい無理な生活費の節約をしてしまい、帰路、倒れそうになったり道傍で休憩を必要とすることもある。図書館での勉強が中心なので、帰る時間が遅くなるような時に、外食(学食かパン等)をした方がいいのか悩んでいる。また、体調のため、勉強に集中できないことが、しばしばある。以前は保健センターの精神科で相談をしていたが、現在は授業のコマ数が変わってから行っていない。ただ、生活条件自体は、世間の人に比べ、良いはずなので、何とか解決策を探したい。あるいは相談したい。
 - 寝てしまう講義がある。
 - 高校までと違い、自教室がなくなり、科目の選択肢が増えたため、友人との接点が減った。それによって高校の時のように、親密になれる友人の数が減った。また、先生も多くの生徒を相手するため、生徒側からすると、先生との関係も希薄に感じられる。1、2学期と、取りたい総合科目が必修科目と被った。これが3学期も生じてしまうと、進振りまでに取れないという状況になってしまう。
 - 基礎物理学実験は生物化学履習者には厳しいと思う。また、時間が伸びるのもよくないと思う。
 - ・英語一列は必修科目としては無駄だと思う。
 - ・進学できるか不安。
 - ・1学期に取っていた講義の続きが2学期は必修と重なって履習できなかった。
 - 望んでいない飲み会の強制あるいは強制でなくとも、行かないとサークル活動に支障をきたすような慣習。(主に人間関係において)
- [理一女子]
- 必修や面白そうな総合科目を取ると毎日5限目が埋まってしまって、体力的にきついので、特に総合はバランスを考えてほしい。
 - ・とにかく忙しくて遊べない!まとまった時間がとれない。
 - ・教務課が閉まるのが早い…。せめて18:30までは。
 - ・7号館に入るたびに気分が悪くなる。変な匂いしませんか?それとも陰気だからかなあ…。
 - ・ロッカー1人1つほしい!!
 - 精神的なものと時間的なものが原因でうまく勉強が

できなくて困っています。今のままでは進級が危ないです。あと、人づきあいに関して心配しています。学科の知人でも嫌われているのではと萎縮してうまく話せません。

- せっかくU-TASKにメールアドレスを載せているのだから、重要なお知らせや休講情報ぐらひはメール配信して欲しい。大学との往復で4時間近くかかるので、休講に気付かず大学に来てしまったりすると、とても困る。

[理一男子]

- 降年・留年した際のフォローがなく、実際にしてしまつて途方に暮れていました。勉学に興味はあるのですが、研究・将来像との結びつきが感じられず意欲が湧きません。教養課程でもある程度専門的な学習を促していただければと思います。
- 給与奨学金の取得が困難。この大学ならある程度取れると思ったが、そうでもないようだ。私大に行けないから国立を選んでいる人がかなり多いということ、それでも学費が近年かなりのペースで負担増ということ、もうちょっと考慮してくれてもいいと思った。
- ここ最近周囲にうつ病とも思われるような人やコミュニケーション能力の低い人が増えています。こちらでもどう対応すればよいのかわからないので、インターネットなどアクセスしやすい形での情報提供をして欲しいです。
- 中高の時は、気軽に先生に質問しに行けたが、今は行きにくい。先生と授業以外で交流できるとよい。
- キャンパス内で声をかけてくる変な人（ゴスペル系の人や東大反戦ネットワークと称する人達）がいてこわい。
- 信頼のおける友達が大学にはほとんどいないこと。
- 教授の授業に対するやる気が感じられない授業がある。
- アルバイトで生活が成立しているので、風邪等で休むと生きていけなくなる。結果、勉学よりもアルバイトを優先せざるをえない。

[理一女子]

- 他大学に比べ、就職へのサポートが少ないと思ひ心配している。
- 進振りと成績について。あまり勉強などしないで生活して成績が可と不可ばかりになり、点数が足りずに留年や降年してしまった場合、現行制度では次の年にいくらがんばっても、必修の可は上書きすることができないので結局点数があまり上がらない。その結果進振りでは、全然興味のない学部学科に行かざるをえなくなる。これでは勉学に対する意欲が削がれてしまう。留・降年者は、前年に既に単位を取った科目でも再履修できるようにしてほしい。
- 教職員同士、学生にわかりやすいと評判の先生の講

義を見学して互いに技術を吸収し合つてほしいです。学歴が高い、研究員として秀れている=教え方が上手いとは限りませんので。(忙しいとは思いますが)

[理二男子]

- 昼休みに駒場の食堂が混み過ぎ。分煙（もしくはキャンパス内全域の禁煙）をしてほしい。
- 個人ロッカーがない為常に重い荷物を運ばねばならず不便。自宅から大学までが遠いが、家賃が高くて一人暮らしができない。試験日程の組まれ方が変な為勉強がしにくい。
- 音楽練習に使用できる場所が少なかつたり、特定の団体に割り当てが集中していたりするので音楽練習の環境確保に苦勞する。下宿がインターネットにつながつていないので情報収集等で苦勞する。

[理二女子]

- ・大学での人間関係はこれまで経験していたものと少し異なるように思う。価値感の違いに悩むことがある。
・女子が少ないことでたまに肩身の狭い思いをする。
- 恋愛のことで勉強が手につかなくなることがあります。でも、幸せな悩みだと思っています。
- 構内に時計をもっと設置していただきたいです。
- 進学振り分けで自分の希望する学部学科に進学できるかどうか不安であり、また将来についても不安です。また、恋愛問題により勉学が妨げられることもあり、困っています。相手も東大生ですが…。東大生同士の恋愛について相談できる人があまりいません。周りには互いの知人が多いので。

[理二男子]

- ・本郷キャンパス付近の賃貸物件が高い。
・寮の数が少ない。
・郊外に住むと通学時間が長すぎる。
↑とにかく住居費の問題が一番大きいです。
- 通学時間が長く、時間が足りない。教養課程と専門課程のレベルが違いすぎてついていけない。親から自立したいが、親の収入が多いので奨学金がもらえない。
- 進学振り分けで内定が決まっても実際に進学するまでに別の学科等に移動したいと感じる。専門課程に入ってももっと自由に他学科や他学部の講義が受けられると良い。

[理二女子]

- 教員免許の取得と、授業との両立が不安です。3年から実験が始まるのに、教職科目の単位取得や教育実習について不安に感じます。
- 進路。家族や親せきには理系の人がないので、将来のイメージが湧きにくい。自分のやりたいことが分からない。まわりの人が自分よりすごく見えてしまう。

〔理三男子〕

- MO組織学のチューターを増やしてほしいです。分からないのを見ているあまり分からないし、質問しようにも常に誰かが質問しているか感じで聞きにくいです。

〔法男子〕

- 就職活動と学業の並行が難しく、苦しんでいます。他大学よりも情報収集に不利な点があるという実感もありますが、それは自分の行動量でカバーできる。一番の難点は「試験日程」です。9月の上～中旬に試験が行われたおかげで2つの企業のインターンシップをキャンセルする結果になりました。次の試験は2月上旬。企業の選考との両立ができるか、今から不安です。
- 慶応生の方がコミュニケーション力もあり使えるんじゃないか、と就活をしていて思っていました。必死さが東大生にはかけているのかも。
- ・授業内容が高度で、消化しきれない事がある。
・答案の書き方がよく分からない。
- 大学では高校と違いなかなか友人を作る機会がないので苦労しています。
- 法学部はマスプロ授業が多く、生徒の具体的な学習指導がはなはだ不十分であると感じる。基礎的分野の講習会や補習、答案練習会などを行ってほしいと思う。先生方に言うと忙しいため不可能のようであるが、ならば教員の数自体を増やしてほしいと思う。
- ・冷暖房が極端だったりすることがある。(各教室の)
・1限が8時半から、というのは家が少し遠い自分にとってはややきつい(1コマ100分も長い)
(学食の質向上)
心配は特にはないです。
- 文系と理系で学費が同じであるのは不服、財源移譲の必要性は否定しないが、ある程度の差を設けることも出来るだろう。近年低所得層の東大入学も増えているのだから、金銭面にはより一層敏感になるべきであろう。
- 法学部に在学していますが、法学部は「人を育てる」視点を著しく欠いていると思います。たしかに東大法学部は授業の難度が高く成績評価も厳しいので、その点では他の学部や他大学よりも評価できますが、25番教室で昔ながらのマスプロ講義で成績評価は期末試験一本勝負であり、ゼミも1学期間だけで適当に終わってしまい、卒論もないのがよくないと思います。その点、経済学部はマスプロ講義であるものの多くの講義で小テストやレポートが出て、全ての教授がゼミを開き、しかも2年間継続して卒論もあるので、法学部と異なって学生1人1人を尊重した親身の教育をしているという印象を持っています。法学部も昔ながらのマスプロ教育から脱出して経済学部や他の大学の教育を見習ってください。
- 私自身はそう心配していませんが、やはり進路サポートについて東大は弱いと考えます。卒業生のネット

ワークを活用できればかなり素晴らしい進路指導あっせんが可能では。

- 留学生と日本人学生との交流が乏しいと思う。国際化を叫ぶなら、交流の機会をもっと大々的に設けるべき。
- うつになった人間が相談室に自分から行くのは本当に大変なので、成果なり利用者数なりどういうプロセスなのか、などをもっと開示してほしい。知人間での利用者がほとんどおらず、利用するかどうか迷い、結局やめてしまうという状況では、そういうものを設置している意味も半減するのではないか。

〔法女子〕

- 民間就職について、夏採用や秋採用に関する情報が少ない。
- 法学部の授業は人数が多く、殺ばつとしていて友人が作りづらいので行くモチベーションが湧かない。しかも、出席をとらず試験のみの評価なので。ある意味自由だが、大学のカリキュラムとしてどうなのか。実際、試験の前日に勉強するだけで単位を取得し卒業できてしまうことは弊害な気がします。

〔医女子〕

- ・他の学部との授業時間帯が異なるのが少し困ります。他学部で授業を受けに行こうと思ってもなかなか合いません。
・毎日授業が一杯に入っていて、他のことをする時間や体力が残らないのが大変です。2年生の後期からもっと専門科目を増やしたりして負担を減らしてほしいです。

〔医男子〕

- 先輩、後輩、同輩、先生とのつながり、関係が希薄すぎて困った時に相談できる人がいない。また将来的に自立してやっていけるか今のままでは不安が大きい。

〔医女子〕

- 「結婚したら学費半額」という制度があると聞いていたが、噂にすぎなかったらしく残念。奨学金制度などをもっと充実させるべき。大学近くは家賃が高い。
- 先生方、事務の方、先輩方、友人、皆々様によくしていただき、大変感謝しています。(このアンケートにも感謝しています) いろいろとありがとうございます。ただ閉口するのは部屋々の汚さです。親に「ではまずあなたがそうじしなさい。」と言われたので、時々ゴミ袋とぞうきんを持って登校します。でも、もう少し組織的、定期的に清掃していただきたく、なにとぞよろしく願いいたします。

〔工男子〕

- 学科の人間と話があわない。隣の学科だと話題があ

るんだけど…。

- 駒場キャンパスのトイレやシャワー室が汚い上に使用できないことがよくある。(シャワーの水が冷たかったり、出なかったり。) 生協や食堂等をきれいにするのはいいが、普段外から見えないような場所の整備をしっかりとってほしい。

[工女子]

- 理系学生は、院へ進学する人が多く、周りに就職する人があまりいないので、情報が入ってこない。将来に対する不安があるので、理系学生の中の横のつながりを促進するようなことをしてほしい。(毎日同じ学科の人としか会わないので…) 私の家は兄弟が3人で、父も、もうすぐ定年なので生活費、学費がかさんで困っている。3人とも実家を離れて一人暮らしをすると生活費(衣食住)だけで、かなりの額になってしまい、私も院へ進学して親の負担になってしまうのではないかと悩んでいる。

[工男子]

- 研究室での担当教員が厳しい。学生のことより実験やデータの方が大事なようで、実験で徹夜させられたり、雑用を押しつけることがよくある。大学院は合格したが、所属の研究室と同じ研究室であるため、進学すべきか非常に迷っている。学費を払って教員にいいように使われるなんて、辛い思いをしたくない。
- 建物がボロボロ。不衛生。そうじとかのレベルではなく、建て直してほしい。
- 来年からの大学院学費の用意(修士からは自立のため)。進学の明確な理由がよく分からない。
- 授業がマスプロでつまらない。あれは高校・予備校よりひどい。
- 大学院へ進学した後の進路に不安がある。大学の側で大規模な就職説明会や入社試験、面接、小論文の指導を行うべきである。
- 自分の将来についてももう少し考えたい。勉強をしていれば良いという考えをする人が多すぎです。院生を見ていると就職活動をさせてもらえていないです。これが一番の不満です。他大学の人は就職のために時間をかけているため、結局東大に来て就職で不利。何の為に努力してきたのか、これから何の為に努力するのが分からなくなります。大学生活が今までで最もつまらなかったです。世間では一番楽しい時期らしいですね。先が思いやられます。
- 学部3年まで、多方面にわたる基礎科目のそれぞれに理解を深める時間を割り当てていくことがなかなか出来ず、学期後半には授業中話されていることがほとんど理解できなかったり、課されたレポート課題にも手をつけられなかったりして、可と不可が半々程度に終わるということを繰り返しており、学部4年でついに必修科目のレポートにすら手をつけられなくなって院試の出願すら諦めざるを得なく、大学にも行けなく

なって自宅で身動きできなくなっている状況が半年続いています。

[工女子]

- 大多数を占める男性が過ごしやすい環境のまま、変わろうとしていない。少数派の女性がどうしても居心地の悪い思いをして、それは仕方がないという考えが圧倒的に多い。また、学生どうしがふれ合う余裕がないように感じる。施設にしても、カリキュラムにしても。
- 卒論その他の研究で休みがとれず、アルバイトもほとんどできてないので生活がこの上なく苦しい。

[文男子]

- 就職支援をもっとしてほしい。

[文女子]

- 研究室に所属しているが、同級生、教授と疎遠で人間関係以上に学業や卒論に差し障るのではないかと不安。研究室自体は出入り自由だが、雰囲気非常に閉鎖的で知り合い以外の人間には冷たいので寄りつくことができない。

[文男子]

- 老令(73才)なので、教室の小さい机や椅子は不便。プリントも細かい文字は読みにくい。時に休息したくなるが、快適な静かな休息室がない。
- 学費が高いように感じます。私立ともう大差ないのでは?アルバイトだけで賄うのは、かなり難しいでしょう。一方で奨学金もハードルが高く、また、返還のことを考えると、たやすく申請できるものではありません。学費さえ何とかできれば、将来の展望も描きやすくなります。ご一考のほど、よろしくお願ひいたします。
- 御殿下グラウンドにシャワールームが併設されておらず、他大学が試合をしにきたときにかわいそう。
- 文学部の施設に自習できるスペースが少ない。
 - ・冷水機をもっと増やしてほしい。
 - ・文学部や法学部でよくやっている、机にビラを大量にばらまく行為を、どうにか規制できないだろうか。煩しいし、資源のムダだと思う。
 - ・休講などの情報や掲示が、教務課と研究室で食い違っていることがよくある。
 - ・昼休みにこそ、教務課を開けといてもらいたい。1限から4限までの日が続くと、なかなか利用できない。
- 個人ロッカーがないため、重い辞書や書籍など毎日もちかえらなくてはならないので、大学の近くに住んでいない人にとっては大変。

[文女子]

- 専修課程内の人数が少ないので、学科ごとの交流を

はかることのできる機会が欲しい。

- 院進学したいが経済的に苦しくあきらめざるをえないのが悔しい。
- 大学で、どこに居ようか本気で迷うことがある。つまり、ちょっとしたときに座ることができるイス、テラスのような場所（主に屋内）がもっと欲しい。友達と話したりご飯を食べたりできる場所があまりにも少ないと思われる。コミュニケーションの場所をもっと増やして下さい。そして、できれば図書館の1Fに飲食できるフリースペースを作って欲しいです。
- 大学院の試験に合格するか不安。また、進学後にどのようにキャリアが進むか、ということに関する情報がなくて困る。助教に直接話を聞いたが、いつ博士号をとれるのか、いつ就職するものなのか、などの情報を得る手段がなく、キャリアプランをたてられない。専門的な教育を推進するのなら、将来に関わることも情報を与えるべき。

〔理男子〕

- 自分が将来何をしたいのかがはっきり見えず、現時点での進路希望も、何らかの決意に基づくものではない。進もうとしている進路に対する確固たる動機がないので、どこか煮え切らない思いで日々を過ごしている。
- 通学に時間がかかるが経済的事情により下宿をすることができず困っている。
- 将来研究者として自活できるかどうか、自分の力がどれほど通用するか。
- 誠に勝手な要望ですが、昼食も夕食も大学内でとることがあるのですが、本郷キャンパスでは（特に夜間）生協食堂がメインとなっています。食生活の多様化をはかるために、もう少し外部の企業を入れる（駒場キャンパスのように）ことはできないでしょうか？

〔農男子〕

- 3年進学後も、個人ロッカーの類が欲しいです。

〔農女子〕

- 学生相談所や御殿下の施設などの利用時間が、授業開講時間に限られており、利用したくてもできない。もっと早朝や夜間に利用できるようであれば、真面目に授業に出ている学生は利用できない。
・授業や部活等で複数のキャンパスを行き来するに当たり、交通費の補助がないので経済的に負担となっている。金銭的理由で実習を欠席する学生もいる。

〔農男子〕

- ・やりたいことがみつからない。
・自分は当てはまらないが、研究室についていけない人や研究室の雰囲気合わない人は、他に逃げ場がない場合精神的につらそうである。
- 卒論によるプレッシャーが大きいです。

- 博士課程まで進んだ時に就職はあるのか、大学院で生涯をささげる研究テーマが見つかるか。

〔農女子〕

- 精神を病んで消息を断った友人の行為。

〔経済男子〕

- 学士入学のようなマイノリティー向けにより考慮した制度があると助かります。

〔経済女子〕

- 良い意味でも悪い意味でも学生の自由にさせる部分が多いので、将来の進路を決める時などは自分から動かなければ何も始まらないので、そういう所は「本当にこれでよかったか、他に道はなかったか。」と不安になったり、心配になることもあった。

〔経済男子〕

- 大学3～4年生になると、語学クラスがなくなるため、新しい友達ができにくいこと。
- 履習届の提出日、卒論の締切日等は、メーリングリストで情報を流す仕組みが出来れば良いと思いました。

〔教養文男子〕

- もっと世界で名の通る大学にしてください。
- 公務員試験の勉強がはかどらないことである。やはり授業・部活・LECの三つは時間的に厳しい。短期留学で米国に行きたかったが、TOEFLの点数が足りず断念した。英語1の授業で英語嫌いになって勉強に手をつけにくい。東大生になればモテると思ったのに恋人ができない。結婚したい。

〔教養文女子〕

- 専門課程に進学しても、一般教養科目を多く履修しなければならぬことが苦痛である。文系は大学院入試が冬に行われるので、進路の決定が遅くなり、不安である。

〔教養文男子〕

- 前期 後期とも教務課の職員さんの対応が非常に淡々として冷たい。窓口の空いている時間が短すぎる。教員の方の学生に対する態度が淡々としている。もっと学生との関わりを持つようにしてほしい。
- とにかく生活が苦しい。東大は親の平均収入が最も高い大学だと言われるが、親に仕送りをしている生徒がいるのも忘れないで欲しい。

〔教育男子〕

- 大学院に進学したいのだが、家庭の経済状況を考えると二の足を踏んでしまう。大学院に進むことで更に授業料や生活費の面で両親に迷惑をかけてしまうこと

になり、本当に申し訳無く思ってしまう。

- 親父が失業して最近10年弱金がない。自分でバイトしまくって卒業までに1000万円稼いじゃうよ。田舎の青年が勉強して東大に合格したのにこんな生活。ありえない。こんなに大学に行けてないのに卒業できてしまうこの天下の東大のユルさ。教育の機会均等なら学費は1000万円以上（年収）の家庭が多く負担しろ。というか、授業料（少なくとも私の）をタダにするべき。あと1年ちょっとだから払うけどさ。働いて（もちろん）。
- 就職活動と授業の両立が上手くいくかどうか不安です。出席重視の科目が多く、企業のセミナーなど平日昼間に開かれるものとの兼ね合いが難しく、悩んでいます。単位を落として卒業できなければ希望の就職先に内定をもらっても意味がないので、現在を大事にするか将来を大事にするかの判断が難しいです。

〔教育女子〕

- 学費を免除してほしい。年収が400万円以上あっても、親に申し訳ないと思いつつ勉強したくない。特に院進学は申し訳ない気持ちのせいでだいぶ迷った。奨学金も将来返せるか不安、すでにだいぶ借金がふくらんでいる。もう成人しているのだから、親の年収が少しあっても学費を免除あるいはアルバイトで払える程度の額にしてほしい。大学院は特に。

〔教育男子〕

- 学費を免除してもらえており助かっているが、他にも奨学金制度の整備等により経済的に苦しい学生であっても安心して勉学に励むことができるようにしてほしい。現行の奨学金制度はほとんどが貸与である上に手続きが煩雑だと思う。手続きを簡素にし、奨学金の対象者を増やし、また奨学金の（対象者だけでなく）種類も増やしてほしい。さらに、奨学金の案内の掲示が見づらい。もう少し字を大きくしたり、古い情報は掲示から外したりしてシンプルで見やすい掲示にしてほしい。

〔教育女子〕

- 大学1・2年時に、カリキュラムの相互関連性がなく、体系的学習ができないばかりか、1つ1つ中途半端で、何の役に立つのか見通しが立たないことが非常に腹立たしかった。これがあれば進振りとかもっと有意義にできたと思う。（コアカリキュラムがあつて（取り方の例など）学科ごとにプラス何を取れば良いとか決められた方が学習効果があるし、モチベーションも維持できる）アパシーや不安障害の学生も減るのでは？
- 女子トイレが少ない。

〔薬男子〕

- 薬学部に通っているが、薬剤師資格取得のための授

業等があるせいで、将来必要となる知識を蓄えるための勉強時間が足りなくなる。

〔薬女子〕

- 授業や研究室に時間が拘束されすぎて、家庭の中で自分の役割をはたすことができない。金銭面（学費）で親に頼り過ぎている感がある。もっと学生が自律して大学へ通えるよう、寮や奨学金（親の収入に関係なく）を充実させてほしい。
- 忙しい研究室生活の中で健康維持をするのに苦労しています。運動をする時間はほとんどなく、食事の時間も不規則（夕食に関しては食べられない場合もある）で、とても不健康な気がします。研究室生活そのものは好きなのですが、健康的な生活スタイルを維持できないというのはとても辛いです。

その他特に大学への要望やこの調査に対する意見がありましたら、具体的に記入してください。

〔文一男子〕

- この調査にどんな意味があるのか分からない。はっきりいって無意味。生活時間とか分かるはずがない。データとして不正確なものを用いて、何をしようとしているのか。
- 金額や時間等について、平均の記入を求めているが、その月や日によって、数値が相当に変化する以上、単なる平均値にどこまで意味があるのか。
- 成績の評価基準が不明確過ぎる。教授の持つ自分の情報を全て開示してほしい。(採点済の答案、レポートなど)
- 芸術活動(オーケストラ、演劇等)のための、多目的ホールの設置を切に願う。講演等にも使用可能であろうし、文化的活動に対する援助は、決して大学の損失にはならないはずである。

〔文一女子〕

- 変えられると思うことや、改善されるべきだと思うことはかなり沢山あるが、どのような形でそれを大学側にコミュニケーションすれば良いのか分からない。これについて友達と話していたところ、同じように考えているようだったが、「でも相談したり提案してみても何も変わらなそうじゃない?意味ないよ」と言われてしまった。彼が間違っていることを願う。
- 簡単に、このアンケートでは「年収」だけを聞かれましたが、我が家には私の下に2人の弟がいて、2人とも私立大学への進学を望んでおり、また父も高齢です。単純に年収だけで家計の切迫度合いを計ろうとするのはいかがなものかと思えます。特に年収400万以下の家庭で授業料が免除になると聞いて、強くそう感じました。

〔文一男子〕

- 特にないですが、一点だけ言わせていただければ駒場のアドミニストレーション棟の窓口の対応が最悪。電話対応も感じ悪いと親も言っていました。友達にも話した所、予想外に共感を得て場が盛り上がりました。ありがとうございます。調査項目の中で大学の社会貢献に関するものがありました。社会に大学をもっと開いていこうとしているのなら、こうした直接社会との接触をもつ現場での意識改革に努めなければ何やっても「そこそこ」の結果になるんじゃないでしょうか。もちろん職員全員がそうではないと思えますし、私企業並みの丁寧な対応を大学の職員に要求するのは不可能を押しつける事に等しく、かえって気の毒に思います。ですがせめて「普通」の対応をお願いします。評

判悪いですよ、本当に。

- 自分の生活を見直すいい機会になりました。
- 進振りを早めて(1年で決めてしまう)後期課程進学後の転部・転科をもっと広く認めて欲しい。例えば法学部に在籍してしまうと、他学部に移りたくて再受験か卒業後学士入学かしか選べない。
- 忙しい中で調査に答えるのももう少し時間を減らしたらどうですか?

〔文一女子〕

- こういうアンケートは図書券があたるなどの特典が無いと回収率は上がらないと思う。
- 学生会館でサークル活動をしているのですが、あの建物の老朽化がひどいので新築してほしいです。
- 法学部の先生、もっとわかりやすい授業をしてほしいと思う人が数人います。しゃべるからついてこい、もいいですがこちらの学力向上にも協力していただきたいです。駒場の教務の手続き関係の告知が不足しています。進学願など
- カウンセリング機能を強化してほしい

〔文二男子〕

- なるべく早急に留学制度を充実してほしい。(入学前までは経済学部に進みたい一心で文Ⅱを受けたが、経済学部の留学制度がほとんどないことを知り、現在では教養学部を考えるようになった。AIKOMだけでなく、もっと学部生に対して単位互認する交換留学の門戸を開放してほしい)
- 授業の偏りが多い。例えば、金曜5限に取りたい授業があっても、2、3、(4)、限に取りたいと思う授業がなく、金曜5限を履修するのをためらってしまう。
 - ・11号館1階のトイレを改修して欲しい。
 - ・クラス指定の講義では教授・講師の違いによって、成績・理解の差が生じるのはやむを得ないが、その差が大きすぎる。
 - ・人が多いとき、駒場東大前駅のホームが危ない。
- 文科2類生の約75%しか経済学部に進学できないシステムになっている進学振り分け制度の改善を要望する。これでは入試の際に、科類別に合格者を分ける意味がなくなるのではないか。これが文科2類生の大多数の意見であり、よく受け止めてほしい。
- 「ブックガイド」、「レポートの書き方」「論之の書き方」といった中性的な教材を入学時に大学側が支給、又は安値で提供してくれると学生は勉学の道すがら出て助かると思います。

〔文二女子〕

- 特定の曜日、時限に授業が集中していて、(例えば2007・冬学期でいえば月曜2限に授業が集中してい

る、また木曜3限にはほとんど授業がない) 興味のある授業を諦めなければならない場合があったので、もう少し工夫して欲しいです。

〔文二男子〕

- 各授業で、小テストや宿題などの確認手段がもっと多いと、普段の学習のプラスαとなり良いと感じる。
- 奨学金について、経済的格差を補うためのものだけでなく、一般学生の学力レベルを上げるための奨学金も積極的に拡充すべきだと思います。成績優良者の授業料を免除するなどし、その分野をリードする人材の育成のための土壌を整備する必要があると思います。
- 学生会館の管理が行き届いていなくて困っています。

〔文二女子〕

- 経済学部の専門科目1(教養学部 前期課程において履修可能な専門科目)は第四学期に集中しすぎです。その結果、第3学期は時間をもて余していたのに、第四学期に急に忙しくなって講義に遅れをとっています。法学部のように第3学期から専門科目が履修可能であれば、もっとゆとりを持って、かつ効率的に勉学に励めたかと思います。キャンパス間で図書館の本を取り寄せができるといいです。

〔文三男子〕

- 大学の教官の中には、本当に尊敬する方もおります。特に東大はその数も多いのでしょう。しかし残念なことに、東大の教官の中には大学で教壇に立つに適しない方も多くいると感じられてなりません。カリキュラムに沿わない授業を平気で行う人、理不尽な課題提出を求める人など、本当に教官なのか?と疑わざるを得ない人が多いのです。学期末に実施している授業評価アンケートはそれを如実に示していると思うので、もっと授業評価アンケートの結果を重要視してほしいです。
- 方法基礎の授業をどうにかするべき、60人のクラスで演習などではできないはずがない。非常に中身の薄い授業になっている。
 - ・もっと画一化された授業をするべき。歴史Iで、教える先生によって授業内容・テスト・評価方法が違ったりするのは変だ。選択必修でそれが無理でも、特に、必修の語学等は、「出席点とテストの点1:1で評価」「テストは共通」みたいにするべき。
- 進学振り分けは、教養教育を形骸化している。多くの学生は、授業が自分の興味のある授業よりも、評価の甘い教官の授業をとる方が得だと考えている。もし教養教育を生きものとしたいならば、4年間教養教育とすべきだ。
- 駒場キャンパスの空地や旧食堂等の今後の具体的な土地利用を明確に示してほしい。食堂が狭い。宿泊施

設を増やしてほしい。多少値が張ってもシャワー棟を平日の日中はオープンにしておいてほしい。

- ダルイですね。でもたまにこうして自分の生活を振りかえるのは嫌いではないです。
- スポーツ、身体運動実習の内容をもっと充実させてほしい。教員の指導力がまちまちなので。必修の授業に関してはもっと底上げして欲しい。履修訂正できる期間をもう1回増やして欲しい。無地の封筒が小さすぎる。
- 東大出身ではない教師がいた方がいいと思います。
- 食事施設の増設・誘致を行ってほしい。

〔文三女子〕

- 教授との懇談会やアドバイス、学科の紹介などをもっと充実させてほしい。文系だが、理系のラボなどものぞいてみたい。大学がせっかく企画しているのに、学生側に認識されていないことも非常に多い。新1年生と東大総長との対談を実現してほしい。東大にいらっしやる権威にお会いしたい。
- 留学制度の更なる充実(交換留学生の数を増やす、等。とにかく低負担で留学できる制度の充実)

〔文三男子〕

- 入学後のカリキュラムによる学部(科類)間格差をなくして頂きたい。例えば文Ⅲの2学期は方法基礎が2コマ入るが、内容が文学、歴史学に偏っている。文I、文Ⅱの学生は、法・経済という興味のある授業が受けられるが、文Ⅲは文学部系の学問ではなく教養学部系の学問に興味がある場合、負担が増えるだけである。また、進振りは本来全ての学生の希望が叶えられるべきだが、無理ならば、全て全科類枠にし、科類によって点差があるという問題点をなくして頂きたい。
- 1)カリキュラム変更に伴い語学の授業の少人数制を徹底したためでしょうか、カリキュラムが上手く組みまれているように思います。以前は文学部と駒場の間で火曜の午後は文三の必修で組まないようにするので、そこで文学部の持ち出し講義を数多く開講するという協定が結ばれていたようでしたが、あまりに機能していないように思います。もう少し学部間の壁を低くして連繫できるようにして頂きたいです。2)情報端末に不備が多いような気がします。スムーズに学習できるような環境にして欲しいです。
- 留学支援や図書館の充実等、学生の‘知への欲求’を満たして欲しい。また、たとえ私が社会人になっても、最先端の技術や科学、思想、時事問題に対する(識者としての)大学・大学院の研究者によるレスポンスが知りたいと思う。忙しい社会人がそのようなものにアプローチしやすいような創意工夫が欲しい。社会全体の中で、〈知を司る組織としての〉大学の立ち位置を模索して欲しい。
- 進振り制度の改善をしてほしいと思った。点数を中心に判定するのではなくて、それまでの過程を考慮

に入れてもらえるようなシステムであったならよかったのと思った。

- ・先生方の研究が学問の世界の中でどのように評価され、位置づけられているかがわかる本がほしいと思った。
- 学生がゆっくりしたりずっとすみつけるようなサロンのようなスペースが駒場に欲しい。食堂は時間帯が限られていて不十分、できれば寮を拡充してほしいし、図書館も24時間あいてほしい。
- 〈大学へ〉教養教育を掲げるなら、点数を稼げば(稼がないと)目指す学部に入れる(入れない)制度、つまり現行の進振りの仕方は改めるべきです。点数を稼ぐために勉強する、つまり逆評定買って緩い先生の授業を取って、少しでも厳しそうなら切る…みたいなのはダメでしょう。
〈この調査に〉せっかく学食を新しくしたり小宮山さんが頑張ったのに、「学食の雰囲気はよくなったか」「進振り制度が改ったがどう思うか」など具体的に踏み込んでほしいと思います。何か別に東大生じゃなくとも他大の人たちでも同じような答えが出るような質問が多かったです。(例、一日の平均時間の使い方など)
- 喫煙エリアを廃棄すべき。あと、授業時間中に工事など騒音が出ることをやるべきでない。騒がしくて授業に集中できない。
- 質問が詮索的すぎる。大学として(他大もそうだが)「実学」重視の印象がある。文学などの「実用的でない」学部の機能の充実なども、もっとしてほしい。
- 文系の学生が理系科目をより本格的に学べる環境があると良いと思います。現行のカリキュラムでは多くの授業が半期で組まれており、文系の学生用の理系科目はどうしても内容が薄くなったり、あるいは逆に大変急ぎ足になっていたりして、十分な理解ができないのではないかと思います。もう少し長い期間で、じっくりと学習に取り組めるようにできるようにして頂けると有難いです。

[文三女子]

- 進学振り分けの制度を改善して下さい。具体的には、傍系進学を壁をもっと低くして欲しいです。今の状態だと科類間に格差がありすぎだと思います。文三生にとって、進振りはかなり精神的負担になっていて、摂食障害になってしまった友人もいるし、私自身抑鬱症に悩んできました。また、頑張って勉強してきたのに法学部の点数に僅かに届かず、他学部に進学しながら法律の勉強を続けている友人もいます。今のままでは、入学した時点でほぼ進学先が決まっています。もし進振りの制度が続くなら、本当に勉強したい人が好きな事を勉強できる制度にして下さい。

[理一男子]

- 各学部の教員がそれぞれの学問分野について解説し

ている冊子等があるとありがたい。この分野ではこういうことをテーマにしている、初学者はこんな本を読むといいよ、といったことを説いてほしい。単に自分の勉強不足なのかも知れないが、ある分野に少々興味を持ってその勉強の仕方が全然わからないので。

- 喫煙所の厳密な区分けと、タバコの自販機の撤去と、ライターなどの関連商品の販売中止と、禁煙ステッカーの倍増を行って、健康面における弱者への配慮と誠意を見せてほしい。調査にタバコに関する項目がない。麻しんなど時事的なことに関する項目がない。
- この調査がどの程度大学側のもろもろの判断に影響を及ぼしているのか気になります。
- 必修科目なのにクラスによって期末試験の難易度に明らかなクラス間格差がある。同じ科目で同じ点数の扱いをされるのだから全クラスで同じ試験にすべきだ。
- 進学振り分けは成績で行われるのに、簡単に高得点を与える教授がいる。優3割規定を有名無実化しているのでは、話にならない。しっかり教官に厳罰を与えてほしい。
- U-Taskに残りの必要取得単位数を載せてほしい。
- インターネットとかで記入できると楽でいい。
- 11号館や13号館などのトイレを改装してほしい。活動の自由とは言え、政治がらみのピラが大量に机に置かれていたり、道でスピーカーを用いて演説したりするのは、すごく不愉快になる。規制してほしい。ロッカーを大きくしてほしい。入るものが限られてしまい不便。
- 最近、私の周りでは、「東大に来て良かった」という発言が減る一方で、「何で東大に来たんだろう」という発言をよく耳にする。入学当初のように、学生たちが再び意欲と希望にあふれんことを願う。
- 調査し統計の結果をまとめるだけでなく、その結果を踏まえ、学生・教員のためになることを実行してほしい。
- 欧米などの大学への交換留学の機会を増やして頂きたいと思います。
- 学内で、政治団体が蔓延しているのがとても気になります。
- 寮を充実させて欲しい。
- 進振りについて。完全に点数順にすべきである。現在の制度では、点の高い人の第二志望より、点の低い人の第一志望が優先されるが、これでは、本当に行きたい学科を第一志望に書けないことがある。将来を決める進振りにおいて、掛け引きみたいなことがあってはならない。点数の高い人から自由に学科を選ぶ制度にすべき。
- 駒場2年夏学期に「モノづくり」の体験の授業を用意してほしい。語学を徹底的に学ばせてほしい。授業に出席しないような不真じめ学生が進級できる制度はやめてほしい。
- 講義で問題を出されるが、その解説がされずに、最

最終的な答えを示されるだけだったり、答えさえ示されなかったりする。しっかり解説して欲しい。教室が狭い。食堂が狭い。食堂で勉強するのを禁止して欲しい。

- この調査に関して。アンケートという形態上仕方ないかもしれないが、X、?のバイトや普段の生活について「1日平均」「1ヶ月平均」できかかれても全く正確なデータが書けなかった（毎日同じような生活ではないしバイトも月ごとにいろいろ変わるので）ので、データとして無意味なものになっていると自分で感じる。全体の傾向を調べるためのものであるとは分かっているがもっと工夫が必要だと思った。
- 昼休みに食堂、生協あたりに人があふれすぎている。前の食堂を開放するとかして食事できる場所をもう少し確保してほしい。
- 大抵の東大生は「どこどこに進学したいか」をあまり考えずに前期過程を過ごしているうちに進振りを迎える。つまり、入学時と進振り時のvisionはあまり変わらない。だから、企業説明会等は前期過程から始めても良いと思う。上記関連だが、vision（または夢）を持たない人が増えていて、進振りの際にも点数が自分に合った学部をテキストに選ぶことが多い。そういう人は「希望通り」とする以上、この調査は真実を反映しているとはいえない。

〔理一女子〕

- 扶養者の（具体的な）年収や、生活面などにおけるあまりにもプライベートな質問は、不適切に思います。学内広報に出すはずなのに、まるで受験生の親に読ませるために集めているような質問が約1/3を占めるのは、何のためでしょうか。東大生だけにアンケートを取る、その使い道はもっと学内（教師、学術、サービス）に向けた方が実用的ですし、（改善できる）アンケート分の費用の正しい使い方だと思います。

〔理二男子〕

- 授業の方法について、先生々が勉強する必要があると強く感じる。先生が生徒の意見を真摯に受ける機会が必要だ。また、自習する場所が少なすぎる。図書館が閉まっていたらどこで勉強しろというのか。教室で勉強していると、警備の方に叱られてしまう。東京大学の組織の実体がどこにあるのか見えない。自分が東京大学の生徒であることを感じることなく、授業をうけて、家に帰っている。Action planなど全く感じる事のない、ただ授業をしているような雰囲気をかえてほしい。
- 進振り制度自体は良いと思うが、その点数評価には改善の余地がある。まず評価の基準があいまいで、どうしてその点なのかわからない。総合ならばともかく、必修におけるクラス間の平等性は疑問だ。また、進学のために点数を稼ぐという行為に一体どういう意味があるのか？そうして入った先が自分に興味のないことだったらバカげている。点数に追われて勉強せざるを

得ない今の状況は大学という教育から考えて本末転倒だ。

- 図書館の開館時間、開館日、貸出冊数を増やしてほしい。コミュニケーションプラザ、キャンパスプラザ、学館の開館日を増やしてほしい。例えば振振りのガイダンスに総学生数を明らかに収めきれない会場を設定するなど大学側が学生を侮っていると見受けられることがしばしばある。大学は学生を人間として最大限尊重すべきではないのか。

〔理二女子〕

- 成績を優良可ではなく点数で出してほしい。また、必修の授業の期末試験の問題を全クラス同じにして、その上で成績のつけ方（出席点や中間試験やレポートを考慮に入れる、など）は各教員が裁量をもつという形が良いと思う。今の状態では過去問が手に入らないと勉強がしにくい。
- ・ ICカード学生証によるポストペイが使えるプリンターが図書館の一台だけで少々不便を感じる。情報教育棟にも一台ほしい。カラープリンターもほしい。
- ・ 5号館の西の外階段をよく使うが、ときどき3階まで上ってもドアが開いておらず下りることになる。開けるか閉めるか統一してほしい。
- ・ 投函締切を過ぎてしまい申し訳ありませんでした。
- 研究室公開や特別公演の宣伝をもう少し大段的にして欲しいです。

〔理二男子〕

- 教室のイスをすわりやすくしてほしい。腰が、長時間座っていると痛くなる。
- 調査項目が細か過ぎ、非常に答えづらい。特に時間を書かせるものは通学、授業等にしぼるべきだろう。生活費の調査も1人暮らしが前提となっているように思われる。平均値を答えることは、生活の実感とは異なるのではないだろうか？むしろ“実態”から遠ざかっている様に感じる。調査方法の見直しが必要ではないか、あまり賢明なやり方であるとは思えないが…。
- 必修科目における教官毎の評価方法の違いは、前期教養では死活問題なので改善した方が良いと思います。また時間割によって総合科目の開講数に極端な差が出ています。また進振りにおいて工学部への理Ⅱからの進学が農学部への理Ⅰのそれに比べかなり制限されたのに見えます。また、文系の方が理系よりも勉強が楽に見えるのは気のせいでしょうか。
- 教養課程と専門課程の内容が違いすぎるので、そのギャップを埋められるようなカリキュラムを作してほしい。
- 現行の進学振り分け制度の改革・改善を強く望む。必修の増加や、試験の欠席の0点換算などは、学生が点数の取り易く無難な科目を選択し、自身の興味よりも実利を尊重するという傾向を強めることにつながっている。月曜2限や木曜・金曜の5限に総合科目を多

く開講することは、多様な講義を受けることを妨げており、非常に不適切である。教養という理念は飾りに過ぎないと言わざるを得ない。旧食堂のメニューの方が飽きにくくよかった。駒場や工学部は新築・改築など施設の改善が進んでいるが、農学部のあるさまは酷い。早急な改善を期待する（特に図書館・トイレ・食堂・携帯電話の受信状況）。予算配分が不平等過ぎる。

〔理二女子〕

- 授業料をこれ以上引き上げないようにお願いしたいです。それから体育館の整備をお願いします。他大学と比べ、運動設備が著しく劣ると思います。
- 国際交流の情報等もっと大々的に告知して欲しいです。いろいろなプログラムがあるのに自分で調べないと分からないので、気づくころには締切りがすぎたりします。
- 後期課程における学習で、もっと学べること（授業）の選択肢を増やせると良いと思います。「他学部でとれる単位-10単位まで」となっている、実際、学科に必要な単位を満たすよう時間割を組むとかなりかつかつで、キャンパスが遠いことも考慮すると、他学部聴講はなかなか難しい気がします。

〔理三男子〕

- 院生への強力な経済支援をぜひお願いしたい。授業料免除や給付の奨学金を受けられるようにして欲しい。
- 医学部面接は行ってほしいです。MOになっても授業に来ない人、勉強が出来るだけで医師になる覚悟決意がなく、何となく理3に入学しているようにしか見えません。短い時間で人を判断することは不可能ではありますが、最低限、行ってほしいと願います。

〔理三女子〕

- 進学振り分け制度に対する試験の点数重視のシステムに疑問を感じます。少しでもいい点数をとるために、興味があってもリスクのある授業をとる生徒が減っていて残念に思います。二年生の夏に、一斉に必修科目での試験を課せば、広い目でゆったりとアカデミックに学びつつ、真剣に自習もできると思います。また、保健センターに行きたくても主に授業中しかやっておらず、風邪をひいても、足を負傷しても、授業を優先する限り治療がうけられないのは理不尽です。大学とは勉強をするところです。放課後に利用したいです。最後に、東大は日本の大学で、日本の為に活躍する生徒を育成する場であるべきです。海外から優れた学生を集めたい気持ちはわかりますが、意欲はあっても東京で暮らすだけの収入がない等の理由で受験を断念している優秀な芽も沢山あるはず。学生宿舎の充実等に資金を投入し、もっと日本のやる気のある学生を育てて欲しいと思います。世界ばかりに目を向けていると、いつの日か東大が日本以外の為の、日本人以外

で構成された大学になり果ててしまわないとも限らないと憂えております。

〔法男子〕

- 他学部と比べ、法学部への予算の割り振りが少ないように感じる。少なくとも学生生活を送る上で、恩恵を受けているという実感が無い。改善を望む。
- 法学部の教室の環境等を改善する動きはあるんでしょうか？あのような授業形式・空間・内容では、学生にMotivationの維持を要求することに無理がある気がしてなりません。
- 匿名性の確保を強調していたが、一方的に住所に送りつけられて、番号つきの封筒を渡されても本当に大丈夫か不安になる。（もっとも本音で答えはしたが）図書館の閉館時間が早すぎる。小宮山総長はLeading Universityだの何だの言っていたが、アメリカでは日付が変わるまで開いているのが普通。できれば24時間開けておいて欲しい。経費がかかるのは解るが、他を犠牲にしてもこれを望む学生は多いと思う。
- 教務の受付の対応を愛想よくしてくれて、キャリアサポートセンターをもうちょっとわかりやすい場所に移転してくれたら、後はこれ以上大学にしてほしいことはあまりないかも。学校のパソコンは全部DellかHP？にとっかえて下さい。使いにくすぎて、作業効率が多少おちていると思います。あと、図書館は24時間にして下さい。一階だけとかでいいので。
- シラバスに定められた授業内容を、日程内できちんと終わらせて欲しい。時間が限られているのに、趣味的な話に走る教官が多い。
 - ・ 学生の答案が気に入らないなら、基本的な書き方くらいは授業で教えるべきだと思う。
 - ・ 教官、教務とも学生への対応が不誠実だと感じる事がままある。
- 大学が国際化を推進するにあたって、やはり留学制度の拡充、外国人留学生との交流の機会の提供を今よりすすめるべきであると考えます。現状では、（当然ですが）大半は日本人学生ですが、将来、クラスメイトとの間で英語で話すような国際色豊かな大学であれば魅力的であると思います。確かに今でも様々な制度はあると思いますが、それを学生が自発的に活用していけるようなインセンティブをつけていくのも必要だと思います。世界に主張できる大学になっていただきたい、そうしていきたいと望んでいます。

〔法女子〕

- 縦のつながりがほしい。慶應大学のようなコネ（悪い意味ではなく）、愛校心をもっとつくるべき。

〔法男子〕

- 法学部は教材のコピー費さえ予算がつかない状態らしい。理系に回っている予算をもう少し法学部へ回してほしい。

- 大学に対しては、もっと学生の声を聞いてくれる環境が欲しい(大学に対して何か提言(というより相談)をするに当たって、どこに言えばいいのかわかりにくい←サークルでの経験)
 - 1) 法学部はあまりに大人教授業で、学生同士や学生・教授間の交流が極めて少ない。三類懇親会のような突発的イベントではなく、少人数授業で学生にも発言・発表させて交流を促すべきだ。
 - 2) 事務当局が極めて縦割りかつ硬直的。例えば法学部学生が、日本史研究室の本を借りるとき、いちいち法学部図書館で許可を受けなければならないのは、時間の無駄でしかない。
 - 昨年の就職活動の際には、法学部学習相談室に大変お世話になりました。しかし開室していない日が時折あったので、より開室日を多くすればなお利便性が良いのではないかと考えます。
 - サークル活動、講演会、勉強会などにキャンパス内の教室を利用したいのですが、(とりわけ本郷は)条件が厳しく、国家試験や学部公認のサークルなどの教室利用しか許可されないと聞いています。もう少し利用しやすくしてほしいのですが…。
 - ・総合図書館内に、コーヒーなどの自動販売機とコーヒーなどを飲んでもよいスペースを設置してもらいたい。もしくは電気ポットが置いてあってインスタントコーヒーが飲めるスペースとか。
 - ・必修科目に関してはもっと追試を受けやすくしてもらいたい。例えば3年の夏学期に設置されている必修科目が不可だった場合、現在の仕組みでは4年になって再び同科目の試験を受けそれでも不可だったときにはじめて追試を受けられるが、3年の段階で追試を受けられるようにしてもらいたい。3年の冬学期にある必修科目はより一層追試の設置のニーズは高いと思う。
 - 時間のつかいかたにまで立ち入って、何を成したいのか不明。制度の改善につながるのか甚だ疑問。数値を算出して増えたとか減ったとか結論めいたことを言って楽しむだけの自己満足ではないか。
 - キャンパスの緑が伐採されていっているような感じがします。高層建物に機能を集約し、都心の緑を保護するようなキャンパス計画も必要ではないでしょうか。
 - 国際化に乗り遅れていると本当に思う。
 - 事務手続きの簡素化をすると共に、心温かい対応を希望します。人数が多い(学生数)とどうしても機械的になってしまいがちになりますが、1人1人の学生ときちんと向きあって丁寧で心温まるサービスが必要だと思います。
 - 法学部生ですが、試験後のフォローをもっと充実させて頂ければと思います。特に講評などをしていただければ教授された理論の使い方がもっと身に付くのではないのでしょうか。
 - 大学の設備をきちんとして欲しい。食堂やトイレにはがっかりした。これでは、外国からの留学生も来ないと思う。衛生面はしっかりしていただきたい。あと、私が法学部生なので言わせてもらうが、法文2号館の31番教室の時計は直したのでしょうか。
 - 掲示板に貼っておけば知らせたことになるような処置には疑問。駒場時代は正門に重要事項の看板が出されそれに慣れていたので本郷では重要な事務手続を見落とすことも多く、不便であった。情報とその重要度を学生に伝える姿勢が不十分と感じる。
- [法女子]
- ・図書館で借りることのできる本の冊数を増やして頂きたいです。また、土日においても返却処理をして頂きたいです。現状では、返却ボックスに入れることしかできず返却処理がされないのが、新たに本を借りることができず非常に困っています。
 - ・自習室と個人ロッカーの拡充を切に希望致します。現状では、自習室は狭く席が不足し、また清潔とも言えません。また、個人ロッカーも小さくてとても全ての教科書は入りきりません。
 - 最近の本郷キャンパスの建設ラッシュはいかがなものか。大学・キャンパス全体の景観、統一観を損ねるような建築は、見ていて心が痛む。また、文系学部、学問の充実にも目を、予算を配ってほしい。特に、交換留学制度(法学部、経済学部)があれば、卒業生の活躍の場が広がると思う。
- [医女子]
- 進振りの制度は東大の特長だしすごく魅力的だと思うのですが、その手続きの方法がしっかりしていないと思います。駒場で扱う手続きと本郷で扱う手続きが独立していたり、学部に進学してからも他学部との連携ができていなかったり、東大で一括した総合的な教務をひとつ作るべきだと思います。
- [医男子]
- 医学部生なんですけど、居場所がありません。比喻ではなく、ロビーのような社交スペースを作るといいと思います。調査について…図書カードあげれば回答率あがるのでは?封筒に入りませんよ!
- [医女子]
- 保健センターの開いている時間が授業時間にかぶっているため、利用しにくい。
 - (この調査は)ネットにした方が効率が良いと思う。
- [工男子]
- 私は工学部に所属していますが、履修登録や成績確認が大学のパソコンでしかできないのが不便です。よって、大学外のパソコンでも可能にしてほしいです。
 - 駒場キャンパスの施設があまり活用されていないよ

うに感じます。せっかく立地条件などもよいので、もっと積極的に社会にオープンしていく、or 研究施設等を移設増設する等すべきだと思います。

- 1、2年における教養教育にある程度の統一性を持たせたり、教材に不公平のないようにしてもらいたい。教職員によって教える内容がかなり異なり、後期課程で苦勞することになった。
- ・奨学金制度をもっと充実させてほしい。
・もっと他学部・他学科の講義を気楽に取らせてほしい。
- カリキュラムを学生の裁量である程度かえられるよう。進路振りわけ制度の改正。駒場での学習カリキュラムの改正。(専門課程ゼミ的なものをもっと) 進振り以降も教養の授業をとりやすくしてほしい。
- もっと積極的に就職活動のための企業説明会などを開いて欲しい。特に理系向けが少ないと思う。
- 英語教育や大学院での留学機会の充実を図ってほしい。
- 進振りは改善すべし。点を取るための勉強は入試で終わりにしてほしい。
- 大学の授業料が年々上がるのは問題である。大学の側は、徴収した授業料が何に使われているか、1円単位で学生に説明する必要がある。その上で、無駄な支出を抑える努力をしていただきたい。
- 意志はあっても要領が悪かったり、理解力が低かったりしてついていけなくなっている学生を落ちこぼれさせないよう、学習面でのフォロー制度を充実させて頂けたらと思います。取りこぼした単位を1年後の同じ時間割で重複履修する制度が、非常に非効率で負担が大きく、破局の直接の引き金となりました。

〔工女子〕

- 大学構内(本郷)での貸し自転車制度をつくって欲しい。法学部図書館の他学部生(理系の学部)への本の貸し出しを可能にしてほしい。学部・学科の枠を超えた共同プロジェクトを研究室単位で行って、他学部・学科の人との意見交換を行いたい。

〔文男子〕

- 長過ぎる。回収率が悪いのは当然。
- 教養学部前期での専門科目の数を充実させてほしい。私は早くから専門を決めていたため、専門的な講義をほとんど受講できないのはとても苦痛だった。
- 理系の方が設備・建物等が最新で整っていたりして優遇されているのにも関わらず、授業料が文理横並びなのはおかしい。医学部は別だが他に関してはもっと公平にすべき。また学生に対するサポートは貧弱すぎ。院進学であれ就職であれほったらかしにして無責任すぎる。
- 環境に優しい活動を推進してほしいです。この調査もウェブに移行するとよいと思います。

〔文女子〕

- 学士入学してきたので、内部進学に関する問には答えられませんでした。たまたまあたってしまっただけなのでしょうけれど、特に前半にはいくつか解答すべきか迷った問がありました。少し外部からの進学者にも(解説をつける、解答する問題を限定するなど)配慮があるほうが、より良く正確な調査となるのではないのでしょうか。また、この記入欄については不掲載をもとめる権利があるのではないかと思います。
- 海外留学して勉強する機会が他の大学に比べて極端に少ないことが不満です。それから、2年まで三鷹寮に入っていたのですが、特に男子は倍率が高く、入れる機会が少ないので、もっと同じような寮の施設を充実させてほしいです。後期課程の寮にももれてしまったので、後期の寮も充実させてほしいです。よろしくおねがいます。

〔文男子〕

- 文学系研究科の大学院入試を8月にしてほしい。現在の1月実施だと就職活動への切り換えがその年度のうちにはやりにくく、大変不都合。学生の1年間は貴重なものと考えて一考願います。
- 私のような中高年の再入学者は今後多くなると考えられます。そのような対象者だけのアンケートなり懇談会なりを企画し、早めに対応策の見当をつけておく方がよろしいかと思います。
- ・授業料をもっと学部ごとのカリキュラムにそって柔軟に設定できないだろうか。理系と文系の授業料はほぼ同じなのに、使用できる施設に差がありすぎる。理系に高度な設備が必要なのは理解できるが、文系にも文献の利用といった面などでの利便性を高めてほしい。もしくはもっと安くしてほしい。
・公共政策大学院をまとめてひとつの建物にしてほしい。
- ・教務課などの窓口の職員の対応の態度があまりよくない場合があるので改善に努めてほしい。
・学部や院の事務関係の情報を掲示板だけでなく、ネットでも公開してもらいたい。
・文学部の学生、院生用の個人ロッカーを設けてもらいたい(無料でなくても可)
- 独立行政法人になって、飲食店やコンビニなど増えて興味深く、また便利に思いました。まだ途上とは思いますが、ならば様々なものを呼び込んでほしい。特に映画館(※名画座)。個人的に欲しいと思うと同時に、相当な話題にもなると思う。基本的には、大学に学生しかいないのは不健全だと思うので、一見しても魅力的になるよう、がんばってください。映画館できたら、卒業してもまた来るから。※“~教授セレクト”とか“九州地方出身者に贈るセクション”とか“東大映画祭”とかゼツタイうけると思うよ。

〔文女子〕

- この質問票のⅥ 家庭の状況についての項で、主たる家計支持者が2名いるために、質問に回答しにくかったです。家計支持者が1名という家庭のみを想定して質問票を作成するのは、質問票制作者の先入観を反映している（あるいは古い質問票のまま）なのだと思いますが、それでは現状をくみつくせない面もあると思います。両親ともに専門職でその所得で家計を支えているケースも、おそらく東大生の家庭では多いのではないかと思います。あるいはそうでなかったとしても、この質問票では家計とジェンダーの関連が全く割愛されている印象を受けました。（まあそれは今回の要点ではないのかもしれませんが）
- 研究室ごとに学生の環境がちがすぎる。せめて院生には一人一つの机くらい与えられるべきだと思うが、文学部の多くはそうでない。また、設備等の必要上ある程度は仕方ないにしても、理系に新しい建物等が偏っている感は否めない。

〔理男子〕

- 集計結果を公表するだけでなく、この調査結果が大学の施策の立案・実施にどのような形で活かされているのか、具体的に示してほしい。（たとえば、「調査の結果、学生の要望として…という意見が多かったので、大学側は～という施策の実施について検討を始めた」という形など）調査結果に対する大学側の見解と、調査結果が今後の大学の運営方針にどのような影響を与えたのか（あるいは与えなかったのか）、つまり調査結果を受けて大学側はどう動くのかということ、広く示してほしい。
- 学生への援助体制を更に充実させてほしい。授業料を安くするなどの対策をとってほしい。
- ・シラバスの入手が困難であること、履修登録期間が短いことなどが他学部聴講を妨げているので、改善願いたい。
 - ・必修以外の講義の拡大を希望する。
- 大学は、新しい世界に対して見識を深める場でもあると思う。そのために、より日本に、世界に対して目を向けられるような環境づくりをしてほしい。具体的には、世界の大学の現状について知る窓口を図書館に設置したり、他大学の人との交流、社会人との交流を増やしたりしてほしい。勉強のための勉強ではなく、何かをするための手段としての勉強をする下地を作してほしい。そうやってこそ、深い現実認識力を育めると思う。
- 私の実家はある程度の収入があるが、家族（兄弟）が多く、家計は同じ収入の他の家庭より厳しいと思われますが、奨学生の審査にそれは反映されませんでした。家庭の実態をより反映した審査条件に改善されることを望みます。
- ・本郷において、理系と文系の授業の時間帯が違うのを何とかして欲しい。このせいで他学部聴講がやり

にくくなっている。

- ・この調査に関しては、質問数が多すぎて答えるのが面倒くさい。特に、親に聞かなければ答えられない質問をするのはやめて欲しい。

〔農男子〕

- 教養過程における必修科目には、明らかに不要ものが含まれている。第二外国語や理系の専門科目等、必要な人が適宜履修して学べば良い。自分が将来研究したい分野に直接関係のない科目が必修になり、それによって学習意欲の減退がおこったり、進振りで失敗するようなことがあると不幸である。（私）
- お金の問題はつきもの。ある程度貧しいのが学生っぽいかもしれないけど、授業料や生活費を稼ぐため沢山のアルバイトをしている人を見ると心が痛くなる。特にこの大学は勉強をしっかりとしたいという学生が多く入って来ているはず。そんな中、勉強時間を削ってアルバイトをしなければならぬ学生が少なからず存在するのは、なんだかなあ、と思ってしまう。食費を切りつめている学生が存在するのも良ろしくない。満身に栄養を取れずに動きの鈍くなってしまった身体と脳をもってして、創造的な学術活動など営めるだろうか？お金を補助する制度の充実を要望します。特に大学院生の補助とか、ね。
- 四年生や大学院から研究室に配属されるが、理系で生物系の場合特に毎日夜遅くまで拘束されるケースが多い。狭い人間関係の中で、研究室の雰囲気合わない人は逃げ場がなく鬱病になってしまったり休学してしまうケースが多々あるよう見受けられる。よって大学の教職員が学生の心のケアなどの指南を受ける機会を設けるべきだと思う。例えば研究室ごとにうつ病による休学者数などをカウントし、大学側はきちんと対策を立てるべきだと強く感じる。具体的には、博士課程まで進むつもりのない外部からの修士課程入学者は、研究についていけないと同時に勉学のモチベーションもそれ程高くないためうつ病を発症し休学する割合が著しく高い。外部からの修士課程入学希望者には研究についてゆく困難を示し、また外部からの入学者に対する基礎的な教育も少しはとり入れる必要があると思う。
- 弥生キャンパス内の施設をもっと充実してほしいです。コンビニとか喫茶店を誘致してほしいです。トイレをキレイにしてほしいです。
- 進学後、再度教養学部前期課程に戻り進学振り分けをやり直す制度を造った方がよいと思います。進学を決める上で、前期課程では情報が少なすぎます。進学してから、違うと思った人が、2年間やり過ごすのは、無駄だと思います。あるいは、転学部、転学科のやりやすい環境を目指すか。
- 農学部図書館をなるべく早く修理してほしい。

〔農女子〕

- 照明、暖房、トイレなど基本的な設備の改善。

〔経済男子〕

- 就活に関してですが、合同説明会だけではなく、自己分析やES、面接などの対策のためのイベントを大学でやって欲しいと思います。
- 本郷はともかく、駒場はひどすぎると思う。単位数を減らす代わりに一年のうちから本郷のような授業をしたほうがよい。
- ①奨学金の充実（一律に親の年収で決めつけるのではなく、成績本位による授与も考えるべきでは。特に自宅外生は例え親の収入がよくても住居費の負担が大きいです。）
②要望がどう実現されるかについて客観的に測定する方法希望
- 駒場の教養2年間は長すぎるので、2年生からはもっと専門的科目の履修義務化をはかる方がよいと思います。
- 私は文Ⅱから経済に進学し、今年度卒業予定です。4年間を振り返ってみると、私は大学に入ってから学問的な成長を感じる事はできませんでした。自分の努力不足によるところが何よりの原因ですが、経済学部のカリキュラムの甘さは少し異常だと思います。実際、3年次には私は授業に1度も出ていないのに、40単位近く取れています。世界最高水準の教育機関である為には、もう少し学生を勉強させるシステムを強化すべきだと思いました。
- 海外大学院への留学の支援をもっと充実させてほしい。東大大学院と海外大学院の学生交流の数を増やしてほしい。単位の互換性も高めてもらえるとありがたい。

〔教養文男子〕

- 理系の実験が長すぎる。30年前は4時半には終わったと聞く。こんなに長く拘束されるならば、理Ⅰばなれば当然である。専門課程だけでなく教養学部においても3,4限2単位にも関わらず5限まで想定されている。毎年教科書を改訂するのに訂正箇所は毎年変わらない。教員たちの怠慢だ。

〔教養文女子〕

- 学部学生に対しても、奨学金制度を拡充させてほしい。また、寮などの設備の増設を望みたい。
- 進学先の学科では学生のやる気のなさもさることながら、教員の放任ぶり、授業のやる気のなさにも大いに失望した。放任は放任で構わないが、それならそれで進振り前にガイダンスなどで明言してほしい。サークル選びではなくこちらも人生がかかっていて必死なのだから、進振り前での教員の誠実な対応を求めたい。あとクラスが少人数だからといって優を大量生産するのいかなものか。大学側には実際の授業の現状把

握に努めてもらいたい。

- 駒場の就職活動支援を強化してください。
- 3年か4年連続で回答しております。割と面倒なのに見返りが特にならないのでは回収率は上がらないと思うのですが…。確か去年は抽選で図書券があたる特典があったように思うのですが。そろそろ図書券があってもいいくらい貢献しているのではと思ってしまいます。依頼の文面が若干高圧的に感じました。
- 2007年12月21日までに投函とあるが、このアンケートが届いたのが1月半ば（2008年）であったので、期限までに返送できなかった。

〔教育男子〕

- 学部生や大学院生に対して、学費の免除や返還義務無しの奨学金の賞与という形での経済的な支援を積極的に行ってほしい。
・学生寮を拡充したり新設したりすることで、学生を経済的に支援してほしい。

〔教育女子〕

- 運動会ひいきをしてくれる先生方が少ないのがつらいです。勉強だけが大学生活ではありません。勉学もしつつ、東大の名を背負って、他のスポーツ推薦ばかりの私立相手にスポーツでがんばっている運動部員たちをもっと見てほしいです。体育会系学生も減っているようですし。学校がサポートして下さい。
- 教員免許の認定科目がもう少しあれば、取りやすくて良いと思う。私は英語の免許取得に向け履修しているが「教科に関する科目」の「異文化理解」についての単位が特に取りづらい。自分の学部の必修とかぶっていたせいもあるが、他のものに比べ認定された授業が少ないように思う。1単位以上で良いにせよ、出来れば多めに授業を開講してほしい。
・教員免許をとる学生向けに2年生の頭あたりでガイダンス等実施してほしい。そうすれば早いうちに単位履修（特に「教科に関する科目」）出来て、就活の時期にたくさんの授業を取らずに済む。

〔教育男子〕

- 大学に求めることではないのかも知れませんが、課外活動と勉学の両立は若干難しいです。単なるサークルではなく、将来の事、社会の事も考えて、活動をしている学生に対し、単位や経済的な支援を検討いただくことはできませんでしょうか。大学生時代に学ぶことは、学問だけではないと思っています。
- 実際に大学に身を置いている学生に対してこのような調査を行うことは意義あることだと思う。難しいとは思いますが、できるだけ学生の生の声を今後の学校運営に活かしていただければと思う。
- 進学振り分け制度について、事前の学部・学科ガイダンスをもっと充実すべきだと思います。学部門での事

務手続きのフォーマットの統一、手続きのオンライン化を進めてほしいです。早い段階からのキャリア選択支援や卒業生との交流の機会があることは非常に意義深いと思うので、「知の創造的摩擦プロジェクト」を大学全体で推進して行ってほしいです。

- 大学のあるべき姿を考えるための、あくまでも一材料として調査が使われるように願います。

〔教育女子〕

- この調査について。いつも思うのですが、自宅外の学生にとって親の年取等はわからないし聞きづらいことなので、もう少し回答しやすい質問・選択肢を用意して欲しいです。また、どれにも当てはまらない・分からない（どちらでもない）場合の意思表示をする項目が無いものが多いので、徐々に回答する気力がなくなってきました。そのため、回収率も悪くなるのではないのでしょうか。

〔薬女子〕

- もっとアルバイトやボランティア活動、インターンなどのあっせんを行ってほしい。

〔薬男子〕

- 薬学部の拘束時間をなんとかして下さい。切実に

〔薬女子〕

- 修士や博士における無返還の奨学金が増えたらと思う。実験で忙しく、なかなかアルバイトをする暇を作れないので。

第57回（2007年）学生生活実態調査票

I. 基本的事項について伺います。

1. 性別	1. 男	1125人	76.6%	2. 女	343人	23.4%	
	無回答	0	0.0	合計	1,468	100.0	
2. 科類・学部 1・2年生の方は右の01から06までの該当する番号を記入してください。 3年生以上の方は右の11から21までの該当する番号を記入してください。	01. 文 I	110人	7.5%	02. 文 II	78人	5.3%	
	03. 文 III	125	8.5	04. 理 I	309	21.0	
	05. 理 II	132	9.0	06. 理 III	19	1.3	
	11. 法学部	119	8.1	12. 経済学部	73	5.0	
	13. 文学部	71	4.8	14. 教育学部	32	2.2	
	15. 教養(文系)	28	1.9	16. 教養(理系)	3	0.2	
	17. 理学部	73	5.0	18. 工学部	169	11.5	
	19. 農学部	56	3.8	20. 薬学部	23	1.6	
	21. 医学部	48	3.3	合計	1,468	100.0	
	3. あなたの出身高校は、どれに該当しますか。	1. 国立(大学附属)	154人	10.5%	2. 公立	506人	34.5%
3. 中高一貫型の私立		754	51.4	4. その他の私立	34	2.3	
5. 大学入学資格検定		4	0.3	6. 外国学校	13	0.9	
7. その他		3	0.2				
無回答		0	0.0	合計	1,468	100.0	
4. 現役・浪人等		1. 現役	1016人	69.2%	2. 1浪	388人	26.4%
		3. 2浪以上	29	2.0	4. 学士入学	16	1.1
	5. その他()	17	1.2				
	無回答	2	0.1	合計	1,468	100.0	
	5. 現在の学年	1. 1年	412人	28.1%	2. 2年	346人	23.6%
3. 3年		293	20.0	4. 4年	393	26.8	
5. 5年(医学・獣医)		14	1.0	5. 6年(医学・獣医)	10	0.7	
無回答		0	0.0	合計	1,468	100.0	
6. 入学年度		① 1996年	1人	0.1%	② 1998年	1人	0.1%
	③ 2001年	1	0.1	④ 2002年	21	1.4	
	⑤ 2003年	69	4.7	⑥ 2004年	340	23.2	
	⑦ 2005年	296	20.2	⑧ 2006年	327	22.3	
	⑨ 2007年	412	28.1	合計	1,468	100.0	
	7. 進学年度(後期課程の方のみ)	① 2000年	1人	0.1%	② 2002年	1人	0.1%
③ 2003年		1	0.1	④ 2004年	11	1.6	
⑤ 2005年		52	7.5	⑥ 2006年	340	48.9	
⑦ 2007年		284	40.9	⑧ 2008年	1	0.1	
無回答		4	0.6	合計	695	100.0	

II. 入学・進学・学業について

8. 東大を受験する際に東大に入学することをどの程度希望していましたか。	1. 東大にどうしても入りたかった	873人	59.5%
	2. 東大がダメなら他大学でもよいと思った	566	38.6
	3. 他大学がダメなら東大でもよいと思った	27	1.8
	無回答	2	0.1
	合計	1,468	100.0

9. 東大入学の動機は、どれにあたりますか。 (主たるものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 社会的評価が高いから	804人	54.8%			
	2. スタッフ・設備が優れているから	497	33.9			
	3. 将来の就職を考えて	445	30.3			
	4. 難関を突破したかったから	392	26.7			
	5. 私大に比べて授業料が安いから	601	40.9			
	6. 東大の伝統や雰囲気に憧れて	374	25.5			
	7. 入学後に学部の選択が可能だから	612	41.7			
	8. 親・兄弟・姉妹の勧めで	129	8.8			
	9. 高校の先生や友人などの勧め	209	14.2			
	10. その他	111	7.6			
	無回答	1	0.1	合計	1,468	100.0
10. 入学するときに進学する学部あるいは学科等を決めていましたか。	1. 学科等まで決めていた	362人	24.7%			
	2. 学部のみを決めていた	502	34.2			
	3. 学部・学科等は決めていなかった	604	41.1			
	無回答	0	0.0	合計	1,468	100.0
11. 学部・学科等の選択に際し、どのような点を重視しましたか(しますか)。 (主なるものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 最先端の学問・技術が学べること	282人	19.2%			
	2. 自分が惹きつけられた分野であること	1170	79.7			
	3. その学部・学科等の教員に魅力を感じること	172	11.7			
	4. 社会に役立つ度合いの大きい分野であること	316	21.5			
	5. 就職の際に企業等から高く評価されること	138	9.4			
	6. 就きたい職業に必要な能力を磨けること	436	29.7			
	7. 特に重視した(する)点はない	99	6.7			
	無回答	0	0.0	合計	1,468	100.0
進学内定者及び後期課程学生に伺います。 12. 進学の決定(内定)は、希望通りでしたか。	1. 希望通り決定(内定)した	880人	83.3%			
	2. ほぼ希望通り決定(内定)した	112	10.6			
	3. 希望通りでなかった	44	4.2			
	無回答	20	1.9	合計	1056	100.0
13. 現在在籍している学部・学科等(科類)に満足していますか。	1. 満足している	599人	40.8%	2. まあ満足している	509人	34.7%
	3. どちらとも言えな	172	11.7	4. やや不満である	97	6.6
	5. 不満である	52	3.5	無回答	39	2.7
	合計	1,468	100.0			
14. 進学振り分け制度についてどのように考えていますか。	1. 特に考えていることはない	465人	31.7%			
	2. 現行のままでよい	578	39.4			
	3. 入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい	133	9.1			
	4. 点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい	246	16.8			
	無回答	46	3.1	合計	1,468	100.0

15. 現在のカリキュラムに満足していますか。	1. 満足している	212人	14.4%	2. まあ満足している	618人	42.1%
	3. どちらとも言えない	271	18.5	4. やや不満である	241	16.4
	5. 不満である	96	6.5			
	無回答	30	2.0	合計	1,468	100.0
16. 現在のカリキュラムは消化できますか。	1. できる	610人	41.6%	2. まあできる	548人	37.3%
	3. 多少困難	236	16.1	4. できない	44	3.0
	無回答	30	2.0	合計	1,468	100.0
設問16で「3」または「4」と答えた方に伺います。 17. その理由はどれにあたりますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 進学・卒業に必要な単位数が多過ぎる				83人	29.6%
	2. 講義の内容が高度すぎて理解できない科目がある				156	55.7
	3. カリキュラムの組み方が不適切である				71	25.4
	4. 教育上の指導助言が十分でない				86	30.7
	5. 入試科目でないので勉強しなかった科目がある				26	9.3
	6. 高校までの勉強の仕方ではうまく適応できない				58	20.7
	7. 授業の予習と復習の時間が十分とれない				109	38.9
	8. 授業への自分の意欲や努力が足りない				113	40.4
	9. その他				29	10.4
	合計				280	100.0
18. 学部卒業後、どのような進路を予定していますか。	1. 大学院に進学する	774人	52.7%	2. 学士入学をする	9人	0.6%
	3. 就職する	421	28.7	4. 進学も就職もしない	8	0.5
	5. まだ決めていない	215	14.6	6. 起業する	4	0.3
	7. その他	8	0.5			
	無回答	29	2.0	合計	1,468	100.0
設問18で「1」と答えた方に伺います。 19. どこまで進学を予定していますか。	1. 大学院修士課程				495人	64.0%
	2. 大学院博士課程				204	26.4
	3. 専門職学位課程				70	9.0
	無回答	5	0.6	合計	774	100.0
設問18で「1」と答えた方に伺います。 20. その理由は、次のうちどれにあたりますか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. より高度の知識・技術を身に付けるため				538人	69.5%
	2. 大学の教育職に就くため				83	10.7
	3. 大学外で研究職に就くため				107	13.8
	4. 必要な資格を得るため				104	13.4
	5. 良い就職先を得るため				176	22.7
	6. まだ社会に出たくないから				109	14.1
	7. 就職先が決まらないから				11	1.4
	8. 周囲に勧められたから				20	2.6
	9. 大学院修了ということの社会的評価が高いから				94	12.1
	10. 学部での進路指導に従って				18	2.3
	11. その他				15	1.9
	無回答	66	8.5	合計	774	100.0

Ⅲ. 就職について

21. どのような職業に就きたいと思いますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 大学・公的機関の教育・研究職	593人	40.4%		
	2. 企業等の研究職	591	40.3		
	3. 技術職	443	30.2		
	4. 事務職	345	23.5		
	5. 教育職 (大学を除く)	129	8.8		
	6. 行政職 (公務員)	453	30.9		
	7. 専門職 (医師、法曹、公認会計士等)	484	33.0		
	8. マスコミ (新聞記者、放送記者、アナウンサー、プロデューサー等)	205	14.0		
	9. その他	91	6.2		
	無回答	12	0.8	合計	1,468
22. その職業に就きたいと考えるのは、どのような理由からですか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 人を助けたり社会に奉仕する	619人	42.2%		
	2. 安定した生活が保証されている	497	33.9		
	3. 十分な収入が期待できる	486	33.1		
	4. 自分の特技・能力や専門知識が活かせる	909	61.9		
	5. 華やかで、世間からもてはやされる	43	2.9		
	6. 社会的な地位・名声が得られる	215	14.6		
	7. 組織にしばられず、自由な活動ができる	240	16.3		
	8. 人や組織を動かすことができる	154	10.5		
	9. 独創性や創造性を発揮できる	421	28.7		
	10. その他	76	5.2		
無回答	13	0.9	合計	1,468	100.0

23. 仕事や職場を選ぶ際にどのようなことを重視しますか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. 給料がよい	608人	41.4%		
	2. 休みをとりやすい	152	10.4		
	3. 責任が軽い	32	2.2		
	4. 失業の心配がない	176	12.0		
	5. 福利厚生が充実している	111	7.6		
	6. 出世の見込みが多い	36	2.5		
	7. 技術や知識を身につけられる	266	18.1		
	8. 権限が大きい	46	3.1		
	9. やりがいがある	967	65.9		
	10. 能力が発揮できる	528	36.0		
	11. 人から評価される	154	10.5		
	12. 仕事を行う上で男女の差別がない	77	5.2		
	13. 将来発展する見込みがある	126	8.6		
	14. 職場が都心のオフィス街にある	22	1.5		
	15. 職場が自然環境のよい郊外にある	13	0.9		
	16. 海外勤務の機会が多い	40	2.7		
	17. 転勤が少ない	44	3.0		
	18. いろいろな人と知り合える	144	9.8		
	19. オフィスが新しくきれい	4	0.3		
	20. 職場の人間関係がよい	237	16.1		
	21. 職場が近い	32	2.2		
	22. 残業が少ない	44	3.0		
	23. 雇用が安定している	113	7.7		
	24. 世界的な仕事ができる	157	10.7		
	25. 英語(外国語)を使う機会が多い	22	1.5		
	26. 公務員である	40	2.7		
	27. その他	25	1.7		
	無回答	4	0.3	合計	1,468 100.0
24. あなたはこれまで就職活動をしたことがありますか。	1. ある	276人	18.8%	2. ない	1190人 81.1%
	無回答	2	0.1	合計	1,468 100.0
設問24で「1」と答えた方に伺います。 25. 就職活動として、どのようなことをしていますか(いましたか)。 (該当するすべての項目に「1」を記入してください。)	1. インターネット等で、情報を収集する	268人	97.1%		
	2. 企業等のセミナーや説明会に参加する	251	90.9		
	3. 就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する	62	22.5		
	4. 職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する	48	17.4		
	5. その他	20	7.2		
	合計	276	100.0		

26. 就職する場所はどこを希望しますか。	1. 東京圏（東京近郊）を希望する	800人	54.5%		
	2. 東京圏（東京近郊）以外を希望する	19	1.3		
	3. 出身地に近いところを希望する	84	5.7		
	4. 東京圏、東京圏以外どちらでもよい	447	30.4		
	5. 海外を希望する	73	5.0		
	6. その他	21	1.4		
	無回答	24	1.6	合計	1,468

IV. 不安・悩みについて

27. 現在の学生生活の中で、次の各項目について、どの程度悩んだり不安を感じたりしていますか。		よく悩む	ときに悩む	あまり悩まない	全く悩まない	無回答	平均
	(上段：人数、下段：%)	4	3	2	1		
	1. 勉学（成績・単位など）	359 24.5	587 40.0	384 26.2	133 9.1	5 0.3	2.8
	2. 学部進学や大学院進学	358 24.4	529 36.0	359 24.5	217 14.8	5 0.3	2.7
	3. 就職	445 30.3	537 36.6	326 22.2	154 10.5	6 0.4	2.9
	4. 将来の進路や行き方	650 44.3	533 36.3	213 14.5	67 4.6	5 0.3	3.2
	5. 友人との対人関係	173 11.8	440 30.0	619 42.2	231 15.7	5 0.3	2.4
	6. 教職員との対人関係	34 2.3	124 8.4	547 37.3	758 51.6	5 0.3	1.6
	7. 性・異性・恋愛・結婚	284 19.3	561 38.2	443 30.2	175 11.9	5 0.3	2.7
	8. 経済的なことや経済的自立	315 21.5	634 43.2	409 27.9	105 7.2	5 0.3	2.8
	9. 自分の性格	335 22.8	504 34.3	451 30.7	172 11.7	6 0.4	2.7
	10. 自分の体調や健康	150 10.2	389 26.5	610 41.6	313 21.3	6 0.4	2.3
11. 人生の意義・目標	368 25.1	529 36.0	368 25.1	198 13.5	5 0.3	2.7	

28. あなたは、不安や悩みを感じたとき、だれと相談したり、話し合ったりしますか。		よく相談する	ときどき相談する	たまに相談する	全く相談しない	無回答	平均
	(上段：人数、下段：%)	4	3	2	1		
	1. 父・母	214 14.6	352 24.0	572 39.0	324 22.1	6 0.4	2.3
	2. 兄弟・姉妹	38 2.6	137 9.3	315 21.5	936 63.8	42 2.9	1.5
	3. 学生相談所・保健センター	13 0.9	26 1.8	80 5.4	1341 91.3	8 0.5	1.1
	4. 大学の教職員	8 0.5	18 1.2	172 11.7	1262 86.0	8 0.5	1.2
	5. 大学内の同じ学科や研究室の友人	137 9.3	386 26.3	497 33.9	440 30.0	8 0.5	2.2
	6. 大学内のサークルや団体の友人	196 13.4	398 27.1	395 26.9	468 31.9	11 0.7	2.2
	7. 大学外の友人	182 12.4	382 26.0	474 32.3	424 28.9	6 0.4	2.2
	8. 先輩	84 5.7	267 18.2	463 31.5	646 44.0	8 0.5	1.9
	9. 恋人	203 13.8	185 12.6	180 12.3	855 58.2	45 3.1	1.8

29. あなたは最近6ヶ月の間に、次の項目について、体験したり悩んだりしましたか。

(上段：人数、下段：%)	よく	ときに	あまり体	全く体	無回答	平均
	体験する	体験する	験しない	験しない		
	4	3	2	1		
1. 強い不安に襲われた	254 17.3	485 33.0	413 28.1	311 21.2	5 0.3	2.5
2. 自分でもバカらしいと思う 考えが浮かんだり、自分の することを何度も確かめて みなければならなかった。	170 11.6	354 24.1	475 32.4	465 31.7	4 0.3	2.2
3. 人と話していてもとても緊張 したり、不安を感じた	144 9.8	394 26.8	489 33.3	436 29.7	5 0.3	2.2
4. 他人の人が自分に敵意を持 っている、人から監視され ていると感じた	65 4.4	205 14.0	425 29.0	768 52.3	5 0.3	1.7
5. バス・地下鉄・電車などの 乗り物に乗るのがこわかつ た	21 1.4	42 2.9	156 10.6	1245 84.8	4 0.3	1.2
6. 気分が落ち込んだり、何に も興味が持てなくなった	191 13.0	399 27.2	405 27.6	469 31.9	4 0.3	2.2
7. 人と一緒にいてもさびしい 感じがした	131 8.9	378 25.7	426 29.0	528 36.0	5 0.3	2.1
8. 体の病気でもないのに、息 切れ・めまい・動悸などが した	40 2.7	128 8.7	270 18.4	1025 69.8	5 0.3	1.4
9. イライラしたり、物を壊し たり人を傷つけたりしたい 衝動にかられた	96 6.5	257 17.5	409 27.9	702 47.8	4 0.3	1.8
10. やる気がなくなり、無気力 状態（アパシー）になった	184 12.5	381 26.0	393 26.8	506 34.5	4 0.3	2.2
11. ついつい過食してしまう傾 向があった	111 7.6	293 20.0	338 23.0	722 49.2	4 0.3	1.9
12. 食欲がなくなり、食べ物を 口にしたくないと思った	34 2.3	131 8.9	314 21.4	984 67.0	5 0.3	1.5

30. あなたの悩みや不安を解消するために、大学にどのような対応があればよいと思いますか。

(上段：人数、下段：%)	全くそう	まあそう	むしろ	全くそう	無回答	平均
	思う	思う	思わない	思わない		
	4	3	2	1		
1. 学生が教員や職員と接触する機会を増やす	103 7.0	489 33.3	512 34.9	356 24.3	8 0.5	2.2
2. 教務課や学生課などの事務機能を充実させる	112 7.6	413 28.1	573 39.0	364 24.8	6 0.4	2.2
3. クラス担任制度やチューター制度を充実させる	86 5.9	356 24.3	567 38.6	453 30.9	6 0.4	2.1
4. 学習方法や学習内容について相談機能を充実させる	157 10.7	565 38.5	453 30.9	286 19.5	7 0.5	2.4
5. 学部進学や大学院進学について相談機能を充実させる	294 20.0	640 43.6	331 22.5	197 13.4	6 0.4	2.7
6. 就職指導や進路相談の機能を充実させる	350 23.8	644 43.9	296 20.2	171 11.6	7 0.5	2.8
7. 健康相談や保健センターの機能を充実させる	174 11.9	529 36.0	507 34.5	251 17.1	7 0.5	2.4
8. 個人的な悩みの学生相談やカウンセリング機能を充実させる	153 10.4	504 34.3	514 35.0	289 19.7	8 0.5	2.4
9. 奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する	487 33.2	475 32.4	307 20.9	193 13.1	6 0.4	2.9
10. 学生同士が支え合うネットワークづくりを強化する	229 15.6	484 33.0	487 33.2	261 17.8	7 0.5	2.5

V. 大学への要望

31. 大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか。 (主なものを3つまで選び、番号を記入してください。)	1. カリキュラムの改革	427人	29.1%		
	2. 教室の充実	300	20.4		
	3. 実験室や実習室の充実	153	10.4		
	4. 教育スタッフの充実	187	12.7		
	5. 進学振分け制度の改善	270	18.4		
	6. 少人数教育の実施	262	17.8		
	7. 授業の方法の工夫・改善	535	36.4		
	8. 単位認定や学年試験を緩やかに	318	21.7		
	9. 単位認定や学年試験を厳しく	62	4.2		
	10. キャンパスの拡大・移転・統合	72	4.9		
	11. 図書館の充実	329	22.4		
	12. カウンセリング・相談体制の充実	85	5.8		
	13. 学生自治に対する適切な助成と助言	25	1.7		
	14. 学生自治の尊重	33	2.2		
	15. 奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額	498	33.9		
	16. 就職対策の充実	326	22.2		
	17. その他	84	5.7		
無回答	20	1.4	合計	1,468	100.0

32. 現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。 (それぞれの項目について、5段階の中から該当する番号を○で囲んでください。)	非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	平均
	(上段:人数、下段:%)	5	4	3	2		
1. 社会的貢献を促進するために、授業の外部開放を進める	97 6.6	165 11.2	542 36.9	518 35.3	142 9.7	4 0.3	2.7
2. 社会的貢献を促進するために、産学協同をより推進する	200 13.6	426 29.0	528 36.0	236 16.1	72 4.9	6 0.4	3.3
3. 社会的貢献を促進するために、直接的に社会的要請の高い研究を推進する	124 8.4	294 20.0	505 34.4	414 28.2	125 8.5	6 0.4	2.9
4. 社会的貢献を促進するために、(むしろ)基礎研究を充実させる	203 13.8	383 26.1	644 43.9	191 13.0	42 2.9	5 0.3	3.4
5. 研究の国際化を推進するため、研究者の交流をより積極的に進める	469 31.9	501 34.1	386 26.3	78 5.3	28 1.9	6 0.4	3.9
6. 研究の国際化を推進するため、国際共同研究をより推奨する	372 25.3	495 33.7	452 30.8	109 7.4	33 2.2	7 0.5	3.7
7. 教育の国際化を推進するため、日本から外国へ留学する機会をもっと拡大する	503 34.3	432 29.4	396 27.0	97 6.6	34 2.3	6 0.4	3.9
8. 教育の国際化を推進するため、外国からの留学生をより一層受け入れる	383 26.1	394 26.8	457 31.1	167 11.4	62 4.2	5 0.3	3.6

VI. 家庭の状況について

33. 家庭の所在地はどこですか。 都市規模が不明の場合は具体的に都市名を記入してください。	A. 地区					
	1. 東京都	444人	30.2%	2. 関東	474人	32.3%
	3. 北海道	18	1.2	4. 東北	53	3.6
	5. 中部	157	10.7	6. 近畿	138	9.4
	7. 中国	61	4.2	8. 四国	25	1.7
	9. 九州・沖縄	95	6.5	10. その他	3	0.2
	無回答	0	0.0	合計	1,468	100.0
	B. 都市規模					
	1. 大都市＝人口100万人以上				628人	42.8%
	2. 中都市＝人口10万人以上				609	41.5
	3. 小都市＝人口10万人未満				170	11.6
	4. 郡部				57	3.9
	無回答	4	0.3	合計	1,468	100.0
	具体的都市名 _____ 市					

34. 主たる家計支持者はだれですか。	1. 父	1326人	90.3%	2. 母	70人	4.8%
	3. 本人	3	0.2	4. 兄弟姉妹	0	0.0
	5. 祖父母	6	0.4	6. 配偶者	2	0.1
	7. だれと一口にいけない ⁴	47	3.2	8. その他 ()	14	1.0
	無回答	0	0.0	合計	1,468	100.0

35. 主たる家計支持者の職業はどれにあたりますか。					
1. 専門的、技術的職業	〔例えば（以下の選択肢についても同様）、科学研究者、技術者、医師、薬剤師、裁判官、検察官、弁護士、公認会計士、税理士、芸術家、宗教家、著述家、記者、俳優、職業スポーツ家、プログラマーなどの方〕	330人	22.5%		
2. 教育的職業	〔大学（研究所）、短大、高専の教授・助教授などの方、小・中・高校の教員（校長・副校長・教頭を含む。）、その他の教員（私塾等）〕	178	12.1		
3. 管理的職業	〔会社役員、課長以上の会社員、課長以上の公務員などの方〕	626	42.6		
4. 事務	一般事務（上記3を除く）の方	114	7.8		
5. 販売	〔小売店主、卸売店主、飲食店主、行商人、保険代理人、販売店員などの方〕	32	2.2		
6. 農・林・漁業		4	0.3		
7. 生産工程・採掘作業	〔金属工業、機械工業、繊維工業などの工程従事者の方、洋服仕立職、大工、印刷工、菓子製造工などの方、建設作業員、倉庫作業員、運搬作業員、配達作業員などの方、採掘作業員の方〕	50	3.4		
8. 運輸・通信・保安・サービス	〔鉄道・自動車の運転手、車掌、船舶乗組員、無線通信士、電話交換手などの方自衛官、警察官、消防士、守衛などの方、理容師、美容師、料理人、クリーニング職、給仕、下宿・アパート等の管理人、清掃員などの方〕	62	4.2		
9. 無職	〔不動産収入・金利・年金生活者などを含む。〕	46	3.1		
0. その他		19	1.3		
無回答	7	0.5	合計	1,468	100.0

36. 主たる家計支持者の勤務先（設問45の職業分類）の規模はどれにあたりますか。 （設問35で無職の場合は「0」と記入してください。）					
A. 職業が「1及び3～8」の方は次の中から選んでください。					
1. 従業員が1,000人以上の企業及び官公庁		595人	40.5%		
2. " 100人以上1,000人未満の企業		255	17.4		
3. " 10人以上100人未満の企業		184	12.5		
4. " 10人未満の企業		153	10.4		
B. 職業が「2. 教育的職業」の方は次の中から選んでください。					
5. 大学（研究所）、短大、高専の教授・助教授		72	4.9		
6. 小・中・高校の校長・教頭		25	1.7		
7. 上記5、6以外の教員		78	5.3		
0. 無職		40	2.7		
無回答	66	4.5	合計	1,468	100.0

37. 主たる家計支持者の雇用形態は大きく分けてどれに当たりますか。 (設問35で無職の場合は「0」と記入してください。)	1. 自分1人 (だれにも雇用されていない、まただれも雇用していない。)	94人	6.4%		
	2. 民間企業に勤務 (民間企業・団体の職員等)	815	55.5		
	3. 官公庁に勤務 (国・自治体、公共企業体の職員等)	328	22.3		
	4. 経営者・役員又は人を雇用している	151	10.3		
	0. 無職	42	2.9		
	無回答	38	2.6	合計	1,468
38. 主たる家計支持者の年収(税込み)はどれくらいですか。 (給与生活者の場合はボーナスも含めてください。)	年収を単位「十万円」で記入してください。……………	1,225人	101.70十万円		
				(十万円未満四捨五入して記入)	
	無回答	243	16.6	合計	1,468
39. あなたの家族の世帯年収(税込み)はどれくらいですか。 (給与生活者の場合はボーナスも含めてください。)	年収を単位「十万円」で記入してください。……………	1213人	116.04十万円		
				(十万円未満四捨五入して記入)	
	無回答	255	17.4	合計	1,468

VII. 生活費の状況について

40. 右の各欄に金額を記入してください。
(最近3ヶ月の実績から、平均1ヶ月の収支額を記入してください。)

(注)
食費
自宅生は外食代(費)を記入する。

勉学費
勉学に必要な書籍代、実習材料費、文房具代、実習旅費等
(授業料等の学校納付金を除く。)

教養・娯楽費
教養・娯楽費のための書籍代、サークルの支出、勉学以外の旅行の費用、交友費、スポーツ代、映画・演劇・音楽会の入場料等。

雑費
理・美容代、タバコ代、化粧品代、ガソリン代、電話代、医療費、水・光熱費等。

家庭からの仕送り・小遣い
親・兄弟・親類等からの仕送り、又は小遣い等。

1ヶ月の支出額を単位「千円」で記入してください。

衣料費	1,386人	9.87千円
食費	1,391	24.91
住居費	1,335	33.08
勉学費	1,381	9.15
教養・娯楽費	1,388	14.49
通学費	1,374	7.01
雑費	1,372	10.70
支出額合計	1,369	106.17

1ヶ月の収入額を単位「千円」で記入してください。

家庭からの仕送り・小遣い	1,400	61.36千円
奨学金	1,309	13.32
アルバイト・雑収入	1,368	33.91
収入額合計	1,371	105.79

41. 授業料はどのように負担していますか。

1. 家庭からの仕送り・小遣い	1,271人	86.6%
2. 奨学金	75	5.1
3. アルバイト・雑収入	10	0.7
4. 授業料免除	43	2.9
5. その他	24	1.6
無回答	45	3.1
合計	1,468	100.0

VIII. 通学・住居について

42. 現在どこに住んでいますか。	1. 足立・葛飾・荒川			27人	1.8%	
	2. 江戸川・江東・墨田			28	1.9	
	3. 台東・文京・豊島			263	17.9	
	4. 千代田・中央・港			29	2.0	
	5. 板橋・練馬・北			83	5.7	
	6. 中野・杉並・新宿			154	10.5	
	7. 世田谷・渋谷・目黒			245	16.7	
	8. 品川・大田			25	1.7	
	9. 東京都（23区外）			205	14.0	
	10. 横浜市			118	8.0	
	11. 川崎市			47	3.2	
	12. 神奈川県（「10」・「11」を除く）			51	3.5	
	13. さいたま・川口・蕨の各市			41	2.8	
	14. 埼玉県（「13」を除く）			56	3.8	
	15. 千葉・船橋・市川・習志野の各市			30	2.0	
	16. 千葉県（「15」を除く）			48	3.3	
	17. その他の県			14	1.0	
	無回答	4	0.3	合計	1,468 100.0	
43. 居住形態はどれにあたりますか。	1. 自宅	778人	53.0%	2. 自宅外	683人 46.5%	
	無回答	7	0.5	合計	1,468 100.0	
44. ◎自宅外の方に伺います。現在住んでいる住居の区分はどれにあたりますか。	1. 分譲マンション			24人	3.5%	
	2. 賃貸マンション・アパート（バスつき）			461	67.5	
	3. アパート（バスなし）			32	4.7	
	4. 下宿			19	2.8	
	5. 東大学寮・三鷹国際学生宿舎			43	6.3	
	6. その他の寮			89	13.0	
	7. その他			11	1.6	
		無回答	4	0.6	合計	683 100.0
45. 多少入居者の負担が増えても学寮・学生宿舎等の建設を促進すべきだと思いますか。	1. そう思う	575人	39.2%	2. そうは思わない	250人 17.0%	
	3. どちらとも言えない	447	30.4	4. 自分には関係がない	178 12.1	
	5. その他	4	0.3			
		無回答	14	1.0	合計	1,468 100.0

46. あなたが通学に利用している交通機関を記入してください。 (移動時間の多いものを選び、番号を記入してください。)	1. 電車	1,129人	76.9%	2. バス	8人	0.5%
	3. 自家用車	3	0.2	4. バイク	7	0.5
	5. 自転車	247	16.8	6. 徒歩のみ	68	4.6
	7. その他 ()	0	0.0			
	無回答	6	0.4	合計	1,468	100.0
	47. 片道の通学所要時間はどれくらいですか。 (分単位で記入してください。)					
	所要時間					1,468人

IX. 奨学金について

48. 日本学生支援機構又は他の団体から定期的に奨学金を受けていますか。	1. 受けている	310人	21.1%			
	2. 受けたいが受けられなかった	225	15.3			
	3. 受けたくない	63	4.3			
	4. 受ける必要がない	859	58.5			
	無回答	11	0.7	合計	1,468	100.0
設問48で「2」または「3」と答えた方に伺います。 49. その理由はどれにあたりますか。	1. 出願はしたが採用されなかった	49人	17.0%			
	2. 書類を期限までに整えられなかった	17	5.9			
	3. 貸与なので申請しなかった	65	22.6			
	4. 事務手続きが煩雑だから	30	10.4			
	5. 掲示等に気がつかなかった	36	12.5			
	6. 資格がない	69	24.0			
	7. その他 ()	19	6.6			
	無回答	3	1.0	合計	288	100.0
設問48で「2」または「3」と答えた方に伺います。 50. これから受けたいと思いますか。	1. 受けたい	189人	65.6%	2. 受けたくない	69人	24.0%
	無回答	30	10.4	合計	288	100.0
奨学金を受けている方に伺います 51. どの奨学金を受けていますか。 (該当する番号を記入してください。)	1. 日本学生支援機構第一種奨学金 (無利息奨学金)	143人	46.1%			
	2. 日本学生支援機構第二種奨学金 (利息付奨学金)	139	44.8			
	3. 財団・地方公共団体等の奨学金	82	26.5			
	無回答	2	0.6	合計	310	100.0
奨学金を受けている方に伺います 52. 奨学金はどんな面で役に立っていますか。 (主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)	1. 家庭の経済的負担が軽減される	247人	79.7%			
	2. 多少ともゆとりのある生活ができる	68	21.9			
	3. アルバイトが軽減される	61	19.7			
	4. 奨学金があるので生活が成り立っている	108	34.8			
	5. 定期的な収入になるので助かる	54	17.4			
	6. その他 ()	5	1.6			
	無回答	0	0.0	合計	310	100.0

奨学金を受けている方に伺います

53. 奨学金の主たる支出目的
(用途)はどれにあたり
ますか。
(主なものを3つまで選び、
番号を記入してください。)

1. 生活費 (衣・食・住居費)	228人	73.5%
2. 授業料	115	37.1
3. 勉学費	149	48.1
4. 教養・娯楽費	104	33.5
5. 旅行 (帰省旅行も含む)	27	8.7
6. 技術・資格等取得の費用	8	2.6
7. 耐久消費財購入費用	12	3.9
8. 貯金	45	14.5
9. その他 ()	3	1.0
無回答	3	1.0
合計	310	100.0

X. アルバイトについて

54. 過去一年間にアルバイト
をしましたか。

1. 継続的 (1ヶ月以上) アルバイトをした	829人	56.5%
2. 臨時 (1ヶ月未満) アルバイトをした	158	10.8
3. 継続的+臨時アルバイトをした	210	14.3
4. しなかった (「4」を選んだ方は設問65に進んで下さい。)	270	18.4
無回答	1	0.1
合計	1,468	100.0

55. そのアルバイトの種類は
どれにあたりますか。
(主なものを2つまで選び、
番号を記入してください。)

1. 家庭教師	441人	36.8%
2. 塾講師	444	37.1
3. 試験監督・採点	191	16.0
4. 特殊技術 (翻訳、通訳、プログラミング等) を要すること費	64	5.3
5. 一般事務	150	12.5
6. 販売・セールス・サービス業	313	26.1
7. 肉体労働	109	9.1
8. 宿直・警備	10	0.8
9. その他 ()	90	7.5
無回答	4	0.3
合計	1,197	100.0

アルバイトをした方に伺います

56. アルバイトに費やす時間
と収入額はどれくらいで
したか。

A. 時間 (往復時間を含め、一週間当たりの平均時間を記入してください。)	1,174人	98.1%	10.88時間
無回答	23人	1.9%	
合計	1,197人	100.0%	
B. 収入額 (1ヶ月当たりの平均額を単位「千円」で記入してください。)	1,176人	98.2%	47.35千円
無回答	21人	1.8%	
合計	1,197人	100.0%	

57. アルバイトの紹介者は誰でしたか。
(主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)

1. 大学の担当事務	114人	9.5%		
2. 指導教員	30	2.5		
3. 内外学生センター	11	0.9		
4. 新聞広告・アルバイト広告誌	154	12.9		
5. インターネット	449	37.5		
6. 友人・知人等	507	42.4		
7. アルバイト先と直接	277	23.1		
8. スーパー・銀行等の伝言板	6	0.5		
9. その他 ()	72	6.0		
無回答	3人	0.3%	合計	1,197人 100.0%

58. アルバイトをした理由はどれにありましたか。

アルバイトをした方に伺います

1. 生活費を稼ぐため	396人	33.1%		
2. 勉学費を稼ぐため	50	4.2		
3. 学生生活を楽しむため	357	29.8		
4. 社会経験のため	349	29.2		
5. その他 ()	40	3.3		
無回答	5人	0.4%	合計	1,197人 100.0%

59. アルバイトの収入は何に使っていましたか。
(主なものを2つまで選び、番号を記入してください。)

1. 生活費 (衣・食・住居費)	626人	52.3%		
2. 授業料	20	1.7		
3. 勉学費	145	12.1		
4. 教養・娯楽費	823	68.8		
5. 旅行 (帰省旅行も含む)	227	19.0		
6. 技術・資格等取得の費用	16	1.3		
7. 耐久消費財購入費用	19	1.6		
8. 貯金	263	22.0		
9. その他 ()	15	1.3		
無回答	3人	0.3%	合計	1,197人 100.0%

設問54で「1」または「3」と答えた方に伺います。
60. 継続的アルバイトは勉学の妨げになりませんか (でした) か。

1. かなり妨げになる (なった)	100人	9.6%		
2. 多少妨げになる (なった)	459	44.2		
3. 妨げにならない (なかった)	420	40.4		
無回答	60人	5.8%	合計	1,039人 100.0%

61. 現在の暮らし向きについてどうお考えですか。

1. かなり楽な方	401人	27.3%	2. やや楽な方	290人	19.8%
3. 普通	495	33.7	4. やや苦しい方	171	11.6
5. 大変苦しい方	43	2.9	6. 分からない	8	0.5
無回答	60	4.1	合計	1,468	100.0%

62. 設問59で「8」と答えた方に伺います。貯金の目的はどれですか。	1. 将来の生活費（衣・食・住居費）	85人	32.3%		
	2. 将来の勉強費	54	20.5		
	3. 教養・娯楽費	82	31.2		
	4. その他	26	9.9		
	無回答	16人	6.1%	合計	263人 100.0%

X I . 生活時間について

63. あなたは、平日（月曜日～金曜日）に、右に挙げたことに、1日平均でどれくらいの時間を使いますか。	1. 睡眠	1,451人	6時間43分			
	2. 食事・団らん	1,445	1時間39分			
	3. 身のまわりの用事（洗顔・化粧・身支度・入浴）	1,431	1時間 9分			
	4. アルバイト	835	1時間57分			
	5. 大学での学習	1,376	5時間 1分			
	6. 自宅・図書館等での学習	1,217	1時間59分			
	7. 大学以外の教育機関での学習	123	2時間 5分			
	8. 課外活動（サークル・部活動）	793	2時間 4分			
	9. 家事	959	49分			
	10. 通学（往復）	1,438	1時間39分			
	11. 電話（携帯メールを含む）	1,160	31分			
	12. 会話・交際	1,261	1時間18分			
	13. レジャー・スポーツ	511	1時間 5分			
	14. テレビ・ラジオ	1,040	1時間18分			
	15. 新聞・雑誌	924	30分			
	16. 読書	948	50分			
	17. CD・ビデオ・映画など	710	56分			
	18. インターネットやゲーム	1,284	1時間29分			
	19. その他	392	1時間33分			
64. どのくらい外食をしていますか。	1. 平日で一日2回以上	194人	13.2%	2. 平日で一日1回	486人	33.1%
	3. 週に3, 4回	236	16.1	4. 週に1, 2回	236	16.1
	5. ほとんど外食しない	153	10.4			
	無回答	163	11.1	合計	1,468	100.0%
	65. あなたの平均的な下校時間は何時位ですか。				1,289人	17時55分

※学生生活実態調査は、本年（2008年）も引続き行っています。

君たちの

第58回

東京大学

声を

学生生活実態調査に



アンケート届いた？
マークシート方式だってね。

ええ、届いたわ。
私はもう出したけど。
学生のための施設がきれいに整備されたり、授業料免除制度等の充実はこのアンケートのおかげよ。
思いを伝える良いチャンスね！
私たちの希望も書こうよ！！



調査にぜひ答えてください

学部学生のおよそ1/4に調査票が送られます。
メ切は12月19日(金)です。

学生生活委員会学生生活調査室

平成20年11月現在

調査室長	下山 晴彦 (大学院教育学研究科・教育学部)
副調査室長	下田 正弘 (大学院人文社会系研究科・文学部)
室 員	高原 明生 (大学院法学政治学研究科・法学部)
◇	上別府 圭子 (大学院医学系研究科・医学部)
◇	前田 康二 (大学院工学系研究科・工学部)
◇	青木 健一 (大学院理学系研究科・理学部)
◇	高橋 伸一郎 (大学院農学生命科学研究科・農学部)
◇	新宅 純二郎 (大学院経済学研究科・経済学部)
◇	竹村 文彦 (大学院総合文化研究科・教養学部)
◇	金井 求 (大学院薬学系研究科・薬学部)
◇	佐々木 司 (学生相談ネットワーク本部)
◇	矢野 由美 (本部統括長 (教育・学生支援系))
◇	千明 賢治 (本部学務グループ長 (教育・学生支援系))

調査集計担当 本部学務グループ (教育・学生支援系)

◆ 表紙写真 ◆

中央 駒場キャンパス銀杏並木
右上 安田講堂
右中央 アンケートに答える学部生 (駒場)
右下 工学部2号館付近榎並木
左上 中央図書館
左中央 安田講堂内
左下 工学部1号館前大銀杏
※ 秋色に色づいて行く木々の姿、および歴史ある建物と若さ溢れる学生とのコントラストをテーマに撮影
撮影者：教育学研究科臨床心理学コース
平 林 恵 美

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。

No.1380 2008年12月5日

東京大学広報委員会

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報グループ

TEL：03-3811-3393

e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

<http://www.u-tokyo.ac.jp>